

# JFA news

特集

7 NO.495  
2025.  
月情報号

## 日本フットサル 目指すは 世界の頂

小西鉄平 JFAフットサルテクニカルダイレクター

高橋健介 フットサル日本代表監督

須賀雄大 フットサル日本女子代表監督

選手に聞く

伊藤圭汰選手 (ベスカドーラ町田)

× 山田凱斗選手 (しながわシティ)

伊藤果穂選手 (バルドラール浦安ラス・ポニータス)

× 井上ねね選手 (立川アスレティックFCレディーズ)





F50



スピード、爆烈。



アディダス 最新スパイクはこちらをチェック



## 特集

# 日本フットサル、 目指すは世界の頂



※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。  
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真：  
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、  
©F.LEAGUE、©Walnix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

## JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

## JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

## JFAのバリュー

- エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
- プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
- フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
- チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
- リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

## CONTENTS

004 **小西鉄平** JFAフットサルテクニカルダイレクター

007 **高橋健介** フットサル日本代表監督

009 **須賀雄大** フットサル日本女子代表監督

### 011 選手に聞く

伊藤圭汰選手 (バスカドーラ町田) × 山田凱斗選手 (しながわシティ)

伊藤果穂選手 (バルドラール浦安ラ・ボニータス) × 井上ねね選手 (立川アスレティックFCレディース)

## 日本代表

058 **SAMURAI BLUE**

FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)  
vs オーストラリア代表、インドネシア代表

060 **なでしこジャパン**

国際親善試合 vs ブラジル女子代表  
国際親善試合 vs スペイン女子代表

063 **U-16日本代表**

U-16インターナショナルドリームカップ2025 JAPAN

## 大会・試合

064 メットライフ生命Fリーグ2025-26 ディビジョン1・2開幕

066 メットライフ生命日本女子フットサルリーグ2025-26開幕

067 JFA 第24回全日本O-50サッカー大会

## 特別企画

068 海堀あゆみWEリーグ理事インタビュー

## 連載

018 短期連載 **第14回フットボールカンファレンス**  
「第6回(最終回):日本サッカーの進む先とは」

020 隔月連載 **My Coaching**  
**深江鷹志**  
「コンセプトは『圧倒的自立』」

022 **日本全国FAコーチ巡り**  
**千葉県サッカー協会**  
「『新サッカー王国・千葉』の復活のために」

024 **いつも心にリスペクト**  
**大住良之**  
「手に当たっちゃったんだ」

025 隔月連載  
**JFAの所蔵品からひもとく日本サッカーの歴史**  
「JFAシンボルマーク」

017 JFA情報発信局

026 月刊レポート

034 2025/26サッカー競技規則の改正

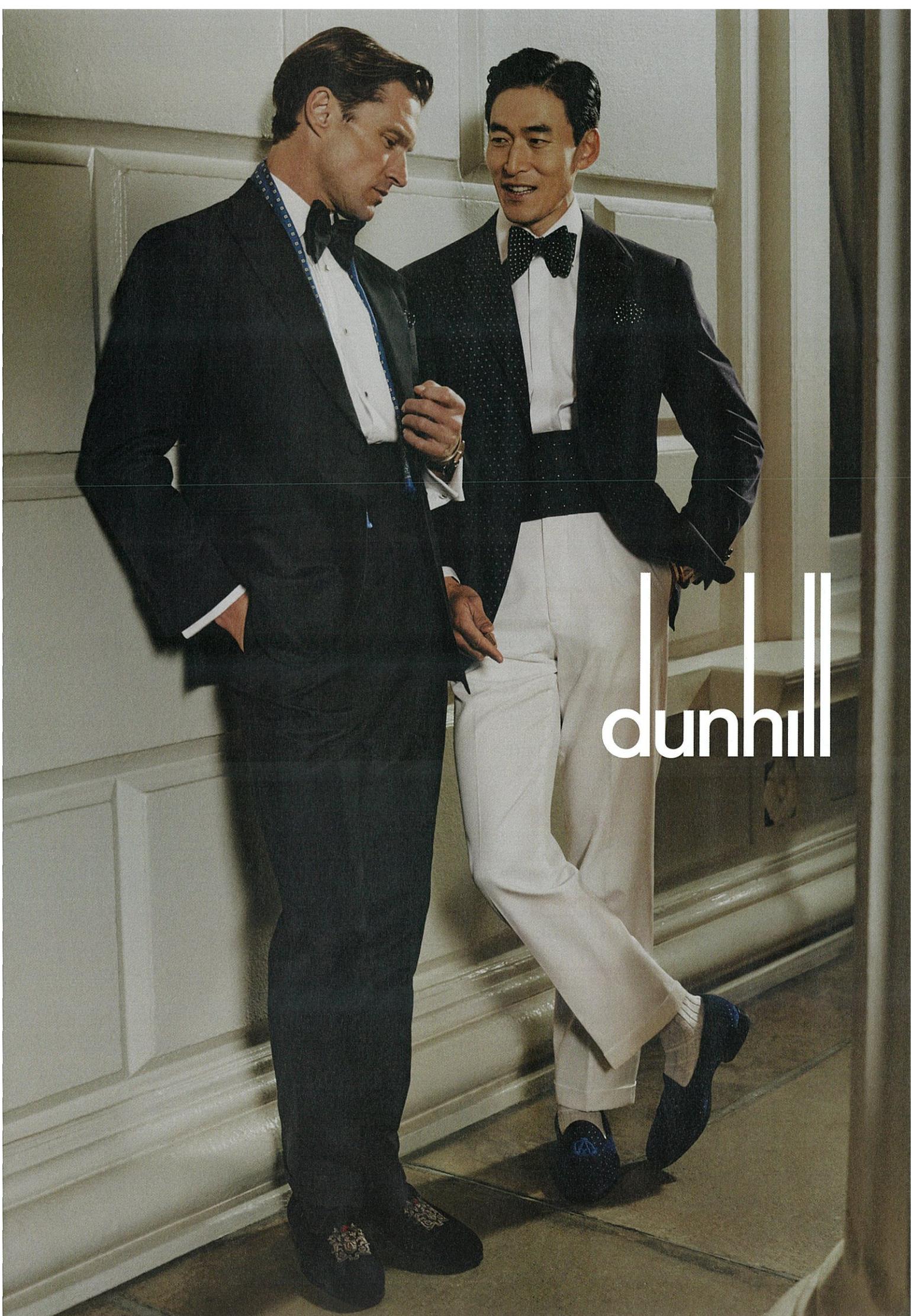
039 蹴球通信

045 会議レポート

047 データボックス

056 サッカーファミリー広場

072 次号予告



dunhill

**特集** 日本フットサル、  
目指すは世界の頂

# 可能性を現実にするために 一歩ずつ全力で前に進む

日本フットサル界の大きな目標は、2036年のFIFAフットサルワールドカップで優勝することだ。日本サッカー協会（JFA）はその目標に向けて、日本フットサルトップリーグと共に強化に取り組んでいる。また、女子フットサル初のFIFAフットサル女子ワールドカップも今年11月、フィリピンで開幕する。すでに出場権をつかんでいるフットサル日本女子代表も、世界の舞台に向けて準備を進める。

今号では、小西鉄平JFAフットサルテクニカルダイレクターと男女日本代表の高橋健介監督、須賀雄大監督にインタビューを実施。トップリーグでプレーする選手たちにも、フットサルや代表チームへの思いを語ってもらった。





INTERVIEW

# 小西鉄平

JFAフットサルテクニカルダイレクター

## 組織間の連携を深め、 さらなる躍進へ

日本フットサルを統括する日本サッカー協会（JFA）の小西鉄平 JFAフットサルテクニカルダイレクターに、フットサル日本代表の強化方針や今後の展望、フットサル日本女子代表への期待について聞いた。

○取材日：2025年6月16日

マッチメイクの適正化と選手層の拡充がテーマ

—現在の技術委員会フットサル・ビーチサッカー部会の体制を教えてください。

**小西** 技術委員会の中に六つの部会があり、その一つがフット

サル・ビーチサッカー部会です。JFAのスタッフとFリーグ（日本フットサルリーグ）、日本フットサル連盟、日本ビーチサッカー連盟のメンバーで構成されていて、フットサルの男子と女子、ビーチサッカーの3カテゴリーに対して、それぞれ六つずつのタスクを管理しています。

—六つのタスクについて教えてください。

**小西** まずはマネジメント&リソース。男女のフットサルとビーチサッカーをどうマネジメントするか、その際のリソースとして何が必要で、どのような人材を入れるべきかを考えます。二つ目は競技環境の整備、三つ目はタレントIDですね。才能豊かな選手をどのように見つけていくかという部分です。四つ目はエリート

ユースで、ユースカテゴリーの有望な選手をどうやって強化につなげていくかにアプローチしており、五つ目は指導者養成、最後は日本代表です。男女のフットサル、ビーチサッカーそれぞれにタスクがあります。

—技術委員会とはどのような連携を取っているのでしょうか。

**小西** タスクの洗い出しや管理はフットサル・ビーチサッカー部会が主体となっており、それを毎月の技術委員会でも共有しています。また、代表監督の決定や部会員の追加・削除など人事に関する部分は技術委員会のマターになりますので、まずはわれわれフットサルやビーチサッカーの専門家たちで人選を進めた上で、どういう人を候補にしたか、その理由も添えて技術委員会に上程し、技術委員会が検討した上でJFA全体で可否を取る形となっています。

—代表監督の人選で重視されていることを教えてください。

**小西** 指導者としてのスキルはもちろんですが、まずは日本代表の監督として、周囲とコミュニケーション



日本が2036年のワールドカップで優勝するためには複数の若手が2028年大会に出場し、経験を積んでおく必要がある

シヨンが取れるかどうかを見ます。日本人か外国籍の指導者かは問いません。人とのコミュニケーションが好きで、それが得意かどうか大きなポイントです。代表の活動をしていると、1年に数回は難しい状況に直面します。そういうときに迷いなく、臆することなく周囲と会話できることが第一条件だと考えています。

競技面に関しては、代表チームとしてFIFAフットサルワールドカップでベスト8以上を目指していますので、一度でもそれを経験したことがある人や、それに準ずる成績を残している人、世界のトップリーグで活躍している人を、日本人であればFリーグでの成績だけでなく、チームをどうマネジメントし、ビルドアップしているかを見ながら候補者をリストアップし、絞り込んでいきます。

——フットサル日本代表はAFCフットサルアジアカップタイ2024でグループステージ敗退となり、FIFAフットサルワールドカップウズベキスタン2024への出場を逃しました。代表強化や日本が進むべき道という点で、この1年ほどのような期間でしたか。

小西 大会後

に就任した高橋健介監督と話をしながら、次のワールドカップが行われる2028年に向けての強化方針を作成しました。一つ目の指針は、マッチメーカーの適正化です。近年、アジアではタジキスタンやキルギスといったチームが急激に力をつけてきており、昨年のアジアカップではそういった国々に勝てなかったことでワールドカップ出場を逃しました。日本がアジアのリーディングカントリーであることを示すべく、昨年9月にキルギスと対戦し、勝利することができました。今年3月にはパラグアイ遠征を実施しました。個の能力の高さが軸になる南米のチームはわれわれが苦手とする相手ですので、過去に4回対戦して一度も勝てていなかったパラグアイを相手に選び、初勝利を収めました。

もう一つの指針は選手層の拡充です。今の代表メンバーは半数くらいが年代別代表の経験者で、若い才能をうまく吸い上げることができていますし、招集した選手は必ず試合で起用し、経験を積ませるようにしています。

毎週の定例会を通して選手の最新情報を共有

——あらためて、フットサル日本代表の強化ビジョンを教えてください。

小西

2028年のワールドカップに出場することが直近の目標です。FIFAランキングをアップさせ、ワールドカップで有利なポットに入るためにも、来年1月にインドネシアで行われるアジアカップで優勝することを目指します。その先の大きな目標としては、「2036年のワールドカップ優勝」があります。これを掲げたのは2016年頃で、当初は関係者への浸透度も低かったのですが、今はFリーグの皆さんも代表に来る選手たちもそれを理解してくれています。特にU-18やU-20代表の選手たちは、彼らが20代後半から30代前半という成熟期になったタイミングで迎えることになりましたので、事あるごとに伝えるようにしています。

——今年は1月から2月にかけてIndonesia Futsal World 4s Seriesに参加し、3月にはパラグアイに遠征して国際親善試合を戦いました。

小西 インドネシア遠征は、Fリーグが佳境に入っていたこともあり、上位クラブの主力選手を招



小西テクニカルダイレクターは「女子ワールドカップでは優勝が現実的な目標」とフットサル日本女子代表にも期待を寄せる

集みませんでした。代わりに今まで呼びたかったけれども呼べなかった選手を招集できましたので、選手層の拡充という目標に向けて有益な活動だったと思います。インドネシア、サウジアラビア、アルゼンチンと対戦し、勝利できたのはサウジアラビア戦だけでしたが、経験のまだ少ない選手たちが真剣勝負の雰囲気の中、強度の高い試合ができたのは大きかったと思います。

先ほどもお話しした通り、パラグアイ遠征では苦手なタイプと対戦しました。木暮賢一郎前監督の頃から掲げているムービングフットサルにプラスして、高橋監督が掲げている「リードする」フット



昨年、U-18フットサル日本代表が新たに設けられた。早い段階で優れた選手を発掘し、育てることが未来につながる

サルにチャレンジしました。「リード」には「LEAD」、つまり攻守両面、それぞれのエリアにおいて一人一人がチームを引っ張ることで、相手が何を考えているのかを読むことを目標として臨みました。

4-0で勝利した1試合目はそういうものが全て出た良いゲームでしたが、1-3で敗れた2試合目は局地戦において相手のうまさ、強さが出て、こちらはやってはいけないミスをしていたので、課題が残りました。

——高橋監督やコーチングスタッフとは、普段どのようにコミュニケーションを取って活動されているのでしょうか。

小西 毎週火曜日に2時間程

度の定例会を開き、コーチングスタッフフットサルの視察で得た選手の情報を共有しています。各選手については、試合の中でシュートを何本打ったのか、インターセプトは何回あったか、誰と一緒にプレーしている時に点を取っているか、といった細かい情報を全てデータベース化しているのですが、これらの数値では測れない主観的な部分について会話をしています。高橋監督だけでなく、コーチングスタッフやチームスタッフ全員が発言し、検討すべきこと、解決すべきことをシェアするようにしています。私からは強化策の進捗状況や今後のマッチメーカーの方針などについて話をします。

——女子代表のスタッフも定例会に参加しているのでしょうか。

小西 女子は、須賀雄大監督以外は常駐スタッフではありません。定例会には参加していません。須賀監督とは高円宮記念JFA夢フィールドで顔を合わせる機会がありますので、そのときにコミュニケーションを取るようにしています。ただ、コーチングスタッフ全員と定期的にコミュニケーションが取れない点は課題でもありますので、今後、議論するべき部分です。

トレセン活動を地域に委ね

JFAでは年代別代表の活動を

——フリーグ、女子フリーグ（日本女子フットサルリーグ）との連携についてはいかがでしょうか。

小西 組織同士という観点で見ると、フリーグ、女子フリーグともに決定機関である実行委員会を持っていて、そのメンバーにJFAのスタッフが参加して協力体制を築く努力をしています。主に議論されるのは代表活動とのスケジューリング調整ですね。特に女子は男子と違ってFIFAインターナショナルウィンドウがありませんので、代表の大会とその準備期間に合わせて、リーグ戦の中断を交渉するなどしています。男子についても、インターナショナルウィンドウの直前は日曜日のゲームを入れないでほしいなど、細かい調整をしています。こうした協力体制が築けていることは、日本のフットサル界にとって大きなプラスです。

としては、24年にU-18フットサル日本代表を新設し、たとえ頻度が少なくても、代表活動を実施することを優先しています。各地域のリーグ環境整備や、そこでのトレセン活動、選抜活動はフットサル連盟や各地域に委ねたいという思いがあります。環境が整備されれば選手にとってチャンスも増えますし、年代別代表が活動していれば、地域トレセンや選抜活動から年代別代表へと進む道ができますので、そのように決断しました。

今年4月1日に就任した佐藤亮育成ダイレクターには、各地で行われているJFA全日本U-18フットサル選手権大会の地域予選に行つて有望な選手をチェックしてもらっています。視察に行くことで年代別代表の存在を周知できますし、選手に刺激を与えることもできます。佐藤ダイレクターが収集した情報を高橋監督と共有し、全日本U-18選手権の後に実施予定の国内合宿に呼ぶ選手をセレクトする予定となっています。

——2022年23年には、「JFA U-18フットサルタレント育成普及事業」を行いました。現在、育成から強化への流れはどのようにつくろうとされているか教えてください。

小西 今はトレセンに該当するものは実施していません。JFA

——今年はFIFAフットサル女子ワールドカップがフィリピンで初開催されます。同大会への期待や目標を教えてください。

小西 目標はもちろん優勝です。須賀監督ともそのように話をしていますし、監督も選手にそう伝えていきます。これは現実的な目標だと思います。われわれはアジアのチャンピオンとして女子ワールドカップに臨みます。アジアのレベルは非常に高いですし、日本には、ブラジル、スペイン、ポルトガルに匹敵する力があると思っています。優勝する可能性はあります。まずはその可能性を大きくするためにベスト4まで勝ち進み、最大の目標である優勝に挑むことを期待しています。



5月にAFC女子フットサルアジアカップ中国2025を制したフットサル日本女子代表。次の舞台は女子ワールドカップだ

# 規律をベースに、一つずつ自信を積み重ねる



昨年7月からフットサル日本代表を率いる高橋健介監督に、就任以降、およそ1年の歩みや今後チームが進むべき道について話を聞いた。

取材日：2025年6月19日

## INTERVIEW 高橋健介

フットサル日本代表監督

それぞれのスタッフに  
独自の持ち味がある

——無念のAFCフットサルアジアアカップ敗退から1年2カ月がたちました。コーチを務められた同大会を終え、昨年7月にフットサル日本代表監督に就任されました。これまでを振り返っていかがですか。

**高橋** 責任を強く感じ、どのように次につなげていくかを自問自答しています。敗退が決まった試合後の光景がいつも思い出されます。選手が落胆することがないように、われわれは何をすべきか考えながらチーム強化に当たっています。

——日本代表が2016年にワールドカップ出場を逃したときはバルドラール浦安でプレーされていましたが、その年に選手引退を表明されました。今回は監督として関わられ、当時と異なる感情をお持ちになったのでは。

**高橋** 全く違いますね。16年はチームの練習とフットサル日本代表の試合が重なっていたので、後から結果を知りました。今回はチームづくりのプロセスも含め、全てを見てきました。収穫もたく

さんあり、活動してきた全部が否定されるものではありませんが、日本代表は結果が全てだということとあらためて痛感しました。その経験を経て、今後、克服すべき点などを慎重に精査しながら活動を進めています。

——その活動を支えるスタッフには、16年からコーチングスタッフを務める内山慶太郎GKコーチに加え、昨年12月に谷本俊介コーチ、今年3月には佐藤亮コーチ兼フィジカルコーチが就任されました。それぞれの役割を教えてください。

**高橋** 僕がチーム全体を見て、内山コーチはGKのスカウティングを中心に、谷本コーチはセットプレーを重点的に見えています。佐藤コーチはフィジカルコーチ兼任です。その中で、ステップニングなどフィジカルとの関連性の高い守備面を中心に見てもらっています。活動が長期にわたる場合は、JFAフィジカルフィットネスプロジェクトと連携しながらコンディショニングコーチが遠征に帯同し、メデイカルスタッフと連携して選手のフィジカル面をサポートしていきます。毎週、必ず全体ミーティングをして、現地視察や映像で見たものと

データを重ね合わせ、選手の発掘やこれまで招集してきた選手のパフォーマンスを評価しています。

——高橋監督はフットサルインドネシア代表の指揮を執った経験があり、内山GKコーチは長く日本代表に携わっています。谷本コーチはウィツセル神戸、佐藤コーチは大阪成蹊大学と、さまざまなか所でキャリアを積んできたスタッフが集まっています。それぞれが異なる経験を持ち寄ることによるメリットはありますか。

**高橋** 内山コーチは、今の日本で彼を超えるGKコーチはいないのではないかと思うほどのスペシャリストです。GKコーチとしての実績と実力は言うまでもなく、フットサルに向き合う姿勢と野心はフットサル日本代表の大きな力になっています。またGKコーチとしての活動のみならずGKプロジェクトのリーダーとして、GKの育成・発掘・指導者養成にも力を注いでいる実力と情熱を兼ね備えた正にスペシャリストです。谷本コーチはFリーグで長きにわたって監督として結果を残した優秀な指導者です。さらにサッカークラブでの指導を経験したことで、グローバルな視点を持っています。私とは違う観点から物事を見ることができそうです。佐藤コーチはフットサル育成ダイレクターという立



昨夏、新体制でスタートを切ったフットサル日本代表。高橋健介監督は日本代表の在り方、求められる姿勢を継続して選手たちに説いている

場も担っていて、高校、大学年代の選手たちと長く関わり、結果を残してきました。若い選手たちに寄り添いながら成長をサポートできる指導者です。それぞれの視点や持ち味を生かしたスタッフ陣になっ

### 長所を突き詰め 表現し続ける

——アジア全体のレベルをどのよう

に捉えていらっしゃいますか。

**高橋** どんどん上がっていて、かつて強豪国だけが備えていた戦術的なアドバンテージも、強豪国と新興国の戦力の差も、限りなく少なくなりました。その中で勝つために伝え続けているのが、日本代表のアイデンティティーです。誇り、責任、覚悟、団結、礼節をピッチ内外でどう示すのか。この五つを示すことを「規律」と定義し、

育成年代の選手を含めてまず初めに伝え

ています。

——世界に目を向けると、昨年のFIFAフットサルワールドカップではアジアから5

カ国が出場し、3カ国が決勝ラウンドに進出しながらもベスト16で敗退しました。現地で大会を視察した高橋監督は、何を感じ、何を日本に持ち帰ってこられましたか。

**高橋** まず感じたのは、「日本の選手たちがここに立っていなければならなかった」ということでした。悔しさが大きかったです。あとは、アジアの戦いとワールドカップの戦いは別物だということですね。異なる競技と言え

る具体的な、どういったところですか。

**高橋** 例えば、23年の国際親善試合で日本と引き分けたアルゼンチンと、ワールドカップの決勝を戦うアルゼンチンは違いました。ワールドカップの優勝を懸けて戦うチームは、グループステージから決勝ラウンド序盤、準々決勝、準決勝と進むにつれて、プレーのレベルを上げていきます。そういった相手を世界の舞台で勝つためには、困難を乗り越えながら個々の長所を生かし合

って団結し、大会の中でも成長できるチームをつくる必要があると感じました。

——世界でさらに上を目指すために、必要なことは何だと思われ

ますか。

の最終盤に現れます。海外の人たちに日本人の特徴を聞くと、口をそろえて「規律がある」と言われます。ですので、この長所をとことん突き詰めて、表現し続けることを目指しています。ワールドカップのような大舞台で勝敗を分けるのは、「守備時に一瞬(相手の)シュートを避けた」気の緩みから帰陣が遅れて失点した」という本当に些細なことなんです。勝負にこだわって細部まで追求し続けているチームが最後に結果を残すと思います。

——では、フットサル日本代表は

どういったスタイルを目指していますか。

**高橋** 自ら動き、共に戦い、規律で勝ち取るチームを目指しています。自分たちから動いてコレクティブに戦うこと。チームは生き物だという表現があるように、一つのプレーに意思や意図があります。関わる人たちが躍動して支え合うチームにしていきたいと思

いますね。このスタイルを支える三つの約束があります。一つ目に規律を持ってやり抜くこと。二つ目に「Our Team」のマインド。チームで起きていることをわがこととして捉え、ベンチの選手も含め全員で戦うチームです。三つ目は、プラスワンアクション。ピッチ内外で困っている仲間を助け、手を

差し伸べられるようにしようと。この三つを約束して「日本を代表して戦おう」と話しています。

### まずは26年の アジア王者を目指す

——今年1月にはインドネシアで「Indonesia Futsal World 4s Series」に出場し、3月にはパラグアイ遠征を行いました。二つの活動を通して得られたものは何でしょうか。

**高橋** 日本代表チームとしてのゲームモデルの共有と選手層の拡大、今まで勝利したことがなかった世界の強豪国に勝つことによる自信です。今はまだ、一つ一つの要素を積み上げている段階ですが、戦術面もマインドも共有できたと実感しています。二つの活動には異なるメンバーで臨みましたが、インドネシアでは多くの若い選手たちが野心を持って取り組んでくれました。この試合で望んでいた結果を残すことはできませんでしたが、小さなことが勝敗を分けるということを痛感し、日本代表選手としてのマインドを共有しながら試合を重ねることができました。また、パラグアイでは長時間移動など難しい環境で、これまで一度も勝つことがなかった世界の強豪国に勝つことができたこと

で、ワールドカップ上位国とも

戦えるという自信を得ました。こういった積み重ねが今後に生きてくるのではないかと思います。

——フットサル日本代表は、「2036年にワールドカップで優勝する」という目標を掲げています。現在はどのような準備を進めていますか。

**高橋** 36年にトロフィーを掲げるチームには28年、32年のワールドカップを経験している選手が間違いなく必要です。その目標から逆算し、U-18フットサル日本代表をフットサル日本代表につなげ、世界基準の試合経験を積むための環境整備に取り組んでいます。

——次のワールドカップまでの4年をどのように過ごしていきますか。

**高橋** フットサル日本代表が予選から勝ち抜いてワールドカップに出場したのは、12年が最後です。その経験を自分たちの持ち味にすることは難しいので、一つずつ自信を積み重ねていく必要があります。28年にワールドカップの出場権を勝ち取る力があるということを再認識できるように、まずは26年のアジア王者を目指します。日本代表は、夢、希望、感動を届ける存在であるはず。もう一度、そういう存在になり、世界で活躍する選手たちの姿を見てもらえるように力を尽くしていきます。

# われわれの強みである 規律と一体感をもつて、 日本女子フットサルを 世界に示す



## INTERVIEW 須賀雄大

フットサル日本女子代表監督

フットサル日本女子代表は5月のAFC女子フットサルアジアカップ中国2025で初優勝を遂げ、同時に11月に初開催されるFIFAフットサルワールドカップの出場権を獲得した。チームを率いる須賀雄大監督にワールドカップに向けた目標や意気込みを聞いた。

○オンライン取材日：2025年6月11日  
※AFC女子フットサルアジアカップ中国2025レポートは前号68〜69ページ参照

アジア王者として挑む  
優勝を目標に見据えて準備

—— AFC女子フットサルアジアカップを終えて約1カ月がたちました。初優勝、そしてFIFAフットサルワールドカップ出場決定にいろいろな反響もあるのではないのでしょうか。

**須賀** そうですね。フットサル日本女子代表はそれまで公式試合が少なかったこと、また初のワールドカップ出場を懸けた大会ということもあり、本当に多くの人たちが試合を見てくださったのだなと感じています。皆さんとても喜んでくださり、私自身もとてもうれいすね。日頃からチームや選手を支え、応援してくださる全ての皆さんに感謝しています。

—— ワールドカップに出場する16カ国も決定しました。どのような大会になると思われますか。

**須賀** 初開催ですのでふたを開けてみないと分かりませんが、全てのチームが野心を持って挑む大会になると思います。FIFAランキングやこれまでの対戦経験もありますが、初の女子ワールドカップに参加するマインドとして、われわれは優勝を目指すという気概をもってポジティブなチャレンジをしていきたいと考えてい

ます。

—— 目標は優勝だと。

**須賀** まずは優勝です。そう言えるためにも、アジアカップは絶対に優勝したいと考えていました。アジアチャンピオンとしてワールドカップを目指すことになりましたので、アジアで頂点を取った誇りと自信をそのままワールドカップにぶつけたいと思います。

—— 昨年末に発表した2025年の代表スケジュールでは、9月に国内合宿をして11月のワールドカップに向かう予定となっています。強化プランを教えてください。

**須賀** 現在はアジアカップのフィードバックを踏まえてワールドカップへのプランニングをしているところです。欧米や南米のチームと対戦したことがない選手もいますので、世界で女子フットサルをリードしている国と対戦できれば、選手たちにポジティブに働きます。ですから対外試合も含めて、さまざまな活動を想定して希望を出しています。

—— 選手選考については、アジアカップを共に戦った選手たちを私は誇りに思っていますし、彼女たちとアジアカップを勝ち取った経験は一生忘れられないものです。しかし、日本女子フットサルリーグ（女子Fリーグ）で活躍する全

ての選手にワールドカップを目指すチャンスがあります。ここからまた公正に選手選考をしていくこと、アジアカップを経験した選手がさらに成長すること、この二つの部分をしっかりとプランニングして、より強いフットサル日本女子代表をつくっていきたくと思っています。

—— フットサル日本代表をはじめ、他カテゴリーの代表チームはワールドカップの出場経験があり、なでしこジャパン（日本女子代表）は優勝しています。その経験や知見を生かすことも考えられているのでしょうか。

**須賀** 先日、なでしこジャパンで優勝を経験された海堀あゆみさんと対談する機会があり、世界大会で勝ち抜くためのマインドについて話を聞かせていただきました。皆さんからいただく情報は貴重ですので、参考にして代表活動をプランニングしていく考えです。

—— 世界はアジアとはまた異なる戦いになります。今の代表チームに必要なことや課題についてはいかがですか。

**須賀** 世界の強豪国は、代表チームの強化と選手育成の体制が整っています。国内リーグが3部まであったり、アンダーカテゴリーの代表活動があったり、さらに育

成年代の大会が充実している国も  
あります。そうした国々との対戦  
は難しいものになるでしょう。ア  
ジアでは日本が先進国だといわれ  
ていますが、世界に目を向けると  
日本にはまだまだ整備すべき環境  
や解決しなければならぬ課題が  
多くあります。

——環境をすぐに変えられるかと  
いえば、難しい部分があります。

**須賀** 日常のレベルが高い国と  
戦うためには、それを認識した上  
で強化プランを立てなければなり  
ません。一方、自分たちの強みは  
何か、対戦相手にとって日本の何  
が嫌なのかということもしっかり  
見極めて準備することも重要で  
す。相手に惑わされず、自分たち  
の強みを突き詰めていく姿勢を大



準決勝では、アジアカップで2度優勝しているイランに競り勝った。  
プレッシャーのかかる大会を勝ち抜き、選手たちは大きく成長した

© 2025 AFC

事にしたいですね。

### アジアカップで得た経験 武器をさらに磨いて世界へ

——世界の強豪国に対して日本の  
強みとは？

**須賀** 自分たちの哲学や規律を  
体現し、最後まで全員で戦い抜く  
ことのできる一体感は、対戦相手  
にとって最も脅威ではないかと思  
います。チームのために全員が体  
を張り、チームが勝つために全員  
がハードワークをしていく。一戦  
一戦はもちろん、(長期間の)大会  
を勝ち上がっていくためにも不可  
欠な部分ですよね。

「ハードワーク世界」という言  
葉で選手には伝えましたが、私が  
世界と戦う上で必要だと思つて取  
り組んできたプレーモデルでもあ  
ります。それがそのまま世界での  
日本の優位性につながっていくの  
ではないかなど。フットサルは試  
合の展開が速いので、個々の瞬時  
の判断力が重要です。日本の選  
手たちはどんな場面でもしっかり  
と自分たちのやるべきことを理解  
し、実行に移すことができる。そ  
れがアジアカップでも大きな武器  
になりました。

——スタッフとの連携についても  
お聞かせください。

**須賀** コーチングスタッフはそれ

ぞれFリーグのクラブなど指導現  
場を持っていますが、女子Fリー  
グの視察、そのフィードバック、代  
表合宿のプランニングなどの打ち  
合わせをより濃いものにしてい  
くために綿密に連携していきま  
す。現状、対面で集まれることは  
多くないので、オンラインでコミュ  
ニケーションを取っています。ス  
タッフとはコンセプトや私自身の  
考え方、感じていることを共有し、  
近い感覚で仕事をできているとは  
いえ、感じ方も見え方もそれぞれ  
あるので、意見はしっかりと伝え  
てもらおうようにしています。ただ、  
例えばメンバー選考やそのプロセ  
スを含め、重大なことを決めてそ  
こに責任を持つのは監督である私  
の仕事です。みんなには忌憚(こた)るな  
い意見を常に求めつつ、最終的に  
私自身が責任を持って決定・実行  
できるようにしています。

——ワールドカップでは、どのよ  
うな戦いを見せたいとお考えです  
か。

**須賀** 2021年11月に監督に  
就任してから、「憧れと共感」とい  
うテーマを選手と共有して活動し  
てきました。私自身のチームづく  
りに対する信念、女子選手たちを  
初めて見たときにイメージして掲  
げたテーマです。選手たちは真摯  
に実直にフットサルに取り組んで  
いますが、それは決して当たり前前

のことはありません。素晴らしい  
選手たちです。選手たちは戦術  
的な引き出しも持っていますし、  
世界を驚かすことのできる個性も  
持っています。選手たちのフット  
サルに対する思いや戦う姿勢、プ  
レーの素晴らしさを多くの方に見  
て、感じてもらえたらうれしいで  
すね。

——監督に就任されてから、選手  
たちの成長はどう映っています  
か。

**須賀** アジアカップはワールド  
カップが懸かった大会で、選手た  
ちは大きなプレッシャーを抱  
えて戦っていたと思います。  
そうした独特の緊張感があ  
る中で決勝まで勝ち上がり、  
戦い抜いた。プレー面での成  
長はもちろんですが、それ以  
上に、強い相手に挑むときや  
難しいゲームにチャレンジす  
るときのマインドは、間違い  
なく全員が成長したポイン  
トだと思っています。そして、い  
ろいろな選手を組み合わせ  
て戦ってきた中で、自身の武  
器や個性を理解した大会で  
もあつたはずですが、個性を  
さらに磨いていきたいと思っ  
ている選手、いろいろな状況  
に適応できる力を身に付け  
たいと感じている選手、それ  
ぞれあると思うので、ここか

らの成長を楽しみにしています。  
——最後にサッカーファミリーに  
メッセージをお願いします。

**須賀** いつも温かい応援をあり  
がとうございます。ワールドカッ  
プという舞台で選手たちが活躍で  
きるよう、われわれ代表チームの  
スタッフは全力でサポートしてい  
きます。女子Fリーグも始まっ  
ていますので、ぜひ女子フットサル  
にも興味を持っていただいで、彼  
女たちのプレーに注目してくださ  
い。ワールドカップの応援もよろ  
しく願っています。



アジアカップ決勝でPK戦を制して頂点に立った選手たち。「選手は世界を驚かせる力を持っている。こんなすごい選手がいるのか、ということをも世界でもいろいろな人に感じてもらいたい」と須賀監督

2025 AFC

# フットサルがますます盛り上がっていくように

幼少期からサッカーとフットサルに親しみ、現在はFリーグでプレーする伊藤圭汰選手（ペスカドーラ町田）と山田凱斗選手（しながわシティ）。フットサル日本代表としても期待される二人に、フットサルへの思いや代表チームに必要なこと、今後の展望などについて聞いた。

○オンライン対談日：2025年6月13日



選手に聞く

**山田凱斗** 選手  
(しながわシティ)

**伊藤圭汰** 選手  
(ペスカドーラ町田)

**山田 凱斗(やまだ かいと)**

2000年3月30日生まれ/静岡県出身  
幼少期からフットサルを始める。アグリメーナ浜松でFリーグデビューを果たし、Fリーグ選抜、バサジィ大分、インテル・モビスター(スペイン)でプレー。現在はしながわシティで背番号77を背負う。U-20フットサル日本代表としてAFC U-20フットサル選手権イラン2019で優勝。

**伊藤 圭汰(いとう けいた)**

1997年5月7日生まれ/北海道出身  
北海道釧路北陽高校時代に第2回全日本ユース(U-18)フットサル大会で準優勝に輝く。その後、ペスカドーラ町田のアカデミー、アスピランチに加入し、Fリーグ選抜やトップチームでプレー。現在はキャプテンを務める。

いつしか夢は

「フットサル選手」に

——まずはお互いの印象についてお聞かせください。

**伊藤** 高橋健介さんがフットサル日本代表の監督に就任してから、初めて代表と一緒にプレーしました。同じフィクソのポジションで体格もあまり変わりませんが、世界を知っている選手なので、ピヴォに対するディフェンスの仕方など、勉強になります。

**山田** 僕は圭汰くんが高校生だった頃から知っているのですが、一緒にプレーをしてみても、考えていることの深さや攻撃面での違いの出し方、1対1で負けない守備など、同じポジションとして参考にするとところがたくさんあります。

——お二人ともサッカーをプレーしながら、早い段階でフットサルにも関わり始めました。どのようなフットサルと出会いましたか。

**伊藤** 僕は北海道で育ったので、冬は基本的にフットサルをプレーしていました。ですから小学生のときから触れる機会がありました。

**山田** 僕が小学2年生くらいの

ときに兄がフットサルを始めるというのでついて行って。それが始まりです。

——フットサルにのめり込むようになったきっかけは？

**伊藤** 北海道釧路北陽高校のメンバーとして2015年の第2回全日本ユース(U-18)フットサル大会(現、JFA全日本U-18フットサル選手権大会)で準優勝し、その後U-18フットサル日本代表に招集されました。そこであらためてフットサルの奥深さに気づき、もっとうまくなりたいと思いました。

そして高校3年生のとき、第21回全日本フットサル選手権大会の決勝でペスカドーラ町田が、(絶対王者だった)名古屋オーシャンズを下して優勝する試合を配信で見て、町田にすごく魅力を感じました。「僕も名古屋を倒したい」と思い、町田のアカデミーのアスピランチに加入しました。

**山田** 僕は地元のスクールで、ペスカドーラ町田の篠崎隆樹さんから指導を受けました。小学生ながら「プロって本当にすごいな」と感じるものがたくさんあって、中学生になったときには既に



ベスカドーラ町田でキャプテンを務める伊藤選手。「チームの勝利のために、とすごく考えるようになった」と語る

ました。タイ遠征でイランやカザフスタンなど当時の強豪と対戦して敗れて、もつとフットサルを学んでいかなければいけないと痛感しました。

——山田選手は、U-20フットサル日本代表としてAFC U-20フットサル選手権イラン2019で優勝を経験され、2022年にフットサル日本代表に初選出されました。初めての代表活動はどうでしたか。

**山田** ありがたいことにアンダーカテゴリーから代表に呼ばれ、アジアのタイトルも取りました。ですが、フットサル日本代表にはなかなか選ばれず、僕より歳下の選手たちが招集されていく中で悔しさを感じていたので、招集されたときは本当にうれしかったです。ただ、どうしたら活躍できるのか、自分の価値をどう出したらいかなど、明確なビジョンを思い描けていなかったことを覚えています。

——そうした経験を積んでいく過程で、伊藤選手は1期生、山田選手は2期生としてFリーグ選抜(※)に選ばれました。当時の活動を振り返ると？

**伊藤** とても充実した1年でした。同世代の選手と競い合いながら多くの試合経験を積めたこと

——伊藤選手はアスピランチ所属時の2016年、フットサル日本代表に初招集されました。その時を振り返っていかがでしょうか。

「フットサル選手になりたい」と考えていました。その後、U-18静岡県選抜や静岡県選抜に選ばれ、アグレミーナ浜松に声をかけていただいて練習に参加し、特別指定選手としてFリーグデビューをしました。

代表への初招集や海外挑戦で成長を続ける二人

は、今のプレーにも大きく影響しています。環境にも恵まれ、フットサルに集中することができたのを覚えています。今もフットサルにフォーカスできる状況をつくり出せるよう工夫しています。

**山田** 僕は浜松に所属しているときに、1期生がFリーグの舞台で戦い、時に勝つ姿を見てきました。「若い選手でも活躍できる」と気づかせてもらい、1期生が示してくれた道筋を目指しました。実際にFリーグ選抜でチームメイトから学ぶことも多かったですし、試合に出場して自信を得ることでより積極的にプレーできること、たとえ失敗しても気づきがあることを、毎試合感じています。

※若手選手の出場機会創出やフットサル日本代表の強化を目的とした選抜活動。2018/19、2019/20の2シーズンにおいてFリーグデビューに参戦した

——その後、伊藤選手は町田でキャプテンを任されるようになりました。

**伊藤** 甲斐修侍監督が就任された時に、キャプテンに任命されました。人の上に立つようなタイプではないのですが、キャプテンを務めることで今までよりもチームのことを考えるようになって、また少し成長できたと思います。

キャプテンとしてうれしい経験もつらい思い出もありますが、その経験を全てピッチで表現する糧にしていきたいと思っています。

——山田選手はスペインのインター・モビスターでプレーするなど、世界への扉を開きました。

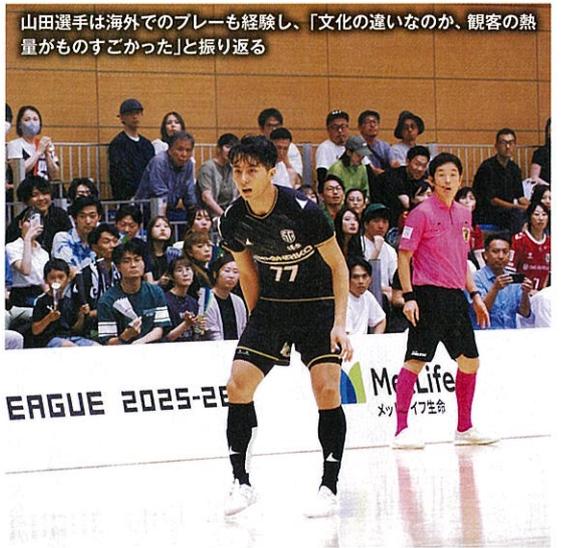
**山田** スペインへの移籍を考えたのは、Fリーグ選抜の後に在籍したバサジイ大分での2年目のシーズンでした。1年目にある程度の結果は出せたと思っていました

が、それでもフットサル日本代表に呼ばれず、何かを変えないといけないと思っていました。周囲にも相談して海外にチャレンジすることを決めました。

——海外でプレーしていかがでしたか。

**山田** スペインでは多いときには4000〜5000人の観客が入り、一つ一つのプレーに対して常に歓声やブーイングが沸き起こります。選手としてのモチベーションが高まる環境でしたし、日本との熱の違いを感じ取ることもできたのはとても良かったと思っています。

——海外でプレーしていかがでしたか。



山田選手は海外でのプレーも経験し、「文化の違いなのか、観客の熱量がものすごかった」と振り返る

世界有数の組織力に加え、個のレベルアップを目指す

——フットサル日本代表は昨年、FIFAフットサルワールドカップ出場を逃し、新たな目標に向かって歩み始めています。お二人にとって代表はどういった存在ですか。

**伊藤** 代表はずっと目指している場所です。僕はアンダーカテゴリーのアジアカップで結果を残せなかった世代ですが、日本のフットサル界を引っ張っていかねばいけないと思っています。今のところ、代表では個人としても結果を残せていませんし、アジアカップで敗れた時もその場にいらなかった悔しさを味わったので、今は代表の次の目標にどれだけ貢献できるかを考えながらプレーしてい

——海外でプレーしていかがでしたか。

**特集** 日本フットサル、  
目指すは世界の頂



フットサル日本代表の強化について、伊藤選手は「組織力のクオリティをもっと上げていく必要がある」と話す

**山田** 僕はアジアカップのピッチに立った当事者として、今でもワールドカップに出場しなければならなかったという後悔と応援してくれた人や関係者に対して申し訳ない気持ちがあります。今後も代表に食い込んで、アジア王座を奪還することや、次のワールドカップに絶対に出場することを目指しています。直近の遠征に選ばれなかった悔しさもあるので、常に選ばれ続けるようなパフォーマンスをしたいと考えています。

——アジアでの雪辱を果たし、さらに日本が強くなっていくためには何が必要だと思われませんか。

**伊藤** アジアの戦いは簡単では

なく、日本やイランは相手にかなり対策されます。その中でシンプルに決定力を上げることで勝てる試合が増えていくと思います。フットサルでは、相手のワンチャンスで試合が決まってしまうケースが起り得るので、それに勝る決定力にこだわっていかなければいけません。

**山田** 個々のレベルアップが重要だと思っています。日本は世界の中でも組織力が高く、一致団結し、規律を持ってプレーすることができま。ですが、その規律を破壊してくるような強烈な個に対してこちらも個で負けてはいけないことをスペインで学びました。選手一人一人が相手に負けない力をつけ、そして組織力でもっと自分たちを表現できれば、日本主導の試合が増えていくと思います。

**Fリーグの新シーズンが開幕 それぞれ思いを持って戦う**

——5月31日にはFリーグの新シーズンが開幕しました。それぞれリーグ戦への意気込みをお聞かせください。

**伊藤** 僕たちは一昨シーズン、優勝に王手をかけながらもタイトルを逃し、昨シーズンのFリーグオーシャンカップでも残り数秒で優勝を逃すという、とても悔しい思いをしました。その経験をした

選手が多く残っている中で、そういった思いを力に変えていきたいです。クラブが多くのお客さんと呼ぶための施策を進める中で、それに協力をしながら、一方で僕たち選手は面白い試合を届けるのも使命だと思っています。フットサルの魅力を少しでも伝えられるようにしていきたいです。

**山田** しながわも昨シーズン、目の前でバルドラール浦安に優勝を決められました。3月のJFA第30回全日本フットサル選手権大会では優勝することができました。今シーズンはFリーグで優勝するという目標を掲げています。その目標をぶらすことなく、どの相手にも勝利することを目指します。Fリーグへの注目も少しずつ高まっていると思うので、見ていいる人が興奮したり、熱狂したりする試合をして、リーグの価値を高められるように貢献していきたいです。

**個人としては、どのようなプレーを見せたいですか。**

**伊藤** 常に言っていることですが、僕が目指すのは、試合を決められる選手になること。「自分が試合を決める」という思いでプレーしています。フィクソは多くの得点を挙げるポジションではありませんが、攻撃で違いを出すことを意識してプレーしているので、そこを

見てもらいたいです。

**山田** 僕もフィクソですが、得点にも失点にも絡みややく、試合を決定づけるプレーをすることが多いポジションだと思っています。チームに対してポジティブな影響を与えられるように心掛けていきたいと思っています。

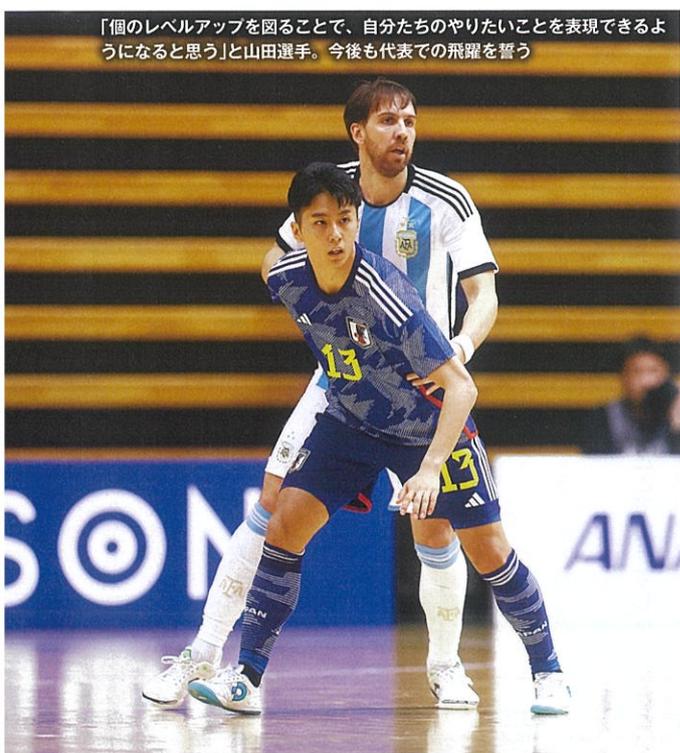
——最後に、サッカー・フットサルを問わずフットボールファミリーへのメッセージをお願いします。

**伊藤** 僕は北海道出身なので、小さい頃からフットサルに触れてきました。フットサルをプレーすることで動き方やサポートの仕方などこの競技の奥深さをさらに理解できますし、サッカーにも生かされます。スピーディーな展開

で、チャンスもピンチも多いというのがフットサルの魅力です。今後もっと「フットサル選手になりたい」と思う選手が増えるといいなと思います。フットサルがますます盛り上がっていくように、個人としてもっと頑張っていきたいです。

**山田** 僕も小さい頃からフットサルをプレーしてきて、フットサルの戦術や細かい動きがサッカーに通用する部分もありますし、サッカーのプレーがフットサルに通じることもあると思っています。どちらも素晴らしい「フットボール」なので、それぞれの良い部分をもっと発信し合って、互いに盛り上がっていけばいいなと思います。

「個々のレベルアップを図ることで、自分たちのやりたいことを表現できるようになると思う」と山田選手。今後も代表での活躍を誓う



# 誰もが主役になれる場所 良い波をつくっていききたい



選手に聞く

**伊藤果穂**選手

(バルドラール浦安ラス・ポニータス)



39

**井上ねね**選手

(立川アスレティックFCレディース)

フットサル日本女子代表として、5月のAFC女子フットサルアジアカップ初優勝、今年11月のFIFAフットサル女子ワールドカップ(フィリピン)出場権獲得に貢献した二人。キャプテンとしてチームをけん引した伊藤果穂選手、ゴレイロ(GK)としてチームを鼓舞した井上ねね選手に代表チームやワールドカップ、そして日本女子フットサルへの思いを語ってもらった。

○対談日：2025年6月16日

重圧にも前だけを向いて  
全員でつかんだ勝利

——今回のAFC女子フットサルアジアカップは、お二人にとってどのような大会でしたか。

**伊藤** 個人として初のアジアカップでしたし、ワールドカップの出場権が懸かった大会でもありませんでしたので、優勝できたことと出場権を獲得できたことの両方がうれしかったです。チームとしても、試合を重ねて力をつけた上での優勝だったので、みんな喜んでことも格別でした。

**井上** 私は(サッカーから)フットサルに転向して初のアジアカップで、無事にワールドカップの切符を手に入れることができていることが嬉しいです。アジアで初優勝できたこともとてもうれしいです。

——優勝できた要因は何だと思えますか。

**井上** 日本の女子フットサルの歴史を変えたいという意味でも、私たちにあって初開催されるワールドカップの出場権を取るということとはとても重要でした。それをチーム全員が意識して、メンタル

面でも個々がポジティブにいられたことが大きかったのかなと思います。

**伊藤** 日本女子フットサル全体の力だと思っています。これまで歴史をつないできてくれた人の思いを背負いながら、という思いもありましたが、それだけではなく、いま戦っているこの舞台を自分たちがすごく楽しんでいるということも感じていて、それが試合でも力を発揮できた要因だと思います。

——ここで負けてしまったらというプレッシャーもあったのでは？



## 井上ねね(いのうえねね)

1995年6月28日生まれ/島根県出身  
小学生時代は津田FC、中学から高校はJFAアカデミー福島(3期生)、大学は日本体育大学サッカー部(日体大FIELDS横浜)に所属。2012年FIFA U-17女子ワールドカップ、第28回ユニバーシアード競技大会(2015/光州)に出場。2019年にフットサルへ転向し、立川・府中アスレティックFCレディース(現、立川アスレティックFCレディース)加入、同年12月スペイン遠征でフットサル日本女子代表に初選出。AFC女子フットサルアジアカップ中国2025では大会ベストGKに選出。

# 目指すは世界の頂

**井上** グループステージのタイ戦（●1-3）が終わった後、自分が失点を防げていたらとすごく責任を感じました。悔しくて涙も出てきて……。ただ、そこでスイッチが入ったというか、気合を入れ直しました。ワールドカップ出場枠は三つ。次の準々決勝で負けてしまうと何もなくなる状況でしたから、実は、前日の夜から胃が痛くて、それも初めてのことでした。今となれば、プレッシャーも含めていろいろな経験ができた大会でした。

**伊藤** 私もターニングポイントのは、タイ戦での敗戦から準々決勝のベトナム戦で勝利したことだと思っています。負けた後は落ち込みましたが、キャプテンという立場もあり、個人としてもチームとしてもどうあるべきかをいろいろと考えました。みんなもそれぞれ感じる力があつたと思います。が、次のステージに行かなければワールドカップには行けない。みんな前向きに挑んでつかんだ勝利は、自信を取り戻す一戦になりました。

——イランとの準決勝ほどのような心の持ちようだったのでしょうか。  
**井上** ベトナム戦に比べてリラックスはしていましたが、「まだ

何も成し遂げていない」という気持ちで集中して向かいました。

**伊藤** アジアカップ優勝という目標もありましたが、まずはワールドカップの切符をつかむことが重要でしたから、「ここが勝負。11月のワールドカップにつなげるんだ」という思いが強かったですね。

——準決勝での宿敵イラン（0-2）、さらに決勝のタイ（0-3）、PK3-2との激闘は日本女子フットサル界にとっても名勝負でした。特にタイ戦は、PKでタイ寄りの観客席からブーイングもありました。

**伊藤** 実は全く聞こえていなかったんです。プラスになる方向にいたのか、私には日本のサポーターの声が聞こえていて、それを力にして戦っていました。

**井上** 私もそうです。観客席の高さもあつたのかな。ブーイングは聞こえていませんでした。  
**フットサルとの出会いとワールドカップに向けて**

——それだけ試合に集中されていたのですね。アジアカップ初優勝、ワールドカップ出場権獲得は快挙です。周りの反応であらためて感じることもあつたのでは？

**伊藤** 優勝した直後からいろいろな人からメッセージが届いたり、現地でも声をかけてくれる人がいたり、今まであまりお話ししたことのない男子のFリーグの関係者からも連絡をもらったりして、より実感しました。

**井上** 試合後にスマホの電源を入れると鳴りやまないくらいメッセージが一気に届いて、あらためて反響の大きさを感じました。試合前は、モチベーションビデオで前回大会の決勝でイランに負けた映像を何度も見ていましたし、自分たちの前の世代から日本の女子フットサルをつくり上げてきてくれた人たちの思いもすごく感じていました。そんな感情もあつて優勝直後は感情が爆発しましたし、そうやって反応をいただけることもありがたかったですね。

——11月にはワールドカップが控えています。今のフットサルに対する思いを教えてください。

**井上** 私はサッカーでは各年代の代表チームで活動していましたが、なでしこジャパン（日本女子代表）に入ることはできず、限界を感じていました。そんなときにフットサルという競技に出会い、そこで結果を残そうと決意して転向しました。実際にフットサルをやっ

てみると想像以上に難しく、フットサルならではの細かい技術はサッカーとは全く異なります。今こそ、自分にはフットサルが合っていると思います。それこそサッカーの土台があつてこそ、両方の競技を経験しているからプラスになつていくことは多くあります。アジアカップは優勝することができました。次は、初開催のワールドカップで活躍することが、ここまでやってきたことの集大成になると思いますので、この一年、全力でフットサルに集中していきたいと思つています。

**伊藤** 私は大学に進学してから、少しサッカーと距離を置いた時期がありました。ただ、やっぱり心のどこかには「ボールを蹴りたい」という思いがあつて、そこで出合ったのがフットサルでした。当時はトップリーグでやりたいといった欲はなく、楽しくできればいいかなと。でも今ではフットサルが生活の中心になるくらい、どっぷりとはまっています。

フットサルは誰もがゴールを狙えて、誰もが主役になり得るスポーツだと思つていますし、もともとたくさんの人に、その魅力を知ってもらいたい。フットサルに出合えて本当に良かったと思つています。代表チームはみんなが

目指す場所だと思うので、11月のワールドカップに向けて、まずは所属チームで結果を出していきたいと思つています。

## 伊藤 果穂（いとう かほ）

1994年11月18日生まれ/奈良県出身  
十文字高校女子サッカー部で3年間プレー。早稲田大学に進学後、フットサルに転向し、東京都リーグのタバジータ世田谷を経て、2018年にバルドラール浦安ラス・ボニータスに加入。同年にフットサル日本女子代表に選出。日本女子フットサルリーグでは2020-2021から4連覇を達成。現在、フットサル日本女子代表と浦安でキャプテンを担う。



**代表としての誇りと重み**  
それを力に変えて戦う

——少し話題を変えて、お互いの第一印象と代表チームで一緒にプレーするようになって抱いた印象を教えてください。

**伊藤** 第一印象は、大きなGK（ゴレイロ）だなって。  
**井上** え、そこ？（笑）。



キャプテンとして「みんなを引っ張っていかうというタイプではないけど、一人一人とコミュニケーションを取ることがを心掛けている」と伊藤選手。攻守に鍵を握る選手だ

© 2025 AFC

**伊藤** (笑)。でも調べたら年齢は一つ違いだと知って、代表でチームメイトになったときは本当に頼りになる存在だと思いました。特に試合中に話し合いができることが新鮮で、それは所属チームでも取り入れるようになりました。

**井上** フットサルに転向した当初はフットサルのことを全く分かっていなかったのですが、(浦安という)強いチームにいる選手という印象でした。1対1から切り返してのシユートはすごく嫌でしたね。代表チームでは守備についてよく話します。試合中の違和感を伊藤選手に伝えるとそれをすぐに

修正してくれるので、良い役割分担ができていますのかなと。伊藤選手は真面目ですが抜けているところもあって、面白いんです。チーム全体のことも、一人一人のことも見てくれています。そういう伊藤選手がキャプテンでいてくれることが、チームに良い影響を与えています。

——フットサル日本女子代表としての日の丸を背負って戦う意味や責任の重みを、どのように感じられていますか。

**井上** サッカーにしても、フットサルにしても、代表チームには特別な感情があります。日本代表のエンブレムをつけて戦うことができるのは、本当に限られた人だけですから。だからこそ個人としてもチームとしても、結果を残さなければならぬ場所です。そこに選ばれた誇りと、いろいろな人の思いを背負って戦う覚悟は大きく重たいものですが、そこはポジティブに、かけがえのない経験ができていっていると捉えてプレーしています。

**伊藤** サッカーを始めた頃には代表選手になるなんて想像もできませんでした。フットサル日本女子代表としてピッチに入るときも、君が代を歌っているときも武者震いがして、日の丸を背負って

戦う重圧と責任を感じています。同時に、自分の人生において本当に貴重な経験をしているんだと。みんなの思いを背負いながら、その重みも力にして戦おうと思っています。

——FIFAフットサル女子ワールドカップで、フットサル日本女子代表が目指すべきものは。

**伊藤** もちろん優勝を目指すべきですし、積み上げてきたものを最大限発揮できれば、その可能性はゼロではありません。11月までまだ時間がありますし、まだまだ伸びしろがあると思っています。(優勝する)可能性に近づくためにも、努力を積み重ねなければなりません。

**井上** どの国にとっても未知の大会になりますし、どこが優勝してもおかしくありません。優勝を狙うのはもちろんなのですが、日本が今、世界でどのくらいのレベルにいるのが証明されると思うので、より高みを求めて戦わなければならぬと思います。

——先日、2025-26シーズンの日本女子フットサルリーグ(女子Fリーグ)が開幕しました。ここを見てほしいというプレーを教えてください。

**伊藤** フットサルは1分1秒目

が離せないスポーツです。で、ぜひスピード感のある展開を見てもらいたいですね。あとは、私から始まる攻撃、という点も見てもらえたらうれしいです。なかなか目につかない部分でもありますが、どんな攻撃を思い描いてプレーしているのかを想像してみてもらえると面白いかなと。そんな魅力も見つけてほしいです。

**井上** その浦安の攻撃をどうつぶすか、というのがこちらの楽しさですね(笑)。私は、とにかく止めます。味方と連動して相手のシユートを誘い込んでストップする、というのが面白さでもあります。あとはゴールを決めたいですね。狙ってはいるのですが、どのチームも守備の戻りが早いのでなかなか難しく、でもキック力はサッカーで身に付けた武器でもあるので挑戦し続けたい部分です。

——最後にフットボールファミリーにメッセージをお願いします。

**伊藤** 女子のフットサルは、フットボールの中では認知度が低い競技かもしれませんが、今年11月に初のワールドカップがあり、女子フットサルが盛り上がる年だと思っています。フットボ



© 2025 AFC

後ろからチームを支える井上選手は、今回のアジアカップで大会ベストGKに選出。フットサルに転向して6年目、「とても楽しくフットサルと向き合えている」と話す

## サッカー活動中の落雷に注意しましょう!

温暖化や環境変化の影響に伴い、全国での落雷件数が増加しています。屋外でサッカー活動をする際は、落雷による事故防止対策に努めましょう。

原則①：危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。

原則②：周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

●サッカー活動中における落雷事故防止対策について  
[https://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/PDF/h20240523\\_02.pdf](https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20240523_02.pdf)



## 選手・指導者・審判登録証の表示は JFA公式アプリ「JFA Passport」へ

2018年から運用してきた「JFA KICKOFF」アプリ(iOS/Android)を、2024年12月をもって終了しました(PC版のKICKOFFシステムに仕様変更はありません)。これまで「JFA KICKOFF」アプリで提供していたJFA登録証(選手証/監督証、指導者証、審判証)やチーム登録選手一覧の表示機能等はJFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できるようになっています。

「JFA KICKOFF」アプリで提供していた以下サービスは、JFA公式アプリ「JFA Passport」で利用できません。

- ・登録証の表示(選手証、監督証、審判証、指導者ライセンス証)
- ・登録選手一覧の表示 ※チーム登録責任者および責任者代理のみ使用可
- ・お知らせ(あなたへのメッセージ)の表示
- ・その他(顔写真登録、パスワード設定、プッシュ通知など)

詳細はこちら▶



## 2025 Jリーグレフェリングスタンダードの映像を公開

JFA審判委員会は、Jリーグと共に「2025 Jリーグレフェリングスタンダード」の映像を作成した。映像には、選手に求めるプレー、昨シーズンの事例にFIFAの競技規則に基づく解説などが加えられている。

- ①選手生命を脅かすチャレンジ ②ハンドの反則
- ③オフサイド“インパクト” ④競技者の安全への対応

●2025 Jリーグレフェリングスタンダード  
<https://youtu.be/JaZIOJ0dfwo?si=3zv7e8-GfMDI3UJ>



▼ルールに関する情報はこちら  
競技規則 <https://www.jfa.jp/laws/>



## 栄養ガイドライン～選手における食事の重要性

JFAは2017年11月、医学委員会に栄養サポート部会を発足し、2018年8月にJFAとして統一した栄養に関する栄養ガイドラインを策定した。同ガイドラインでは、基礎的な食事や栄養の知識をベースに、サッカーをする選手、それを支える指導者や保護者にとって分かりやすく、より実践的な情報を伝えている。

●JFA栄養ガイドライン  
<https://www.jfa.jp/medical/a08.html>



## スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲームガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

- 内容
- |                    |                              |
|--------------------|------------------------------|
| 1. はじめに            | 5. 8人制との比較                   |
| 2. ガイドラインの基本的な考え方  | 6. スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催 |
| 3. 各年代での心身の特性とゲーム  | 7. 指導者の関わり的重要性               |
| 4. ピッチマネージャーの配置・役割 |                              |
- [https://www.jfa.jp/coach/guidelines\\_smallsidegame.html](https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html)



## JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン(幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングを「禁止」するのではなく、正しく恐れることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも逐時アップデートしていく。

[https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading\\_guidelines.pdf](https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf)



## 小学校体育サポート

### JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT

～教員向けのオンラインレッスンサイトを公開!講師派遣も受け付け中

JFAとKDDIは、「小学校体育サポート JFA KDDI DREAM KIDS PROJECT」の一環として、教員向けに動画でサッカーの授業を学ぶことのできるオンラインレッスンサイトを公開している。

教員の体育授業の準備における負担を軽減するため、これまでJFAが対面でのみ実施していた小学校体育サポート研修会を初めて動画としてまとめたもので小学校の全学年に対応している。参加費は無料。

また、小学校体育サポート研修会の開催および講師の派遣も引き続き、申し込みを受け付けている。



●JFA学校体育サッカー指導のオンラインレッスン  
<https://soccerlesson.jfa.jp/>



■JFA小学校体育サポート研修会 2025年度実施校の募集を開始!  
<https://www.jfa.jp/news/00034935/>



## ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したものの、Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

### ●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



### ●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される

### ●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



# 第14回JFAフットボールカンファレンス



## 日本サッカーの進む先とは

今年1月18日と19日に開催された「第14回JFAフットボールカンファレンス」。短期連載の最終回となる第6回は、日本サッカー協会(JFA)の影山雅永技術委員長やSAMURAI BLUE(日本代表)の森保一監督が登壇したフォーラム「Japan's Way ~日本の育成・指導者養成の進む先」を要約してお送りする。



フットボールカンファレンスは、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。

### 個性的な選手が育ってきている

フォーラム「Japan's Way ~日本の育成・指導者養成の進む先」では、サムライブルー(日本代表)の森保一監督と影山雅永JFA技術委員長、城和憲JFAユース育成ダイレクター、木村康彦JFA指導者養成ダイレクターが、選手育成や指導者養成の今後について議論を交わした。

以前の日本代表は同じような特徴の選手が多く、「金太郎あめのようだ」と言われることもあった。影山委員長は「今は、各ポジションにそれぞれの強みを持った個性的な選手が集まっている」と評価。サムライブルーを率いる森保監督も「指導者の皆さんが選手のため、日本サッカーのレベルアップのために、ベシックの部分を担ってくださっている。そうした(指導者の)尽力によって個性的な選手たちが育ってきている」と全国の指導者に謝意を伝えた。

その現状を踏まえ、影山委員長から「選手をマネジメントする上で、以前と比べて難しさを感じる部分があるか」と問われた森保監督は「難しさは感じていない。今はほとんどの選手が海外で活躍していて、グローバルスタンダードの自己表現力や自己主張力を備えている」と返答。その一方で、「(海外で)日々戦う中で日本人のメンタリティーを失いかねない部分がある」とこに言及し、「そ

こは時々選手たちに話すようにしている」と明かした。影山委員長も「日本人の美徳であるチームへの貢献力を失ってしまったらもつたいない。日本人としての気質はなくしたくない」と同調した。

### プレートの基準を世界レベルに合わせしていく

森保監督は2021年の「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)でU-24日本代表の監督を務めていた際、選手たちに「個の力を磨いてほしい」と伝えたという。「若い選手にとっては個の力を高めることが必要で、それをつなぎ合わせる仕事を指導者が担う。選手が自分のために努力することが、チームのため、そして日本のためになる」という考えによるものだを説明した。

サムライブルーのスタッフや各年代の代表監督などと密に「コミュニケーション」を取っている森保監督は、JFA審判部や現役の審判員とも積極的に対話しているという。その際、海外との基準の違いを埋めるために求めていることの1つが、ボールを受ける前に相手に体を寄せる「アーリーヒット」だ。森保監督は影山委員長と競り合って倒れる場面を



森保監督は「夢や目標があるが、まずは目の前の一戦一戦に向けて、最善の準備をして全力を尽くすことを繰り返してきた」とサムライブルーの歩みを語る

再現し、「倒れた側が、相手が来るのを予測していない、単純にバランスが悪い、フィジカルの強さが足りないといった理由で倒れているのに、競り勝った方がファウルを取られてしまふ」と指摘。実際、海外でプレーした経験のある選手からは、こうしたコンタクトの場面の判定について「別競技のようだと聞いた声があり、「その差を埋めていくことが日本サッカーのレベルアップにつながる」とした。

また、インテンシティーを高めることについて、育成年代からの働きかけが徐々に表れていることが共有された。城ダイレクターは「どの年代でも、ボールを奪いに行くスピードや迫力、そして奪われた後に切り替えるスピードは非常に高まってき

ている」とコメント。「一方で「ゴール前の部分は守備も含めて課題が多く、特にクロスへの対応は改善すべき点」と課題を挙げ、「ポジションニングだけでなく、ボールや人にアタックするプレーの質を高めていく必要がある」と提言した。

## みんながゲームを経験できる環境をつくる

育成年代のゲーム環境について、JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会では登録選手750人のうち、18.5%にあたる139

人が試合に出場しないまま大会を終えたという事実が伝えられた。城ダイレクターは「みんながゲームに出場できる環境をつくっていかなければならぬ」とし、「サッカーはサッカーをしなければ上達しない」という言葉があるように、ゲームをたくさん経験できる環境をわれわれがどうつくっていくか。そして指導者のマインドをどう変えていくかがこれから必要なことと語った。

2011年、同大会が8人制サッカーに移行して開催された際、JFAテクニカルレポートの作成を担当した木村ダイレクターは、当時の未出場選手は「70〜80人

だった」とし、「その人数が増えていることに危機感を抱いている」と補足した。そして「選手にとって、(試合で)プレーするのは当然の権利。U-12年代の選手からプレーする機会を奪うことが、指導者としてどれほど不誠実なことか。みんなでもう一度、意識改革をしていかなければならない」と提言した。

## 指導者に求められる知識やスキルとは

JFAの公認指導者ライセンスは、アジアサッカー連盟(AFC)の指導者ライセンスとして認め



城ダイレクター(右)と木村ダイレクター(左)から「チームの勝利よりも選手の成長を考え、指導者のマインドを変えていくことが大事」と語られた

られていることから、近年はAFC加盟連盟・協会のクラブや代表チームを率いる日本人指導者が増えている。木村ダイレクターは「日本人指導者のステータスが上がってきていると実感している」と、この流れを歓迎する。近い将来、ヨーロッパサッカー連盟(Uefa)とAFCの指導者ライセンスの互換性が認められる可能性が示唆されており、これについて木村ダイレクターは「日本人指導者がヨーロッパでも高い評価を得られるようになれば非常に喜ばしい」と期待を寄せた。

さらに、グラスルーツにおける指導者のあるべき姿についても議論がなされた。木村ダイレクターは「どの選手にもポテンシャルがあり、それを最大限に引き出してあげるのが指導者の役割」とし、選手の成長過程に関わる責任を持ち、そのための知

識やスキルの習得について、指導者養成の中であらためて共有していく必要があるとした。

森保監督はサンフレッチェ広島を率いた経験を踏まえ、「試合に向けてのトレーニングは非常に大切だが、選手がどのようなコンディションでピッチに立っているのか、そのケアやマネジメントが大切。充実した日々を送り、サッカーと正面から向き合える環境づくりの方が大切ではないか」と訴えた。

## 日本サッカーは次のステージへ

最後に、日本サッカーが次のステージに移行していくために、4人からメッセージが送られた。

城ダイレクターは「Japan's Wayのダブルピラミッドにあるように、みんながサッカーを楽しめる環境をつくりながら、世界に打って出る選手も育てていきたい」とし、「選手育成の施策をいろいろと練り、日本サッカーを次のステージに導けるようにしたい」と意気込みを語った。木村ダイレクターは「選手育成では(選手個々に合わせた)プロセスでアプローチする『個別育成』が大事になる。指導者養成でも個別のアプローチやフィードバックができるようにトライしていきたい」と話した。これについて影山委員長も「育成年代では勝つことより個を育てる方が大事。JFAブルーベナント(※)」

を通じてそれを発信しているが、もっと浸透させていく必要がある」と呼び掛けた。

最後に森保監督が、「日本のサッカーのために」という思いを持って指導者の皆さんが頑張ってくれているからこそ、選手が育ち、世界で戦えているとあらためて感謝を述べ、「日本が世界一になる日は必ず来ると思っている。最短で次のワールドカップでの優勝を目指しながら、今は本命としてワールドカップを勝ち取れる力をつけていくために、皆さんと共に頑張っていきたい」と語った。そして、「日本人として日本に誇りを持ってもらえよう。ベストを尽くして戦ってほしい。これからも共闘と応援よろしくお願ひします」と締めくくった。

※日本代表・育成指導者表彰制度：日本代表(サライブル)、なでしこジャパンとして初進出された選手に関わった指導者の功績をたたえる



「変わらないもの、変えてはいけないもののために、われわれも変わっていく。そして皆さんとともに、世界一に向けて頑張っていきたい」と影山委員長(左)

# My Coaching



深江鷹志さん  
(FCアロンザ代表)

## コンセプトは「圧倒的自立」



深江 「圧倒的自立」です。サッカーは自分で判断し、実行するスポーツです。そのために日常から自分で決断できる選手を育てたいと考えています。「圧倒的自立」という言葉を前面に出せば、このクラブがどんな選手を育てたいか伝わりやすいのでは、と考えました。

——自立するためには人として成長しなければなりません。

愛知県豊田市を拠点とするFCアロンザは2018年の創設以降、23年のJFA全日本U-12サッカー選手権大会決勝に進むなど着々と力をつけている。クラブの代表であり、FCアロンザU-12を率いる深江鷹志さんに話を聞いた。○オンライン取材日：2025年6月24日

良いものは残さなければならぬ

——FCアロンザを立ち上げた経緯を教えてください。

深江 私は熊本国府高校を卒業後、佐川急便中京SCでプレーしていました。トヨタ蹴球団に所属していた25歳のとき、選手生活に一区切りをつけ、しばらくは自分が立ち上げた事業に専念していたのですが、息子が小学1年生の頃はまた近

所にサッカースクールがなかったため、選手時代のチームメイトだった鈴木淳也さん（FCアロンザU-15監督）と子どもたちにもサッカーを教え始めました。以降、徐々に人数が増えてきたので2016年にスクール化し、18年からはクラブチームとして活動しています。現在はU-12、U-15、そしてスクールを軸に活動しています。

——クラブのコンセプトは何でしょうか。

深江 私が携わっているほかの事業では、xとyの座標で物事を考えています。サッカーで考えると、横軸のxは普遍的な要素で、しつけや挨拶を含めて人間性を育てる上で欠かせないものです。縦軸のyは、時代の流れとともに変化させていかなければならないこと、すなわち情報収集能力、学ぶ姿勢、対応力です。情報化社会にいと新しいものばかりに目を奪われがちですが、良いものは残さなければなりません。そこを見極めつつ時代の流れに沿った指導を続けていきたいと考えています。

非日常の経験は

新たな成長の種になる

——現在、新たに取組まれていることはありますか。

深江 センスあふれる選手を育成できたいと思っています。テクニカルで遊び心があって見ている人が楽しいと感じるようなプレーができる選手です。ピッチの外では、周囲への気遣いができたり、身なりがきちんとしていたり、清潔感があったりするといいですね。楽しい会話ができることもそうです。それらをまとめて、「センスのある選手を目指そう」と伝えると、選手たちも良いリアクションをしてくれます。サッカーを通じて大人になるための準備をするイメージで、そのためには感性を磨くことが求められます。

——感性を磨くための取り組みについても教えてください。

深江 コロナ禍前は毎年、私の生まれ故郷である熊本県で2週間ほど合宿を行っていました。廃校の一室に布団を敷いて生活をしながらラフティングや山登り、トリアスロンをしていました。選手の多くは最初の3日間は合宿を楽しんでいるのですが、4日目以降になるとホームシックになって泣き始める者が出てきます。そうした状態を乗り越え、1週間から2週間がたつと、選手たちは精神的に強くなります。

3年前からは沖縄県でU-12年代の大会を開催し、選手間の親交を深めるほか、ビーチの清掃活動をしたり、沖縄の文化を学んだり、さまざまなことを体験しています。そうした経験によって感性が

磨かれ、さまざまなことに気づくようになります。安心、安全という意味では変わらぬ日常も大事なのですが、そこに非日常を入れることによって刺激が加わり、新たな成長の種になります。

——では、ピッチではどのような指導をされていますか。

深江 試合で実践できる基本技術を重点的に練習しています。今は練習メニューを制限していますが、チームを立ち上げたときはいつも2時間半近くボールを蹴っていました。サッカーでも他の分野でも、結果や成果を残している人に話を聞くと、初めは質よりも量を重視されています。練習で量をこなすために大事にしていたのは、リフティングでは回数、キックの練習ではどれだけ遠くに正確に蹴れたか、という数字です。選手たちは、数字を示されると、それが1回でも良くなる盛りに上がりますし、競争しながら取り組むとみんながその気になって、懸命に頑張るようになります。リフティングが1000回できる選手が1人出ると、その後すぐに2人目、3人目が出てくるんです。こうした人間の心理を利用し、選手たちのやる気を引き出しています。そして、できることが増えてきたら次のステージへと進み、気づきや感性に磨きをかけて、自らさまざまなことにチャレンジする選手になるようにと考えています。

——創設6年目の21年にはJFA第45回全日本U-12サッカー選手権大会に初出場、その2年後の第47回大会には準優勝という成績を残されました。

深江 第47回大会では出場チームで唯一、登録メンバー全員を試合に出しました。全力でサッカーに取り組んでいる選手たちを大舞台に立たせてあげたかったです。交代したメンバーの出場時間からです。交代したメンバーの出場時間も長く、大会を視察したJFAのテクニカルスタディグループの方には「育成しながら勝負している。こういうチームを目指したい」と言ってもらいました。特に準決勝は陸上競技場での試合だったので、多くの選手を起用しなかった。2100になったタイミングで選手交代を行うと、試合に出場できる喜びに震えて涙を流す選手もいて、私自身も素晴らしい経験させてもらいました。

### やりたいことの前にやるべきことを徹底

——独自の指導法を確立されているように感じます。

深江 とはいえ、私一人に依存するような体制だと組織が崩壊しますので、サポートを含めて10人前後のコーチにマネジメント研修会を実施しています。高校や大学でも企業研修を行う講師が最初に話すのは、やるべきこととやりたいことを区別できない人がとても多いということです。

サッカー界には社会人未経験のまま指導者になり、自分の知識を基に結果を残したい、自分が志向するサッカーを子どもたちに表現してもらいたいと考える指導者が多い気がします。クラブ運営においてやるべきことよりも、オン・ザ・ピッチのこと(やりたいこと)を先行させるからコーチが足りなくなったり、特定の学年だけが強くなったりとさまざまな問題を抱えてしまうのです。

——まずクラブの体力をつけることが、指導の充実につながるんですね。

深江 私たち指導者には、グループの中で役割があります。やるべきこととやりたいことを整理できる指導者を育成していかなければなりません。クラブや選手を管理することの重要性を指導者が理解していれば、組織で自分がすべきことは何かを、選手たちに落とし込むことができます。

——そのマインドを持った指導者が増えれば、組織も成長していきますね。

深江 実は今年から愛知県豊田市のほかに豊橋市でも活動を始め、4種年代を対象にした「FCアロンザ豊橋」を立ち上げました。FCアロンザを立ち上げた頃からお世話になっていた豊橋市サッカー協会の小林立治会長が代表を務めるチーム(FCアロンザ豊橋の前身)は市内で最も歴史のあるチームです。会長は豊橋市のサッカーをとにかく盛り上げたいという

思いをお持ちで、私たちもFCアロンザという組織を通して、豊橋市の選手たちにワクワクするサッカーライフを提供できるのではないかと考えていました。会長から「一緒にやれないか」と打診されたことを機に新たなチームを立ち上げることにしました。

——最後に、今後の目標をお願いします。

深江 サッカーの指導に携わるからには、一人でも多くプロの世界で活躍する選手を育てていきたいですし、サッカーだけではなく、社会に出てリーダーとして活躍できる人間を育てたいという思いもあります。そのためには根気よく指導していくつもりです。育成は一日の積み重ねであり、「今」の連続です。それを大切にしながら、「圧倒的自立」をコンセプトに活動を続けていきます。



ピッチ内外でさまざまな工夫を凝らし、選手たちの成長を促している

「新サッカー王国・千葉」の  
復活のために

各都道府県サッカー協会(FA)で配置が進む「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第24回は、千葉県サッカー協会の水庫祥元FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日：2025年6月16日

自前のフットボールセンター  
みんなが集まる場に

——千葉県サッカー協会(FA)のFAコーチに就任された経緯を教えてください。

**水庫** 高校教員をしながら長く千葉県サッカーに関わり、その間にユースダイレクターや技術委員長を務めてきました。千葉県では、最初に島田洋さんがFAコーチを務めていたのですが、2021年8月に急逝されました。FAコーチ不在の中、島田さんがされていた仕事をみんなで分担していたのですが、千葉県サッカーをさらに推進していくためにはFAコーチがいた方がよいということで、技術委員会で話し合い、23年4月から私が技術委員長と兼任することになりました。

——高校教員を辞められて就かれたと。

**水庫** 大学卒業後、高校教員として

てずっとサッカー部の監督を務めてきましたので寂しさはありません。ただ、学校の仕事と協会の仕事を両立させるのは大変です。少しでも技術委員会メンバーの助けになればと思い、決断しました。

——以降はどういった取り組みを進められていますか。

**水庫** 小学生から社会人まで全種別で全国優勝を果たし、「新サッカー王国・千葉」と言われた時期がありました。しかし、ここ数年は関東でもいろいろな部分で後れをとっていると感じています。例えば、2種年代ではJクラブや市立船橋高校、流通経済大学付属柏高校などの活躍が目立っていますが、それ以外のチームや3種、4種年代についてはテコ入れをしていかなければならない状況です。いろいろな現場を見られるというメリットを生かし、FAコーチとしてトレセンの質や種別間のつながりなど選手の手育成・強化、指導者養成、女子サッカーと幅広い分野に力を注いでいます。

——「新サッカー王国千葉」を復活させるためのビジョンとは？

**水庫** 千葉県FAの川崎浩祐副会長が中心となり、24年から

28年までの指針「千葉県サッカーアクションプラン」を策定しました。キッズなどの普及や障がい者、審判なども含めた全カテゴリーの指針です。技術関連のところは、川崎副会長と話し合っただけで中身を詰めました。28年から逆算して今何をすべきかを具体的に提示し、年度末にその進捗状況を確認する形で進めています。アクションプランがあることで、立ち返る場所、目標とすべきところが明確になりました。技術委員会の会議も報告や連絡が多かったのですが、まずは議論する形に変え、アクションプランを基にやるべきことを整理して取り組んでいます。

千葉県サッカー  
アクションプランは  
下記のURL内を参照



——高円宮記念JFA夢フィールドのすぐ横に千葉県フットボールセンターのピッチがあります。

**水庫** 長年の夢だった自前のフットボールセンターです。男女のトレセンや指導者養成講習会の開催



千葉県フットボールセンターで指導者養成講習会も多く開催。「いろいろな種類の指導者と知り合い、情報を共有できている」と水庫コーチは話す

など、まさに「みんなが集まる場」なっています。私もここを拠点に活動することで事務局との連携も円滑になり、FA全体の風通しも良くなっていると感じています。また、日本サッカー協会(JFA)とも情報共有や連携が容易ですし、時には日本トップレベルの活動を視察することもできます。交通の便も良く、非常に良い施設だと実感しています。

**トレセンと指導者養成、女子のそれぞれの取り組み**

——トレセン活動については現状をどのようにご覧になっていますか。

**水庫** U-11~16の男女を対象にブロックトレセンや県トレセンを行うなど、数自体は多いのですが、そのコンセプトや中身をチェックする人がおらず、各トレセンコーチのサツ



千葉県FAで技術委員長兼FAコーチとして活動する水庫氏

カー観で指導している部分が見受けられ、種別間のつながりも希薄でした。それらを一度チェックする体制をつくって種別間の連携を強化し、コンセプトも明確にして質を上げていこうとスタートしました。

——具体的にどのようなことに取り組まれましたか。

水庫 トレセンコーチ研修会を毎年2回開催しているのですが、参加率があまり高くない、コンセプトもしつかりと落とし込めていなかったため、交通費を負担する形で、全カテゴリー、全ブロックの指導者にマストで参加してもらおうようにしました。そして、JFAの考えに沿って、サッカーの目的や原理原則、攻守の基本戦術、テクニックという観点でトレーニングとゲームを分析し、選手に伝えていこうと。コンセプトの落とし込みは徐々にできてきている段階だと思います。

また、これまではトレセンマッチデー以外にも平日に月1〜2回活動していましたが、平日のトレセン活動はやめて、トレセンマッチデーの月1回という形にしました。選手の負担を考へての施策であり、これも質の向上に寄与できればと考えています。

——今後トレセンをどのように

発展させていきたいとお考えですか。

水庫 トレセンの参加選手を見ても全体のレベルは上がっていると思います。ただ一方で、何かしら特長のある選手や面白いと思える選手が少なくなっているなど。そういう選手をいかに発掘して伸ばしていくかが今後の課題です。そのほかには、トレセンでフィジカル測定をするようになりました。そのデータを分析し、選手の成長段階を見ながら、身体的な能力に長けた選手も育てていきたいですね。

——指導者養成についてはいかがでしょうか。

水庫 昨年は、Bライセンス養成講習会を2コース、Cライセンス養成講習会を9コース、Dライセンス養成講習会を15コース開催し、リフレッシュ研修会も9回実施しました。Bライセンスは2コースとも私がチューターを務め、Cライセンス以下はチューター28人で協力しながら進めています。BとCライセンスコースに関しては、参加者のタイプ、抱えている悩みや問題に寄り添うために、できるだけ個別対応をした方が良く考え、今年からチューターを3人体制にしています。1人がメインで仕切っている間、他の2人は参加者と個別に対話

できる時間をつくれますので、非常に効果的だと思っています。

——指導者養成事業をさらに充実させるために必要なこととは？

水庫 サッカーはどんどん進歩していますから、ライセンスを取得後、リフレッシュ研修会を含めて指導者が学ぶ場、自らをブラッシュアップさせる場をつくってほしいと考えています。

それもあって、今年から新たな取り組みに着手します。例えば、Dライセンス講習会を開催すると大体40人弱の参加者が集まりますが、その多くが4種年代の大会でベンチ入りするために取得しており、Cライセンス取得に進む人は数えるほどです。Bライセンスも同じで、日程の長さや費用がネックになり、希望者が頭打ちの状態です。そこで、もう少し指導の勉強をしたいという指導者を対象に千葉県FA独自の研修会を開催する予定です。指導者ライセンスを持っていない人、あるいはDライセンスを取得した人向けに3日間の研修会、Cライセンス保持者向けに4日間の研修会などを企画し、多くの参加者を募りたいと思っています。

——女子サッカーの取り組みに

ついても教えてください。

水庫 国民スポーツ大会の少年女子の参加資格がU-16になったことに伴い、アドバイザーとして3年間携わりました。そこで感じたのは、女子に関わる指導者や女性指導者が少ないということ。ですので、指導者養成講習会を受講してはいるけれど指導チームがない指導者に、女子の指導をやってみないかと働き掛けています。また、毎月第4土曜日に千葉県フットボールセンターで、中学校の部活動で男子と一緒にプレーしている女子選手を集めて練習会を開催していますので、そこに指導で加わってもらっています。

これまで女子U-12トレセンを指導する指導者は全員、男性でした。指導者養成講習会とリンクさせながら女性指導者の関わりも増やしていくことで、今年からは2人の女性指導者も加わることになりました。併せて、女性トレーナーの派遣もできるようにするなど、女性の活躍機会を創出できているのは良いことかなと思います。

——最後に、今後の意気込みをお願いします。

水庫 少子化が進展している中で、トップで活躍する選手だけでなく、サッカーを楽しむ層へのアプロ

チも強化し、みんながサッカーを楽しむ環境をつくっていききたいと考えています。JFAが掲げる「Japan's Way」のダブルプレミアムッドの考え方に沿い、スポーツを文化にすることを目指していきたいと思っています。

先ほど能力が高い個性的な選手を育成していきたいと言いましたが、個性的で、指導力のある指導者も多く輩出してほしいですね。本田裕一郎先生、布啓一郎先生といった高校サッカーの指導者だけでなく、女子でも今泉守正先生など個性豊かな指導者が生まれている千葉県です。「新サッカー王国・千葉」の復活のために、今後も尽力していきたいと思っています。



「2年間専任で活動し、トレセンを中心にいろいろな種別のサッカーを見ることができるようになり、現状が把握できた」と水庫FAコーチ。女子サッカーにも積極的に関わっている

セネガル代表のサディオ・マネ選手(33歳)は海外のスター選手の中でも、日本のファンになじみの深い人ではないでしょうか。

セネガル南部の農村で生まれ、15歳で家を出して首都ダカールの選手養成機関に加入。19歳で欧州に渡り、フランス、オーストリア、イングランド、ドイツの強豪クラブでプレー、現在はサウジアラビアのアル・ナスルに所属しています。

2018年にはFIFAワールドカップ・ロシア大会に出場、日本代表との対戦で先制点を決めました。しかしマネ選手と日本のつながりはそれだけではありません。イングランドのサウサンプトンに在籍していた時代(2014~16年)には日本代表の吉田麻也選手と、そしてリバプール時代(2016~22年)には南野拓実選手とチームメイトで、特に吉田選手とは今でも良い友達だそうです。

そのマネ選手がリバプールからドイツの強豪バイエルン・ミュンヘンに移籍したばかりの2022年8月のことです。ブンデスリーガの第3節で、バイエルンはアウエイでポーフムと対戦しました。ポーフムには、浅野拓磨選手がいました。マネ選手は開幕節でバイエルンでの初得点を挙げていましたが、大きな

## いつも心に

連載 Vol.147

大住良之

# リスペクト

RESPECT  
大切に思うこと

(サッカージャーナリスト)

## 手に当たっちゃったんだ

期待を受けて加入したばかりのストライカーとして、この試合でももちろん得点を狙っていたはずです。

2013年からブンデスリーガ10連覇という「無敵」のバイエルンは絶頂期にありました。この試合でも、前半33分までに3-0とリードし、開幕からの3連勝は確実でした。マネ選手も、先制点に見事なアシストをしていました。そうした中、前半40分過ぎに「事件」が起こります。

左後方から送られたボールに合わせて走り込んだキングスレイ・コマン選手が右ポスト前でヘディング。しかしボールは左ポストをわずかに外れるように飛んでいきます。そこに一人の選手が左から猛スピードで走り込み、左足を上げてゴールに押し込んだのです。マネ選手でした。主審は「ゴール」の合図をしました。

しかし勢い余ってゴールネットに寄り掛かるように座り込んだマネ選手には、歓喜の表情はありません。そして走り寄ってきたコマン選手に向かって、まるでいたずらを見つかってしまった小学生のようにウインクしながら、白いテープを巻いた自分の左手を右手でとんとんと叩きました。

「手に当たっちゃったんだよ」

「ハンド」の反則は、ボールが手に当たったかどうかだけでは決められません。意図的であったか、あるいは不自然に手を広げていたかなど、主審が判断して反則かどうかを決めます。しかしボールが攻撃側の手に当たって直接ゴールに入ったか、あるいは手に当たった直後に得点したりした場合には、その「ハンド」が意図的ではなく完全に偶発的だったとしても、得点は認められません。ルールの「根本精神」の一つである「公平」の観点から定められた規則です。

もちろん、全てのゴールはビデオアシスタントレフェリー(VAR)のチェック対象になります。マネ選手の「ゴール」もさまざまな角度からチェックされるでしょう。その過程で「手に当たった」ことも明らかになるでしょう。

しかしマネ選手は、そうした手順を待たず、自分から「手に当たった」と告白したのです。

リプレーを見ると、コマン選手がヘディングしたボールは、高く上げたマネ選手の左足をかすめ、左ポストに当たると、マネ選手の左腕に当たってゴールに

入っていました。VARからの助言を受けて、主審はノーゴールにしました。「手に当たった」という「事実」だけが問題だったので、主審が映像を確認する必要はありません。



自身のハンドを申告した後、サディオ・マネ選手(中央右)は2ゴールを挙げる堂々の活躍。チームメイトも祝福した(2022年8月21日、2022-23ブンデスリーガ第3節より)

ストライカーならどんな状況でも自分自身のゴールがほしいもの。それを「手に当たった」と告白したマネ選手の人間性は高く評価されました。

そしてこの直後に、マネ選手は「真正正銘のゴール」を決め、後半にもPKで1点を取って、7-0の勝利に貢献したのです。



# JFAの所蔵品から ひもとく 日本サッカーの歴史

日本サッカー協会(JFA)が保有する所蔵品や資料などから日本サッカーの歴史をひもとく本連載。今号はJFAシンボルマークをお届けする。

## ■旗章制定

青い縁取りと黄色の地にサッカーボールを押さえた三本足の鳥。日本サッカー協会(JFA)の旗章シンボルマークだ。黄色は公正を、青は青春を表し、はつらつとした青春の意気に包まれたJFAの公正の姿勢と気構えを表している。

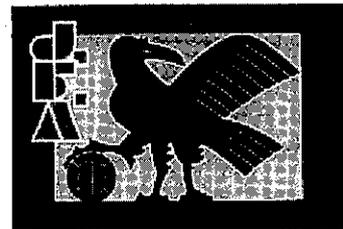
旗章を制定することが決まったのは1931(昭和6)年6月3日の大日本蹴球協会の理事会で、翌32年11月6日の全国代議員会で「協会旗を日名子実三氏案に定む」(蹴球)33年2月/第2号と決定した。

日名子は1893(明治26)年に大分に生まれ、1918年に東京美術学校(東京藝術大学の前身)を卒業した彫刻

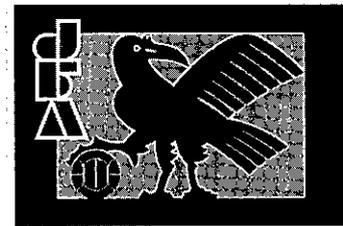
## JFAシンボルマーク

文: JFAコミュニケーション部 藤ノ木 恵

### シンボルマークの変遷



1931年~1997年



1997年~2016年



2016年~

家で、スポーツ選手の肖像やスポーツ関連のトロフィー、メダルなどを数多く手掛けており、「スポーツ芸術」の分野を確立した人物でもある。

日本は1912(大正元)年に初のオリンピック(ストックホルム大会)出場を果たすと、20年のアントワープ大会で男子テニスのダブルスとシングルで初の銀メダル、28年のアムステルダム大会では陸上と水泳で金メダルを獲得した。日名子が東京美術学校に学び、卒業後に彫刻家として活動し始めた当時は、日本のスポーツが世界へと飛躍しようとしていた時代だった。

制作している。そのことから協会の旗章を依頼するのに適任の人物だったと言えるだろう。

■三本足の鳥  
旗章は、「古事記」や「日本書紀」などに神武天皇東征の際に道案内をしたという八咫鳥をモチーフに制作されたと考えられている。そして、その鳥は三本足で描かれている。

制作している。そのことから協会の旗章を依頼するのに適任の人物だったと言えるだろう。

■シンボルマーク  
「三本足の鳥」はその後、さまざまな形で協会のシンボルマークとして使用され、各都道府県サッカー協会の旗章にも採用されるようになった。1987年には、欧州や南米の強豪国の代表に倣って日本代表のユニフォームの胸にエンブレムとして着けられることに。1999年には三本足の鳥をモチーフにした日本代表のマスケット「カララ」と「カララ」も誕生。代表戦やイベントなどに登場するなど、子どもたちをはじめ、多くのファンに愛されている。

時代とともにシンボルマークも「JFA」のロゴも変化していく。大きな意匠変更がなかったのは2017年。この前年、JFAは「JFA2005年宣言」の実現に向けた基盤強化の一環としてブランドの再構築に着手した。「時代を超えて愛され続ける普遍的なモダンさ」をコンセプトに、「組織」「日本代表」「大会」「事業」の4領域に分け、まずは、JFAのシンボルマークとロゴをリニューアルした。それらは地域・都道府県サッカー協会でも使用されている。その後、日本代表のエンブレムとロゴ、本誌や公式WEBサイト「JFA.jp」などのオウンドメディアのほか、「チケットJFA」や「JFA ID」といった各種事業のロゴタイプのリデザインを統一するとともに、JFAが主催する各大会の名称とロゴも一新した。

統一感のあるデザインはサッカー協会全体の認知度とブランド力を高め、それが、各種活動を進める原動力にもなるだろう。シンボルマークに込められた意味や思いに背くことなく、真摯にサッカーの発展に尽くすことが、われわれサッカー関係者に課せられた使命であることを忘れてはならない。

●出典:「日本サッカー協会百年史」

## 日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>

## 株式会社ICとJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結 ～能力開発支援システム「iDEP」を通じ、 選手育成の充実化と日本サッカー強化につなげる

JFAは、株式会社ICとJFAソーシャルバリューパートナー契約を締結した(6月12日発表)。

同社が開発した「iDEP」は、個人能力開発計画(IDP)に基づいた能力開発支援システムで、選手個人の目標設定から達成に至るまでの道筋を可視化するとともに、自身の活動を記録・分析したデータを管理し、選手のモチベーション向上や目標達成をサポートするもの。JFAは、このシステムをJFAアカデミー福島とJFAアカデミー熊本宇城をはじめとする選手育成に導入し、選手一人一人の可能性を最大限に引き出しながら適切な指導を行う。

JFAは、本パートナーシップを通じて日本サッカーの次代を担う選手を育成し、「JFAの約束2050」の実現を目指す。

### 【JFAソーシャルバリューパートナー契約概要】

契約社名：株式会社IC (東証スタンダード4769)

対象：育成(男子) JFAアカデミー福島、熊本宇城など

目的：個人の能力開発支援のメソッドを取り入れた「iDEP」を活用して選手個々のデータを一元管理することで、より効果的/効率的に育成年代の選手の成長をサポートする。

締結日：2025年6月1日(日)

### ●宮本恒靖JFA会長コメント

能力開発支援システム「iDEP」を運営する株式会社ICにJFAソーシャルバリューパートナーとして加わっていただけることを大変うれしく思います。IDPのメソッドを用いた「iDEP」を選手育成事業に導入して選手個々の可能性を最大限に引き出すことで、日本サッカーの強化・発展につながると信じています。株式会社ICにサポートいただきながら、より正確なデータを残すことができるよう、サッカーの現場においてもIT化、システム化を推進していきます。

### ●齋藤良二 株式会社IC代表取締役社長執行役員コメント

このたび、「iDEP」は2050年の世界一を目指す日本サッカー協会のビジョンに共感し、協賛させていただくことになりました。私たちは「iDEP」を通じて日本サッカー界の教育・育成に貢献し、世界に羽ばたく選手たちの成長を全力でサポートしてまいります。

## Football for the Goals 公式メンバーに参画

JFAは、国際連合が提唱する「Football for the Goals(以下、「FFTG」)」イニシアチブに公式メンバーとして参画する。これにより、JFAはSDGsが目指している「誰一人取り残さない」世界の実現に向けた活動に一層注力していく(6月9日発表)。

### ●Football for the Goals (FFTG)とは

FFTGは、国際連合が2022年に発表したイニシアチブで、世界的に影響力の強いサッカーの力を通じてSDGsの認知度を高めてサッカー界における行動を変革し、目標達成に向けた行動や実践の促進、持続可能性、人権、気候変動対策などを推進することを目的に設立されたプラットフォーム。参画メンバーはSDGsの達成に向けた活動を推進する役割を担う。

### ●JFAの参画目的と役割

JFAは国内のサッカー統括団体として、大会、選手、各種イベントなどを通じてSDGsの知名度を向上させ、またスポーツを含むあらゆるビジネ

スマモデルを通じて、SDGsの重要性を示すことで持続可能な社会を目指した行動を実践および啓発することを目的に参画する。

具体的には以下の活動を通じて、SDGs達成に向けて貢献していく。

- ・環境：気候変動への対策(温室効果ガス排出削減などの緩和策や熱中症対策の啓発などの適応策)
  - ・人権：暴力・暴言の根絶を含む「リスペクト」や「セーフガーディング(\*)」、誰もがサッカーを楽しめる環境を創出する「アクセス・フォー・オール(\*\*)」の活動推進。
  - ・健康：心身の健康の増進につながるグラスルーツフットボールの推進
  - ・教育：「夢の教室」などスポーツを通じた学びの機会づくり
  - ・地域：防災・減災への取り組みなどの地域における取り組み推進
- (\*)子どもたちがサッカー、スポーツを安心、安全に楽しむ権利とその環境を守るための取り組み
- (\*\*)グラスルーツからエリートまで誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる、多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けるための取り組み

## 能登半島地震復興支援プロジェクト～ウォーキングフットボール交流イベント「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」を石川県輪島市(町野地区)で開催

JFAとJFAオフィシャルトップパートナーのキリンホールディングス株式会社(以下、キリン)は6月14日、石川県輪島市の町野地区で「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」を開催した。

同イベントは、能登半島地震復興支援プロジェクトの一環として実施しているもので、昨年の石川県能登町、輪島市(門前地区と輪島地区)、珠洲

市、今年は輪島市(三井地区)、金沢市に続いての7回目の開催となる。イベント当日は、元日本代表の永島昭浩さんと中西永輔さんがゲストとして参加。また、SAMURAI BLUE(日本代表)の町野修斗選手がサプライズで登場し、参加者とウォーキングフットボールで汗を流した。

JFAとキリンは、2011年から東日本大震災の復興支援プロジェクトとし

て「JFA・キリン スマイルフィールド」と「JFA・キリンビッグスマイルフィールド」を、2016年に熊本地震が発生した際は「JFA・キリン 熊本復興応援 サッカー教室」を実施するなど、自然災害によって被災した地域の人々とサッカーを通じて親睦を深め、10万人を超える子どもたちや地域の人々

に笑顔を届けてきた。今後も、JFAとキリンは、被災地の人々に寄り添いながら、サッカーを通じたコミュニティの活性化と多くの人々が触れ合う機会を創出していく。



当日はサプライズゲストとしてSAMURAI BLUEの町野選手も参加(写真)。ウォーキングフットボールは初体験という町野選手は「思わず走りそうになってしまうくらい楽しめた。子どもから大人まで幅広い方と一緒にプレーをすることができ、とても良いイベントだと思った」とコメント

## 育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD ～コモ1907 エリートパフォーマンスサマーキャンプに選手2人を派遣

JFAとJFA オフィシャルサプライヤーのアディダス ジャパン株式会社は「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD(ドリームロード)」の一環として、イタリア・セリエA に所属するコモ1907が主催する「コモ1907 エリートパフォーマンスサマーキャンプ」に2人の選手を派遣する(6月12日発表)。

2023年度から多くの選手を対象に海外クラブへの短期留学を実現させてきたDREAM ROADだが、2025年3月のDREAM ROADの留学先となったコモ1907とのつながりで、再び、同クラブへの留学が実現。今回はプロフェッショナルの環境で2週間のプログラムを受けられるキャンプに以下の選手が参加する。

### ■実施概要

期間 : 2025年6月21日(土)～7月7日(月)  
場所 : イタリア/ロンバルディア州  
留学クラブ : コモ1907

### ■2025年度 コモ1907 エリートパフォーマンスサマーキャンプへの参加選手

#### ●オノノジュ 類主(オノノジュ ルイス)

所属 : FC東京U-18  
ポジション : MF  
学年 : 高校1年生

<コメント>滅多にない経験をさせてもらうのでイタリアで自分の長所をいっぱい見せていきたいと思っています。

#### ●齋藤 翔(サイトウ カケル)

所属 : 横浜FCユース  
ポジション : FW

学年 : 高校2年生

<コメント>まずは、このような機会を与えていただいたことに感謝し、日本とは文化もサッカーも異なる国で自分の長所を存分に出し、強くなって日本に帰って来られるようにしたいです。

### ※育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD :

心身の成長著しい育成年代の選手に充実したトレーニング機会を提供することで「世界基準の選手」を育成することを目的に、JFAとアディダス ジャパン株式会社の価値共創プロジェクトとして発足。育成年代で世界基準の環境に身を置き、若いうちからハイレベルな経験をすることで、日本サッカー界を担う選手へと成長することを目指す。

### <2023年度実施>

レアル・ソシエダド(スペイン)

: 2023年11月20日(月)～12月3日(日) 4名

バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)

: 2023年11月26日(日)～12月10日(日) 6名

フラムFC(イングランド): 2024年2月4日(日)～19日(月) 5名

レアル・ソシエダド(スペイン)

: 2024年3月17日(日)～4月2日(火) 4名

### <2024年度実施>

リバープレート(アルゼンチン): 2024年9月15日(日)～30日(月) 4名

ロサンゼルス・ギャラクシー(アメリカ)

: 2024年10月20日(日)～11月4日(月) 4名

バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)

: 2024年11月24日(日)～12月9日(月) 4名

UANLティグレス(メキシコ): 2025年2月16日(日)～3月3日(月) 4名

コモ1907(イタリア): 2025年3月16日(日)～4月1日(火) 5名

### 日本サッカー協会×日本漢字能力検定協会「全力蹴球プロジェクト」を始動

JFAと「今年の漢字」を主催する公益財団法人日本漢字能力検定協会（以下、漢検協会）は、2025年6月から「全力蹴球プロジェクト」と題したコラボレーション企画をスタートさせる（6月11日発表）。

本プロジェクトは、生涯スポーツとしてのサッカーと生涯学習としての日本語・漢字の振興を通じて、スポーツと学びの楽しさや喜びを伝えていくことを目的に実施する。FIFAワールドカップ26に向けたSAMURAI BLUE（日本代表）の合言葉「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」とも連動し、年間を通じてSAMURAI BLUEを応援する特別コラボ企画を実施していく予定。

#### 【「全力蹴球プロジェクト」概要】

##### ●blue-ing!「今年の漢字」30周年記念特別展示

1995年にスタートした「今年の漢字」は今年30周年を迎える。これを記念し、漢検協会は、歴代の「今年の漢字」にゆかりのある場所で大書を展示。日本代表が初めてワールドカップ出場を決めた1997年には、「倒（たおす）」が「今年の漢字」の第1位に選ばれた。そして今年、SAMURAI BLUEが8大会連続8度目のFIFAワールドカップへの出場権を獲得。それを記念し、「今年の漢字」30周年記念特別展示の一環としてblue-ing!で「倒」の大書レプリカの特別展示を行うことが決まった。

- ・期間：2025年6月14日（土）～
- ・場所：JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」
- ・展示：1997年「今年の漢字」第一位「倒」の大書（レプリカ）

##### ●SAMURAI BLUE 漢字検定（プリント）の配布

FIFAワールドカップ26に向けたSAMURAI BLUEの意気込みやこれまでのワールドカップの激闘の歴史を題材に、JFAと漢検協会がオリジナル漢字検定を共同開発。サッカーの知識をヒントに漢字問題を解くことができ、楽しみながら学ぶことができる。漢字検定10級から最も難易度の高い1級までの幅広い難易度で構成しているため、子どもから大人まであらゆるレベルの学習者に対応した構成になっている。

- ・配布時期：6月11日（水）～
- ・配布場所：JFAサッカー文化創造拠点 blue-ing!、漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）など

※下記の特設ページからダウンロードも可能

・JFA「最高の景色を」

特設ページURL [https://www.jfa.jp/samuraiblue/for\\_our\\_greatest\\_stage\\_2026](https://www.jfa.jp/samuraiblue/for_our_greatest_stage_2026)



・日本漢字能力検定協会「全力蹴球プロジェクト」

特設ページURL <https://www.kanken.or.jp/kanken/fun/jfa-samuraiblue.html>



●今、あなたに贈りたい漢字コンテスト「SAMURAI BLUEを応援しようキャンペーン！」

漢検協会が2013年から毎年行っている、大切な人に漢字一字を贈る「今、あなたに贈りたい漢字コンテスト」のSAMURAI BLUE応援版。チームや監督、各選手に向けた漢字一字を募集。詳細は決まり次第発表。

・期間：2025年秋以降に予定

●漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）で「最高の景色を2026」特別展示ブースを設置

FIFAワールドカップに向けてJFAが掲げている合言葉「最高の景色を」に関する特別展示ブースを、期間限定で漢検 漢字博物館・図書館（漢字ミュージアム）に設置することを計画。展示内容などの詳細は決まり次第発表。

・期間：2025年秋以降に予定

・場所：漢字ミュージアム（京都府京都市東山区祇園町南側551番地）



6月11日、京都府の漢字ミュージアムで「全力蹴球プロジェクト」発表会を実施。左からオジノズボン篠宮暁さん、SAMURAI BLUEの森保一監督、漢検協会の山崎信夫理事長

### 「JFAユニクロマルチスポーツキッズ」を国立競技場で初開催

JFAと株式会社ユニクロ（以下、ユニクロ）は6月21日、東京都の国立競技場で「JFAユニクロマルチスポーツキッズ」を開催した。

JFAユニクロマルチスポーツキッズは、スポーツを通じて子どもたちの健やかな成長を支援する取り組みとして、JFAとユニクロが新たに立ち上げたもの。小学1～3年生を対象にした、サッカー、野球、陸上、ラグビーの4種目を1日で体験できるマルチスポーツイベントだ。

2025年の開催は1回限りとなるが、JFAとユニクロは「JFAユニクロサッカーキッズ」で培った20年にわたる経験を生かし、子どもたちが多様なスポーツ経験を通じて、運動能力の向上、挑戦する意欲やコミュニケーション能力、リスペクト精神などを育むためのサポートをしていく。

イベント当日は約400人の子どもたちが参加し、スペシャリストの豪華アスリートらが子どもたちを直接指導。水分補給をするなど熱中症対策も講じながら、各種目を楽しみ、交流を図った。

#### 【JFAユニクロマルチスポーツキッズ 開催概要】

- 主催：公益財団法人日本サッカー協会（JFA）
- 特別協賛：株式会社ユニクロ
- 協力：一般財団法人世界少年野球推進財団（WCBF：World Children's Baseball Foundation）  
ユニクロ女子陸上競技部（UNIQLO Women's Track Team）  
公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（JRFU：Japan Rugby Football Union）
- 後援：公益財団法人日本スポーツ協会（JSPQ：Japan Sport Association）
- 開催日：2025年6月21日（土）9:45～12:45
- 会場：国立競技場（東京都新宿区霞ヶ丘町10-1）
- 対象：小学1～3年生 約400名

参加費：無料

体験種目：サッカー、野球、陸上、ラグビー

スペシャルゲスト：〔サッカー〕内田篤人さん、宮間あやさん、〔野球〕五十嵐亮太さん（元プロ野球選手）、〔陸上〕朝原宣治さん（陸上短距離元日本代表、北京オリンピック銀メダリスト）、〔ラグビー〕田中史朗さん（元ラグビー日本代表〔ラグビーワールドカップ2011・2015・2019出場〕）

#### ●宮本恒靖JFA会長

「JFAユニクロマルチスポーツキッズ」は、子どもたちにさまざまなスポーツの魅力を伝える新たなチャレンジです。私もサッカーを始める前はソフトボールをしていましたが、異なるスポーツの動きを体験することは、さまざまな身体の動かし方を学ぶことにもつながります。国立競技場



サッカー競技では内田篤人さん（写真）と宮間あやさんがコーチとして参加

という特別な舞台で、子どもたちが伸び伸びと体を動かし、スポーツの楽しさを体感してくれることを願っています。ユニクロとのパートナーシップの下、これからも子どもたちの健やかな未来を応援していきます。

#### ●柳井康治 株式会社ファーストリテイリング 取締役 グループ上席執行役員

今回の新たな取り組みは、複数のスポーツ体験をすることで、よりたくさん子どもたちがスポーツに興味を持つきっかけにできるのではないかと宮本会長との話から実施につながりました。仲間とスポーツを楽しむ、心身の成長につながり、サッカーをはじめとするスポーツを続けてくれる子どもたちが増えることを期待しています。ユニクロは、JFAとのパートナーシップのもと、これからも未来を担う子どもたちの笑顔と夢を応援してまいります。



野球（写真）、陸上、ラグビーも順々に体験

## SAMURAI BLUE(日本代表)

<https://www.jfa.jp/samuraiblu/>



### SAMURAI BLUEの公開練習チケット販売収益から サッカーファミリー復興支援金として3,238,649円を拠出

JFAは、SAMURAI BLUE(日本代表)が6月7日にJ-GREEN堺(大阪府)で行った一般公開トレーニングにおける見学チケット販売収益から3,238,649円を「サッカーファミリー復興支援金」として拠出した(6月13日発表)。

#### ■サッカーファミリー復興支援金

サッカーファミリー復興支援金に充当する金額：3,238,649円

対象イベント：SAMURAI BLUE(日本代表)公開練習

※2025年6月7日(土)大阪/J-GREEN堺S1メインフィールド

拠出金の内訳：公開練習の見学チケット販売収益の一部

※サッカーファミリー復興支援金：被災された地域や避難されたサッカーファミリーが、これまで通り、誰もがいつでもサッカーを楽しむことができる環境の復興支援に使われる。過去にも東日本大震災、熊本地震で同じ形で寄附を募り、復興支援金として拠出。

## フットサル日本代表

[https://www.jfa.jp/national\\_team/futsal\\_2025/](https://www.jfa.jp/national_team/futsal_2025/)



### 10月17日、静岡県の北里アリーナ富士で国際親善試合を開催

JFAは、フットサル日本代表の国際親善試合を10月17日と19日に静岡県の北里アリーナ富士で開催することを決定した。静岡県でフットサル日本代表戦を開催するのは初めて。なお、当初9月に予定していたSAGAアリーナ(佐賀県)での国際親善試合は、AFCフットサルアジアカップインドネシア2026予選の日程変更に伴い、この北里アリーナ富士での試合に変更となった(6月20日発表)。

【フットサル日本代表 国際親善試合 概要】

#### ●第1戦

日時：2025年10月17日(金)キックオフ時間調整中

会場：静岡/北里アリーナ富士

対戦：調整中

主催：公益財団法人日本サッカー協会

主管：一般財団法人静岡県サッカー協会

JFAオフィシャルトップパートナー：キリンビール株式会社、  
キリンビバレッジ株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社  
テレビ放送：調整中

### ●第2戦

日時：2025年10月19日(日)キックオフ時間調整中  
会場：静岡/北里アリーナ富士

対戦：調整中

主催：公益財団法人日本サッカー協会

主管：一般財団法人静岡県サッカー協会

JFAオフィシャルトップパートナー：キリンビール株式会社、  
キリンビバレッジ株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送：調整中

## AFCフットサルアジアカップインドネシア2026予選の組み合わせが決定

今年9月に開催されるAFCフットサルアジアカップインドネシア2026予選の組み合わせ抽選会がマレーシアのクアラルンプールで行われ、日本はグループCに入り、第1戦をカンボジア、第2戦をマカオ、第3戦をタジキスタンと対戦する(6月26日発表)。

AFCフットサルアジアカップインドネシア2026には、予選各グループ1位の8チームと、各グループ2位のうち成績上位7チームにホスト国のインドネシアを加えた16チームが出場する。

### ■AFCフットサルアジアカップインドネシア2026予選 グループ組み合わせ

[グループA] A1：クウェート(H)、A2：オーストラリア、A3：モンゴル、A4：インド

[グループB] B1：タイ(H)、B2：韓国、B3：バーレーン、B4：ブルネイ

[グループC] C1：日本、C2：タジキスタン(H)、C3：マカオ、C4：カンボジア

[グループD] D1：イラク、D2：サウジアラビア(H)、D3：チャイニーズ・タイペイ、D4：パキスタン

[グループE] E1：ベトナム、E2：レバノン、E3：中国(H)、E4：ホンコン・チャイナ

[グループF] F1：ウズベキスタン、F2：キルギス(H)、F3：東ティモール、F4：パレスチナ

[グループG] G1：イラン、G2：マレーシア(H)、G3：UAE、G4：バンラデシュ

[グループH] H1：アフガニスタン、H2：ミャンマー(H)、H3：モルディブ

※(H)は各グループのホスト(予選開催国)チーム

※日本のマッチスケジュール詳細は、決まり次第発表

### ●高橋健介フットサル日本代表監督コメント

このチームはAFCフットサルアジアカップインドネシア2026で優勝すること、そして2028年に行われるFIFAフットサルワールドカップに出場して結果を残すことを目標としています。どのグループに入ったとしてもやることは同じだと考えています。新チームが発足して最初の公式戦になるので、この3試合に勝利して良い形で予選突破ができるように、一つ一つしっかりと準備をして臨みたいと思います。

## U-17日本女子代表

[https://www.jfa.jp/national\\_team/u17w\\_2025/](https://www.jfa.jp/national_team/u17w_2025/)



## FIFA U-17女子ワールドカップモロッコ2025のグループステージ組み合わせが決定

10月17日に開幕予定のFIFA U-17女子ワールドカップモロッコ2025の組み合わせ抽選会が6月5日、モロッコのラバトで行われ、日本はグループFに入り、ニュージーランド、パラグアイ、ザンビアと同組になった。同大会はこれまでの16チームから24チームに参加チーム数が拡大。グループステージは4チームずつ6グループに分かれて行われ、各グループ上位2チームと3位のうち成績上位4チームがノックアウトステージに進出する。

### 【グループステージ 組み合わせ】

グループA：ブラジル、コスタリカ、イタリア、モロッコ

グループB：カメルーン、朝鮮民主主義人民共和国、メキシコ、オランダ

グループC：中国、エクアドル、ノルウェー、アメリカ

グループD：カナダ、フランス、ナイジェリア、サモア

グループE：コロンビア、コートジボワール、韓国、スペイン

グループF：日本、ニュージーランド、パラグアイ、ザンビア

※マッチスケジュールの詳細は決まり次第発表

### ●白井貞義U-17日本女子代表監督コメント

毎年開催となったFIFA U-17女子ワールドカップに出場するU-17日本女子代表チームの指揮を執れることを大変光栄に思います。組み合わせが決定し、身の引き締まる思いです。また、それぞれスタイルの異なる相手との真剣勝負は大変楽しみです。いずれも非常に高い個と組織の力を持った相手であり、私たちにとって大きな挑戦となります。U-17日本女子代表は「世界一」を奪還する準備をしてきました。一戦一戦を大切に、選手たちの持つ創造性とひたむきな姿勢をピッチで表現し、世界に挑みたいと思います。そして、将来のなでしこジャパン(日本女子代表)での活躍につながる機会にします。大きな舞台で成長する選手たちの姿を、ぜひ多くの方々に見守っていただければ幸いです。皆さまの温かいご声援が選手たちの大きな力になります。どうぞ応援よろしくお願いたします。



## 審判交流プログラム～イングランド、ポーランドより審判員を招聘

JFAはJリーグと協働し、PGMOL (Professional Game Match Officials Limited) /プレミアリーグを担当する審判員とその指導者が所属する組織)、ポーランドサッカー協会との「審判交流プログラム」として、下記の審判員を招聘した(6月5日発表)。

### 【審判交流プログラム 概要】

招聘期間：

イングランド 6月4日(水)～24日(火)

ポーランド 6月10日(火)～30日(月)

割り当て予定試合：

明治安田J1リーグ 第20節～第22節

JリーグYBC ルヴァンカップ プレーオフラウンド第2戦

来日メンバー：

<審判員(イングランド)>

#### ●JONES Robert (ロバート・ジョーンズ)

1987年4月4日生まれ

- ・2016～2019年 イングリッシュフットボールリーグ
- ・2019年～現在 プレミアリーグ(2024-25シーズン22試合)
- ・2023年 国際審判員登録

<審判員(ポーランド)>

#### ●KUZMA Lukasz (ウーカシュ・クジュマ)

1991年5月15日生まれ

- ・TOP Division in Poland 69試合
- ・UEFA Conference League 1試合
- ・UEFA Youth League 5試合

- ・2025 U-17 UEFA Euro Tournament
- ・2024年 国際審判員登録
- GOLIS Dawid (ダーヴィッド・ゴリス)  
1987年5月2日生まれ
  - ・TOP Division in Poland 336試合
  - ・UEFA Europe League 16試合
  - ・UEFA Conference League 6試合
  - ・UEFA Nations League 6試合
  - ・2017年 国際審判員登録

- WINKLER Jakub (ヤコブ・ヴィンクラール)  
1987年6月17日生まれ
  - ・TOP Division in Poland 306試合
  - ・UEFA Champions League 5試合
  - ・UEFA Europe League 8試合
  - ・UEFA Conference League 4試合
  - ・UEFA Nations League 4試合
  - ・2020年 国際審判員登録

※審判交流プログラム：JFAは、審判員やインストラクターの国際経験を積むため、2008年より海外のサッカー協会や連盟と「審判交流プログラム」を提携し、各国との国際交流と共に国際経験の機会創出に注力している。派遣される審判員は、海外でのリーグ戦や国際試合を担当し、現地のインストラクターの指導を通して、技術向上を図り、異なる文化や環境下でも審判ができる柔軟性や適応力を養うことを目的として活動する。また、海外から日本に招聘した審判員はJリーグやWEリーグ、国際試合を担当する。

## 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)



### 株式会社TENTIAL とJリーグ未来育成パートナー契約を締結

Jリーグは、コンディショニングブランド「TENTIAL」(テンシャル)を展開する株式会社TENTIALと選手育成に特化した「Jリーグ未来育成パートナー契約」を締結した(6月6日発表)。契約開始日は2025年6月1日。なお、本契約に基づき、6月6日から行われる国際大会「International Youth Invitational Football Cup at KTSP June 2025」でU-20 Jリーグ選抜が着用するユニフォームに同社のロゴを掲出する。

#### ■本契約締結の背景

「健康に前向きな社会を創り、人類のポテンシャルを引き出す。」をミッションに掲げる株式会社TENTIALは、コンディショニング(休息・睡眠)改善を通じて、未来のサッカー界をけん引するポテンシャルを持つトッププレーヤーの成長・発展に貢献したいという思いから、このたびJリーグと本契約を締結した。

#### ■本契約締結の目的

本契約によりJリーグが行う選抜活動に参加する選手への一般医療機器リカバリーウェア「BAKUNE」の提供や、コンディショニング/リカバリーの知識を学習する機会提供などを通して、コンディショニングリテラシーや、パフォーマンスの向上を目指す。

#### ■本契約締結に伴う今後の取り組み予定

- ・Jリーグ選抜活動参加選手への一般医療機器リカバリーウェア「BAKUNE」の提供、選手から同社へのフィードバック機会の提供
- ・Jリーグ選抜活動参加選手へのコンディショニングセミナー実施
- ・Jリーグ選抜着用ユニフォームへの「TENTIAL」ロゴ掲出



日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)

https://weleague.jp/



2025/26年度の事業計画および予算

WEリーグは6月25日、2024年度第14回理事会を開催し、2025/26年度の事業計画および予算について決定した。

●2025/26年度事業計画

リーグ・クラブの収益拡大に向け、2025・27年の2カ年の取組事項(①～

③)に基づき予算を編成した。

①フットボールの価値向上

②マーケティング・プロモーション・パートナー営業の強化

③組織・人材の整備

https://weleague.jp/files/upload/202506/27\_182225.pdf



●2025/26年度予算(2025年7月1日から2026年6月30日まで)

(単位:円)

科目	金額
I 経常活動区分	
(1) 経常収益	
① 受取年会費	( 240,000,000 )
② 受取補助金等	( 534,448,000 )

科目	金額
③ 協賛金収益	( 849,000,000 )
④ 物品販売収益	( 2,500,000 )
⑤ 雑収益	( 8,510,000 )
経常収益計	1,634,458,000
(2) 経常費用	
① 事業費	( 1,317,535,510 )
リーグ運営費	104,903,500
カップ戦事業費	115,010,232
アウォーズ開催費	15,600,000
広報事業費	88,490,920
プロモーション事業費	36,200,000
マーケティング事業費	99,440,000
代理店手数料	68,280,000
放送制作費	130,060,000
システム関連費	44,550,000
強化育成事業費	37,324,455
その他事業費	35,921,000
理念推進関連費	103,800,000
事業理念推進費	430,000,000
減価償却費(事業費)	7,955,403
② 管理費	( 316,160,160 )
経常費用計	1,633,695,670
経常収益費用差額	762,330
当期収益費用差額	762,330

2025/26 シーズンにおけるWE ACTIONの方向性

WEリーグは6月25日の2024年度第14回理事会において、下記の通り、2025/26シーズンにおけるWE ACTIONの方向性を報告した。

【内容】

(1) 基本方針

リーグ理念の実現に向けた理念推進活動として、来シーズンも変わらず以下の重点取組みを推進し、活動・発信の品質向上を図ることで理念に共感するファンの拡大を図る。また、WE ACTIONの取り組みが誰に対してどういった価値(定量・定性)が生まれたのかを伝わりやすく発信していく。

(2) 重点取組み

これまでの活動実績を通じて得た知見をもとに、2025/26シーズンにおいては3つの取組みの設計を明確にし、発信頻度の向上を図る。

① WE ACTION MEETING

リーグ、クラブ、パートナー企業、関連団体と共に理念実現に向けた具体的な行動について議論する場として設定し、今シーズン実施する活動アイデアの着想を得る場とする。

② WE ACTION DAY

リーグ、クラブ、パートナー企業、関連団体がそれぞれのフィールドで関係者を巻き込み実際にアクションを起こす場として設定する。各オウンドメディアやローカルメディアを通じて情報を発信する。

③ ALL WE ACTION DAY

リーグがマスメディアを中心として広く社会にそれぞれが実施したWE ACTION DAYを取りまとめて情報の発信を目指す。

https://weleague.jp/files/

upload/202506/27\_182705.pdf



U-16国際ナショナルドリームカップ2025 JAPANで文化交流イベントを実施

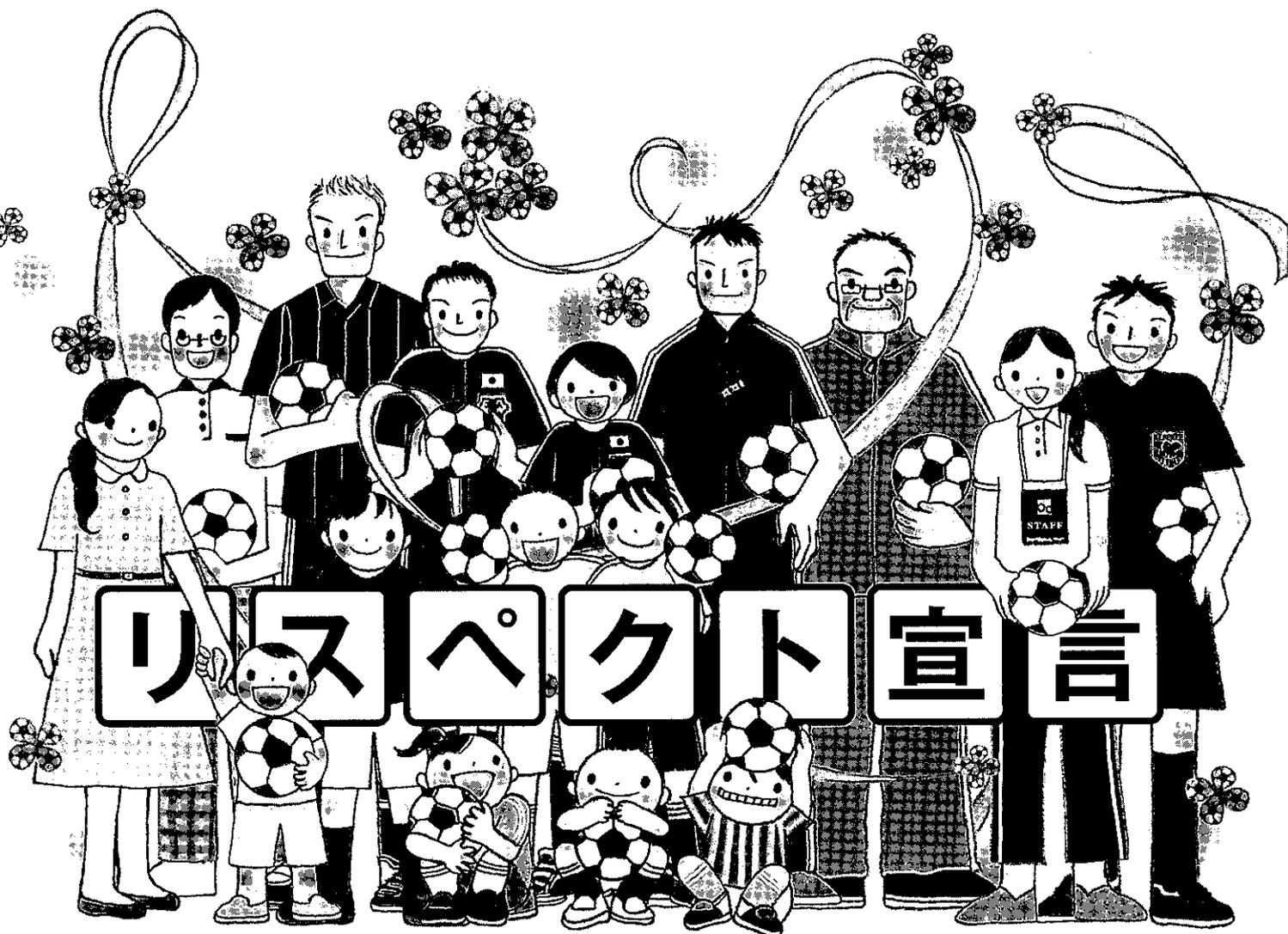
6月7日、U-16国際ナショナルドリームカップ2025 JAPAN(63ページ参照)に出場しているU-16日本代表、U-16コートジボワール代表、U-16コロンビア代表、U-16フランス代表の4チームが、文化交流プログラムの一環で福島県・浪江町の震災遺構 請戸小学校の見学と書道体験を行った。

請戸小学校では、未曾有の大災害による被害に触れながら、復興の様子などについても学び、Jヴィレッジアリーナで行われた書道体験では、いわき秀英学園書道部のパフォーマンスショーを見た後、それぞれ自身の名前を意味する漢字一文字を実際に執筆。各国の選手といわき秀英学園の生徒たちは互いにコミュニケーションを取りながら交流を深めた。



いわき秀英学園書道部の皆さんのパフォーマンスに見入る選手たち

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために



## お互いに、ありがとう！

サッカーは楽しいもの。自分がやりたくてやるもの。そのためにも、**安心、安全な場**が必要です。

サッカーには暴力も暴言もありません。子どもたちの**挑戦する勇気**を見守り、励ましてください。

子どもたちは精一杯がんばっています。応援してください。

相手チームも**大切な仲間**です。両方の良いプレーに拍手を送ってください。

審判員も、子どもたちが思い切ってゲームができるように、**良いゲーム**になるように、一生懸命務めています。頑張って勉強も準備もしています。応援してください。

**フェアプレー**はみんなの約束です。1人審判はみんなの協力で成り立つサッカーのすばらしさの証です。

運営の人達は大変です。子どもたちのために良い大会にしたいと頑張っています。ぜひ「**おつかれさまです**」と声をかけてください。

保護者の皆さん。いつもありがとうございます。子どもたちは皆、**感謝**しています。

サポーターも、すばらしいゲームをつくる大事な仲間です。**爽快な良いゲーム**を！

ボールは僕の相棒であり、**宝物**。スパイクもバッグもお気に入り。大切に使う。

すばらしいピッチ、きれいな施設。きれいに使う。**ありがとうございます**。

たくさんのチャレンジ。成功と失敗。達成感とくやしさ。勝っても負けても、すばらしい経験。子どもたちの**成長をサポート**できることは幸せです。



# 2025/26 サッカー競技規則の改正

国際サッカー評議会(IFAB)から2025年3月26日付回状第30号をもって2025/26年サッカー競技規則の改正を含む、第139回IFAB年次総会における決定について通達された。2025/26年サッカー競技規則は2025年7月1日から有効になる(その日付以前に開始される競技会は、変更を早めるか次シーズン開始時まで適用を遅らせることができる)。

サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督・コーチ、そして審判員には、これまで通り、これらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わるとともに、各地域・都道府県サッカー協会、各種連盟等においても加盟クラブ、チーム、審判員ら関係者に周知徹底を図ってほしい。なお、今回の競技規則の主な改正についての説明用の映像はJFA.jpに6月下旬までに掲載予定。



■競技規則はこちら(JFA.jp) <https://www.jfa.jp/laws/>

今回の改正により、ゴールキーパーが手や腕で8秒を超えてボールをコントロールした場合は反則となり、その反則があった場所に近いサイドからのコーナーキックが相手チームに与えられる。その8秒を主審がカウントするとき、目で見て分かるように主審は片方の腕を上げて最後の5秒をカウントダウンすることになる。競技規則の変更は、通常2年の試行を経て導入を検討されるが、今回は、試行で明らかに良い分析結果が得られたことから1年での導入が決定された(参照4「背景とQ+A」)。

また、これまで試行となっていた「キャプテンオンリー」が各競技会の判断によりガイドラインに従って実施できることが競技規則第3条「競技者」に記載された(参照3「キャプテンオンリー」ガイドライン)。キャプテンが敬意をもって行動し、適切に振る舞うことを条件に、主審は基本的にキャプテンに対して重要な判定を説明することができるようになった。これにより、競技者と審判員の協力関係、そして信頼関係がさらに高まり、サッカーという競技のイメージが守られることが期待される。

ドロップボールによるプレーの再開方法も変更になる。これまで、最後にボールに触れた競技者のチームにボールはドロップされていたが、今回の改正によりボールを保持したであろうチームが主審にとって明らかの場合、そのチームの競技者にボールがドロップされる。ボールがドロップされる場所も、これまでの競技者が最後にボールに触れた場所から、主審がプレーを停止したときにボールがあった位置へと変更された。

## <2025/26 サッカー競技規則の変更(抜粋)>

※競技規則の主な改正：下線

### 第3条・競技者

#### 10. チームキャプテン

##### 追加された文章

各チームには、フィールド上に(キャプテンとして)識別できるアームバンドを着用したキャプテンがいなければならない。チームのキャプテンは、なんら特別な地位や特権を与えられているものではないが、そのチームの行動についてある程度の責任を有している。  
競技会は、「注記および修正」に記載されている「キャプテンオンリー」のガイドラインを実施することができる。

〔解説〕競技会には、フィールドにいる競技者の振る舞いを改善し、そして競技者と審判員の協力関係を高め、信頼関係をより良くするために「キャプテンオンリー」のガイドラインを使用することが勧められている。

### 第5条・主審

#### 6. 主審のシグナル

ゴールキーパーが手や腕でボールをコントロールすることに対する8秒制限の残り5秒をカウントダウンする。

### 第8条・プレーの開始および再開

#### 2. ドロップボール

##### 修正された文章

##### 進め方

- 次の状況でプレーが停止された場合、ボールは、ペナルティーエリア内で守備側チームのゴールキーパーにドロップされる。
  - ボールがペナルティーエリア内にあった。または、
  - ボールが最後に触れられたのがペナルティーエリア内であった。
  - その他のすべてのケースにおいて、主審は、ボールが最後に競技者、外的要因または審判員(第9条1項に示される)に触れた位置で、最後にボールに触れたチームの競技者の1人にボールをドロップする。
- プレーが停止されたとき、
  - ボールがペナルティーエリア内にあった場合、主審は、ペナルティーエリア内で守備側チームのゴールキーパーにボールをドロップする。

# 2025/26 サッカー競技規則の改正

ボールがペナルティーエリア外にあった場合、ボールを保持していたチーム、または保持したであろうチームを主審が判断できれば、そのチームの競技者の1人にボールはドロップされる。もしそうでなければ、最後にボールに触れたチームの競技者の1人にボールはドロップされる。ボールはプレーが停止されたときにボールがあった位置にドロップされる。

【解説】ボールが、最後にボールに触れたチームの相手競技者に、明らかに渡る場合がある。そのようなケースでは、そのことが主審にとって明白な場合に限り、ボールを保持したであろうチームにボールをドロップすることがよりフェアである。ペナルティーエリア外では、これからは、プレーが停止されたときにボールがあった位置にドロップされることになる。

## 第9条・ボールインプレーおよびアウトオブプレー

### 2. ボールインプレー

#### 追加された文章

ボールは(…)フィールド内にある場合も常にインプレーである。チーム役員、交代要員、交代して退いた競技者、退場になった競技者、または一時的に(負傷、用具を直すためなどで)競技のフィールドから離れている競技者が、不正に妨害しようとする意図なく、明らかにフィールドから出ようとしているインプレー中のボールに触れた場合、間接フリーキックが与えられるが、懲戒の罰則は与えられない。

【解説】監督、交代要員、または一時的に競技のフィールドから離れている競技者(その他の人も含めて)が、素早くプレーが再開されるように、アウトオブプレーになるボールに触れてしまうことがある。このような場合、繰り返しテクニカルエリアから出ることで警告される場合を除き、間接フリーキックが与えられるが、懲戒の罰則は与えられない。

## 第11条・オフサイド

### 2. オフサイドの反則

#### 追加された文章

\*ボールを「プレーした」か「触れた」最初のコンタクトポイントを用いるべきである；しかしながら、ゴールキーパーがボールを投げたときは、最後のコンタクトポイントを用いるべきである。

【解説】競技者がオフサイドポジションにいるかどうかを決めるとき、ボールとの最初のコンタクトポイント(競技者がボールに触れた瞬間)が用いられる。しかし、ゴールキーパーがボールを投げたときは、最後のコンタクトポイント(ボールが手や腕から離れる瞬間)を用いるべきである。これにより、より明確で一貫した基準が示されたことになる。

## 第12条・ファウルと不正行為

### 2. 間接フリーキック

#### 改正された文章

ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で、次の反則のいずれかを行った場合、間接フリーキックが与えられる。

- ボールを放すまでに、手や腕で6秒を超えてコントロールする。
- ボールを手放した後、他の競技者がボールに触れる前に、手や腕でボールに触れる。
- 次のような状況で、ボールを手や腕で触れる。ただし、ゴールキーパーがボールをプレーに戻すため、明らかにボールをけった、またはけろうとした場合を除く。
  - ・ボールが味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされる。
  - ・味方競技者によってスローインされたボールを直接受ける。

ゴールキーパーがボールを手でコントロールしていると判断されるのは、次のときである。

- ボールがゴールキーパーの両手で持たれているとき、またはボールがゴールキーパーの手と他のもの(例えば、グラウンド、自分の体)との間にあるとき、ボールに手や腕のいずれかの部分で触れているとき。ただし、ボールがゴールキーパーからはね返った、またはゴールキーパーがセーブした場合を除く
- ゴールキーパーが広げた手のひらでボールを持っているとき。
- ボールをグラウンドにバウンドさせる、または空中に投げ上げたとき。

ゴールキーパーが手でボールをコントロールしているとき、相手競技者は、ゴールキーパーにチャレンジすることができない。

### 3. コーナーキック

ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で、ボールを放すまでに手や腕で8秒を超えてコントロールした場合、コーナーキックが与えられる。ゴールキーパーが手や腕でボールをコントロールしていると判断されるのは、次のときである。

- ボールが両手や両腕で持たれているとき、または手や腕と他のもの(例えば、グラウンド、自分の体)との間にあるとき。
- ゴールキーパーが広げた手のひらでボールを持っているとき。
- ボールをグラウンドにバウンドさせる、または空中に投げ上げたとき。

主審は、いつゴールキーパーがボールをコントロールして8秒が始まるかを判断し、そして手を上げて目で見分けるように最後の5秒をカウントダウンする。

ゴールキーパーが手や腕でボールをコントロールしているとき、相手競技者は、ゴールキーパーにチャレンジすることはできない。

#### 〔解説〕

- ・ゴールキーパーが手や腕で8秒を超えてボールをコントロールした場合、主審は(間接フリーキックではなく)反則があったときにゴールキーパーが位置していた場所に近いサイドからのコーナーキックを与える。ゴールキーパーが繰り返し反則を行わない限り、懲戒処置はとらない。
- ・ゴールキーパーに分かるよう、主審は上げた手を使って最後の5秒を合図する。

### 第16条・ゴールキック

#### 追加された文章

ゴールキックは、グラウンド上または空中にかかわらず、最後に攻撃側競技者が触れたボールの全体がゴールラインを越え、得点とならなかったときに与えられる(第8条、第10条、第13条、そして第15条についても参照する)。

### 第17条・コーナーキック

#### 追加された文章

コーナーキックは、グラウンド上または空中にかかわらず、最後に守備側競技者が触れたボールの全体がゴールラインを越え、得点とならなかったときに与えられる(第8条、第12条、第13条、第15条、そして第16条についても参照する)。

#### 1. 進め方

#### 追加された文章

ボールは、ゴールラインを越えた地点、または反則が起きたときのゴールキーパーの位置にもっとも近い方のコーナーエリアの中に置かれなければならない。

### ビデオアシスタントレフェリー(VAR)実施手順

#### 4. 進め方

#### 追加された文章

#### 最終の判定

- レビュープロセスが終了したら、主審は、「TVシグナル」を示し、最終の判定を伝えなければならない。また、競技会はFIFAのガイドライン、そしてVARハンドブックに示されているように、VARの「レビュー」またはVARの長い「チェック」の後に、公に決定を説明し、アナウンスするシステムを導入することもできる。
- 主審は、(必要に応じて)懲戒処置をとり、変更し、または撤回し、競技規則に基づきプレーを再開する。

〔解説〕試行の成功を受けて、競技会はVARの「レビュー」またはVARの長い「チェック」の後に、主審による決定のアナウンスそして説明を行うことができるようになった。

### ■2025/26サッカー競技規則の適用開始日

各リーグや各種競技会における「2025/26サッカー競技規則」の適用開始日は下記の通り。

リーグ	適用開始日	備考
2025明治安田J1リーグ	8月9日(土)	第25節
2025明治安田J2リーグ	8月2日(土)	第24節
2025明治安田J3リーグ	8月16日(土)	第23節
2025JリーグYBCルヴァンカップ	9月3日(水)	プライムラウンド 準々決勝 第1戦
第27回日本フットボールリーグ(2025)	8月30日(土)	第19節
2025/26WEリーグ	8月9日(土)	2025-26シーズン開幕より
2025プレナスなでしこリーグ1部	8月30日(土)	第16節
2025プレナスなでしこリーグ2部	9月27日(土)	第19節



# 2025/26 サッカー競技規則の改正

JFAが主催する競技会	適用開始日	備考
天皇杯 JFA 第105回全日本サッカー選手権大会	8月6日(水)	ラウンド16(4回戦)
各種全国大会(決勝大会)	原則 7月25日(金)	現競技規則(2024/25)・新競技規則(2025/26)のどちらを適用するかを各競技会毎に確認し、競技会規定等に明記する。また、代表者会議や監督会議、マッチコーディネーションミーティングにてその都度確認する。 ※高円宮杯 U-18サッカープレミアリーグの適用は第12節の9月6日からとする

上記以外の競技会	適用開始日
地域・都道府県FAが主催する各種大会	遅くとも2026年4月1日(水) ※大会主催者が適用開始日を決定する。

参照1:2025/26年のサッカー競技規則の改正について [2025.06.19]  
[https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law\\_soccer\\_250619.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_250619.pdf)



参照2:2025/26年サッカー競技規則 変更の概要と詳細  
[https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law\\_soccer\\_250619\\_01.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_250619_01.pdf)



参照3:「キャプテンオンリー」ガイドライン  
[https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law\\_soccer\\_250619\\_03.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_250619_03.pdf)



参照4:手や腕でゴールキーパーがボールをコントロールすることについて 背景とQ+A  
[https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law\\_soccer\\_250619\\_04.pdf](https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_250619_04.pdf)





# アスパス!

日本サッカー協会 (JFA) では社会貢献やSDGsの達成につながる活動を「アスパス!」と称し、サッカーファミリーの皆さんと一緒に取り組んでいます。

「アス」には、「明日(=未来)」、「us=私たちにできること」、「Earth=地球」の3つの意味を込めています。

次の100年のサッカーが今と同じく健全に、安全に、多くの人々により生まれ、

JFAの理念・ビジョンが体现されていることを目指し、全てのサッカーファミリーが世代や時代を超えて

“パスを繋いでいく”という強い決意を込めています。



## アスパス!で取り組む5つの大切なこと

### 環境

サッカーにおける様々な活動で気候変動による熱中症等を防ぎ温室効果ガスや廃棄物の削減でわたしたちの自然環境を守ろう

### 人権

差別や暴力のない自由で平等なスポーツの世界と一緒に築いて年齢・性別・障がいの有無等に関係なく輝ける社会をつくろう

### 健康

スポーツの楽しさを感じられるグラスルーツサッカーを広めて心身ともに健康的でいつまでも元気で笑顔溢れる人生を送ろう

### 教育

スポーツで社会をよくするため必要な知識や技術を身につけてサッカーが持つ魅力を活かした持続可能な未来を築いていこう

### 地域

持続可能性に配慮して行動する地域の人々の様々なつながりをサッカーを通じてつくることで私たちの住みやすい街を守ろう



アスパス JFA 検索  
活動内容などは「アスパス JFA」で検索

JFA STORE (日本サッカー協会 公式オンラインストア)  
アスパス! みんなで一緒にサッカーを楽しむグッズはこちら





## 日本フットボールリーグ (JFL) 便り



## 地域に根差し、Jへの道とともに — レイラック滋賀FCの軌跡

レイラック滋賀FC 広報担当 石田渉

<https://reilac-shiga.co.jp/>

レイラック滋賀は、「滋賀にJリーグを」を合言葉に、地域の皆さまと共に歩み続けています。サッカーを通じて地域に活力をもたらし、子どもたちに夢を与える存在でありたいと願い、活動しています。

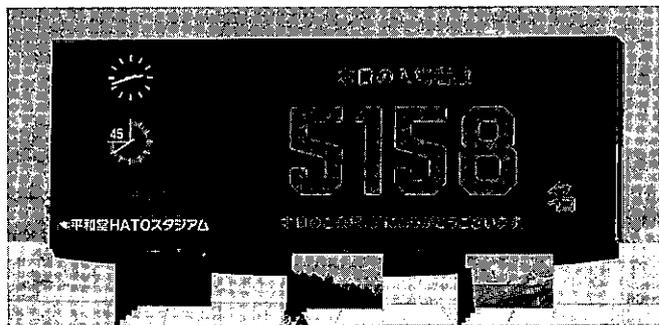
2024シーズンは、JFLで16チーム中4位という成績でした。目標としていたJリーグ昇格はかないませんでした。クラブ史上最多となる1試合平均2,072人の入場者数を記録しました。Jリーグ入会後のホームスタジアムとなる「平和堂HATOスタジアム」での開催試合だけを見ると、年間8試合で平均2,825名と、高いポテンシャルを感じさせる結果となりました。ホーム開幕戦と最終戦では4,000人を上回るお客さまに会場いただき、あらためて地域の期待と応援の大きさを実感しております。

2025シーズンは、開幕戦で5,158人の入場者を迎え、2年連続でクラブ史上最多入場者数記録を更新することができました。この記録は、滋賀県に本拠地を置くスポーツクラブの興行の中では最高記録となります。5月末までに9試合を戦い、5勝2分け2敗と、成績面でも上々の滑り出しです。滋賀の地から熱い戦いをお届けし、Jリーグクラブ誕生という夢の実現に向けて着実に歩んでいます。

地域貢献の面では、2024年途中に、平和堂HATOスタジアムから橋を挟んで向かいにある彦根市金亀公園多目的競技場の命名権を取得し、「レイラックフィールド彦根」としました。この施設は人工

芝の多目的競技場で、学生や社会人をはじめ、地域の多くの方に親しまれています。命名権の取得は単なる施設名の変更ではなく、地域の皆さまと共に未来をつくるという私たちの決意の表れです。彦根の街にも「レイラック」の名前が浸透してきた中、街の皆さまにとって、より愛され、誇りに感じてもらえるクラブになれるよう、これまで以上に地域に根差した活動を進めてまいります。

クラブ名を変更して3年目。これからも選手、スタッフ、サポーター、地域の皆さまと心をついに、滋賀にJリーグクラブを根付かせ、夢に挑戦し続けます。引き続き温かいご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2025シーズンの開幕戦で記録した入場者数5,158人。この記録は滋賀県に本拠地を置くスポーツクラブの興行で最多記録となった

## 日本フットボールリーグ (JFL) 便り



## One Dream, One Goal

アトレチコ鈴鹿クラブ 運営担当 別府哲哉

<https://atletico-suzuka.com/>

アトレチコ鈴鹿クラブは三重県鈴鹿市をホームタウンとするサッカークラブです。まだプロスポーツの文化が根付いていない三重県において、サッカーを通じて子どもたちに夢を与え、地域活性につながるよう、初のJリーグ入りを目指して活動しています。

2023年10月にチームのオーナーが代わり、新たに株式会社協同の斉藤浩史代表取締役社長がオーナーに就任しました。斉藤氏は、過去には読売クラブや清水エスパルス、ブラジルなどでプレーした元プロサッカー選手です。引退した後、同社でビジネスマンとして活躍。サッカーから離れて生活を送りますが、サッカーへの愛は冷めることはありませんでした。昨年10月にクラブを引き受けることが決まったときは、彼の念願がかなった瞬間でもありました。

新たに「アトレチコ鈴鹿クラブ」として再スタートを切った2024シーズンは、2度の監督交代などもありつつ、順位は11位とまずまずの成績でした。しかしあの「三浦知良」の待望の復帰やアウェイでの国立競技場での勝利もあり、2年前と同じような盛り上がりを見せ、「アトレチコ鈴鹿クラブ」という名を多くの人が知るようになりました。

2025シーズンも三浦知良がアトレチコ鈴鹿クラブでプレーすることが決まりました。そのほかの新加入選手の多くは元Jリーガーと、選手層の厚さも期待されます。JFLでの現在の順位は6位とチー

ムは好調を維持し、上位陣に食らいついています。さらなる飛躍も期待され、全国各地で注目される存在となっています。

ホームゲームでは「鈴鹿っちグルメガーデン」などの場外イベントも充実させ、昨年度から観客数も増加。鈴鹿市と共にJリーグを目指すべく、チームは一丸となって日々むなむな努力を続けています。そして地域貢献、地域密着も欠かさず、地域のお祭りやイベントに積極的に参加しています。鈴鹿市サッカー協会とも連携し、地元の小学校を選手が訪問する「出前授業」では選手が約100人の子どもたちと体を動かし、サッカーをする喜び、見る喜びを広めています。



新たなクラブとして立ち上がったアトレチコ鈴鹿クラブ



## なでしこリーグ便り

## 「風の時代」に心を動かすサッカーを

日体大SMG横浜 監督 嶋田千秋

<https://nssusmg.com/>

日本体育大学女子サッカー部には40年の歴史と伝統があります。多くの先輩たちが築いてきた努力の積み重ねの上に成り立っています。いま私たちは「風の時代」と呼ばれる価値観の転換期を生きています。

サッカーにおいても情報があふれ、変化のスピードが速いこの時代に求められるのは「正解に従う」ことではなく、自分で感じ、考え、決断する力です。そのために私たちは「自分を知り、仲間を知り、相手を知ること」を大切にしています。己の特性や弱さを受け入れ、仲間と信頼関係を築き、相手の変化に対応する柔軟さを持つこと。この力はサッカーに限らず、人生を豊かにする土台でもあります。

日体大SMG横浜は、なでしこリーグ1部で戦っています。勝負の世界です。私は勝つことを前提としながらも「なぜ勝ちたいのか」を考えます。それは自己実現のためであり、恩を返すためであり、そしてチームのためです。

私たちは「人の心を動かす、感動を与えるプレー」を目指します。自分を信じ、仲間を信じ、ピッチで全力を尽くします。奇跡のようなスーパープレーだけが感動を生むわけではありません。90分間走り続けることや声を出し続けること、そして諦めないこと、球際で身体を張ること、さらにはボールを失っても全員で奪い返し、泥臭くゴールを奪うこと、体を張ってゴールを守ること。私たちにとって、それが人々に勇気

や希望、感動を与えることで、「日体魂」と表現しています。

日々の生活の細部にもこだわります。例えば、靴をきちんとそろえる、荷物を整頓する、時間を守る、身だしなみを整えて気持ち良くあいさつをするなどです。練習でも、わずか1歩でも、1秒でも、1回でも、それを大事にする。当たり前のことを当たり前にするのが、日体大の強さの源であると思っています。

サッカーは「今」を戦うスポーツです。過去にとらわれず、未来を恐れず、今を生きます。この瞬間に自分ができる最善を尽くすことがやがて結果を生みます。その積み重ねがチームを変え、自分自身の人生をも変えていくのです。

歴史と伝統を背負いながら、しなやかに風を捉え、今を全力で生き抜きます。



2025プレナスなでしこリーグ1部第7節で勝利した際の記念写真

日体大は、「強く・逞しく・美しく」そして、「感動を届ける」チームであり続けます。

## なでしこリーグ便り

## ディオッサファミリー

特定非営利活動法人ディオッサスポーツクラブ クラブマネージャー 田中淳

<https://www.diosa-fc.jp/>

島根県の東部に位置する出雲市は、「神話の國出雲」として全国に知られるとともに、出雲大社など歴史と文化遺産、日本海や宍道湖など豊かな自然に恵まれた地域です。農業生産力は高く、漁業、工業では出雲市の特性に合った交通インフラ、資源が生かされたまちづくりがなされています。

私たちディオッサスポーツクラブは、スポーツを力にまちづくりに参画しています。1991年に当市に女子サッカーチームが誕生して以来、さらなる女子サッカーの普及と市民活動への定着を目指し、2011年、ディオッサ出雲FCに組織改革しました。「神話の國出雲から日本のなでしこへ」をキャッチフレーズに、U-12、U-15カテゴリーを編成するとともに、トップチームはなでしこリーグ参入への挑戦を始めました。そして2023年、悲願のなでしこリーグ昇格の切符を手に入れ、2024年からなでしこリーグ2部に所属して全国で躍動しています。

挑戦し続けた12年間は決して無駄な時間ではなく、私たちクラブの礎となる時間だったと振り返ります。小学生で女子サッカーと出会い、中学生、高校生でも女子サッカーを続けてくれる。そんな選手がたくさん育ちました。2024年のなでしこリーグ2部開幕戦では、新加入の原美瑠選手がチーム初ゴールを決めました。彼女は、小学生から中学生までクラブで活動していた選手で、高校を経てチームに戻り、新たな歴史をつくってくれました。

今季からはU-12、U-15に加えU-18も設立し、トップチームはなでしこリーグ、U-15とU-18はいずれも中国地域リーグに所属。中国地域では唯一3つのカテゴリーが地域リーグ以上に属しています。このように地域でサッカーの楽しさの種をまき、選手を育て、トップチームに昇格できる環境を構築できたことは、地域のサッカー関係者、指導者の皆さまのおかげであり、これからも島根・出雲から挑戦し続けていきたいと思っています。

地域の皆さまに愛され、地域のサッカーファミリー、アカデミーの選手に目標とされるチーム、クラブへと成長していきたいと考えています。全国の舞台上で出雲らしさ、ディオッサスタイルを表現し、ディオッサファミリー総動員でさらなる旋風を巻き起こします。ご期待ください。



2025シーズンは全国でディオッサ旋風を巻き起こしたい



## DalPonte東北地域フットサルリーグカップ2025開催

東北フットサル連盟 理事長 高橋俊介

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

2025年4月19日と20日の両日、秋田県由利本荘市ナイスアリーナ（由利本荘総合防災公園）でDalPonte東北地域フットサルリーグカップ2025を開催しました。

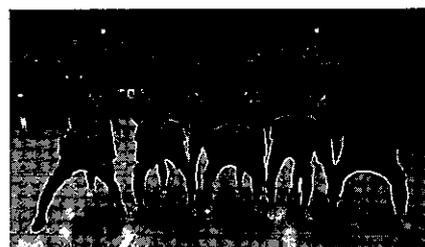
2019年までは毎年、東北リーグの開幕前に開催していましたが、コロナ禍の影響や会場の都合でしばらく開催していませんでした。そのカップ戦を、由利本荘市・秋田県フットサル連盟関係者の尽力の下、5年ぶりに開催することができました。ナイスアリーナは全国規模の大会も開催できる大型の施設で、選手もこの施設でプレーできる喜びを感じているようでした。

従来、当年の東北リーグに出場するチームを対象に参加を募っていましたが、今年は、東北リーグチームのモチベーションアップはもちろんのこと、各県リーグからの底上げおよび上位のリーグへの参加意欲の向上も目的に、各県リーグからの参加も併せて募りました。男子は東北リーグ所属11チーム+県リーグ所属3チームの計14チーム、女子は東北リーグ所属3チーム+県リーグ所属1チームの計4チームでの開催となりました。

初日からナイスアリーナの素晴らしい施設で、緊張感の中、激しい試合が行われました。特に県リーグ所属の2チームが東北リーグ所属チームに勝利するなど、カップ戦の醍醐味が表れ、会場は普段見ることができない選手の好プレーに大歓声が上がっていました。やは

り試合巧者である東北リーグ所属チームの青森県のイタチカ八戸、Glitter☆Person's Aomori、宮城県のmc verdadeiro、FC Steinerがベスト4に残り、2日目へ。最終的に男子はイタチカ八戸、女子はナカスポが優勝を飾って大会は無事終了しました。

今大会を通じて、選手間、運営、審判員との交流を図ることができ、選手、関係者からの長年の希望がかなえられ、とても充実した2日間となりました。来年度以降も継続して開催できるよう、各県フットサル連盟・自治体と協力して施設調整を含め、準備を続けたいと思います。



男子の部優勝・イタチカ八戸（青森県）



女子の部優勝・ナカスポ（青森県）



## トップカテゴリー強化リーグ 岡山ステージを終えて

ハレクティオ岡山 一般社団法人 渋川マリナクティビティ協会 企画部 荒井祥太郎

<https://jbsf.or.jp/>

2025年6月、岡山県玉野市の渋川海岸で「トップカテゴリー強化リーグ 岡山ステージ」を開催しました。全国から強豪チームが集い、ビーチサッカーの魅力が詰まった熱戦が繰り広げられ、多くの観客にとっても印象深い大会になったと思います。

本大会は、事前準備から当日の運営まで、地域や関係者と密に連携を取りながら進めました。地元自治体やスポンサーの協力の下、安心・安全な大会運営を心掛け、熱中症対策や応急処置体制などにも十分配慮しました。また、競技面だけでなく、地域とのつながりを大切にすることを意識し、地元のたまの渋川ビーチサッカー大会との同時進行や、フードコーナーを併設するなど、地域住民との交流も深めることができました。

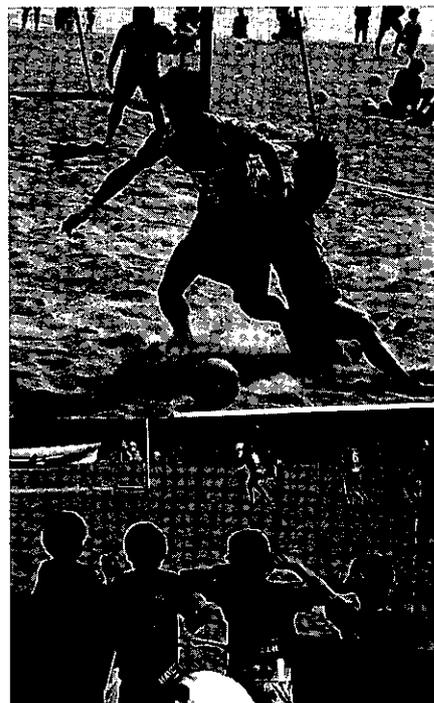
観客動員数は当初の予想を上回り、ビーチサッカーという競技が少しずつ地域に浸透してきている手応えを感じました。観戦された方々からは、「初めて見たが迫力があって楽しかった」「また見たい」といった声も多く、スポーツを通じた地域活性の可能性をあらためて実感しました。

私たちは日頃から、競技力の向上と並行して地域や未来の選手育成にも力を入れ、週に数回のビーチクリーン活動を行い、美しい海岸を守ることに努めています。また、ジュニア世代を対象としたスクールを継続的に実施し、ビーチサッカーの技術だけでなく、仲間と

の協力や礼儀を重視した指導を行っています。

今後は、より多くの人々にビーチサッカーの魅力を伝えるべく、イベント開催や広報活動を強化し、地域・競技・未来をつなぐ架け橋となるよう努めてまいります。

今回、岡山ステージで得た経験と成果を糧に、次回以降の大会開催や日常活動により一層励んでいく所存です。



トップカテゴリー強化リーグ 岡山ステージは多くの方にビーチサッカーの魅力を伝える大会となった



## 日本障がい者サッカー連盟便り



## 「ダイセルブラインドサッカーウィークinうめきた」を開催！ 日本は男子が準優勝、女子が優勝！

NPO法人日本ブラインドサッカー協会 広報コミュニケーション室 室長 宮島大輔

<https://www.jiff.football/>

国際視覚障害者スポーツ連盟 (IBSA) とNPO法人日本ブラインドサッカー協会 (JBFA) は、5月18日 (日) から25日 (日) にかけて「ダイセルブラインドサッカーウィークinうめきた」を開催しました。開催場所は、昨年、「ダイセルブラインドサッカージャパンカップ2024 in 大阪」を実施したグランフロント大阪うめきた広場です。

ダイセルブラインドサッカーウィークinうめきたは、男子の「IBSA ブラインドサッカーエリートカップ2025inうめきた」と、女子のIBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ2025inうめきたという、二つの大会で構成されています。

男子のエリートカップは世界初開催であり、ワールドグランプリも、これまで男子カテゴリーでは開催されてきましたが、女子カテゴリーとしては世界で初めての開催となります。

男子のエリートカップには、世界ランキング上位8カ国に出場権が付与され、その中から日本 (世界ランキング3位)、アルゼンチン (同1位)、タイ (同6位)、コロンビア (同8位) の4カ国が参加しました。結果は、優勝アルゼンチン、準優勝日本、3位コロンビア、4位タイとなりました。

一方、女子のワールドグランプリには、日本 (世界ランキング1位)、イングランド (同4位)、アルゼンチン (同5位)、オーストラリア (国際

大会初参加) の4カ国が参加し、結果は、優勝日本、準優勝アルゼンチン、3位オーストラリア、4位イングランドでした。

各チームは、8日間にわたって熱戦を繰り広げました。開催場所であるグランフロント大阪うめきた広場はJR大阪駅近くにあり、ここはスポーツ施設ではなく商業施設です。昨年同様、今大会でもそこに仮設の人工芝を設置し、試合を行いました。大会を通じて、立ち見での短時間観戦も含め、延べ17万人以上の方に試合を観戦いただきました。このように多くの方に観戦していただけるのも、商業施設で開催する大きなメリットだと感じています。

最後になりますが、この場をお借りして、大会開催にご尽力・ご協力いただいた全ての関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



人工芝の仮設ピッチを設置したグランフロント大阪 うめきた広場

## なでしこひろば便り



## 北斗ソアラFC「なでしこひろばin北斗」の取り組み

翔英学園はぐくむセンター長・北斗ソアラFC監督 大部由美

<https://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

2006年に現役選手を引退し、2008年から2021年まで地元の境港市役所勤務と日本サッカー協会各代表カテゴリーのコーチを両立しながら、地元的女子サッカーの普及活動に取り組んできました。

長年の思いが通じたのか、2021年の春、翔英学園の中ノ森寿昭理事長から翔英学園はぐくむセンターのセンター長と北斗ソアラFC監督の就任のお話をいただき、2022年4月にセンター長と北斗ソアラ監督に就任。翔英学園内 (米子北高校、米子北斗中・高等学校、みずほ幼稚園、東みずほ幼稚園) での取り組みと、地域では保育園・幼稚園の巡回指導や講演活動、女子サッカーの普及と育成に取り組んでいます。

その中で、サッカーが好きな女の子たちが集える場として「なでしこひろばin北斗」をスタートしました。月に1度の開催を目標にスタートしましたが、最初の3カ月は参加者が0人でした。1回なら仕方ないかと思いましたが、3回連続は落ち込みました。そこから、どのようにしたら参加者が増えるかを仲間と考え、さまざまな周知活動を行うことで徐々に参加者が増え、今では幼児 (年中・年長) から小学6年生まで30人近くの女の子たちが芝生のグラウンドで楽しくサッカーをしています。幼児のグループは保護者の皆さんにも参加いただき、家族で楽しんでいただいています。なでしこひろばを通じて保護者間のネットワークも広がり始めています。

また、北斗ソアラの取り組みは、単に女子チームのメンバーを増やしてサッカーファミリーを拡大するだけではありません。サッカーを通じて人材育成をすることが大きな目的です。そのためなでしこひろばin北斗は、今年度から選手が準備から運営まで担当しています (現在クラブメンバーは10人)。異年齢交流は、人材育成に大きなプラスの影響を与えてくれます。

日本は少子化問題が年々深刻化しています。鳥取県は日本で最も人口が少ない県であるため、さらに深刻です。今後も自分自身が世界の舞台で経験したことを地域の子もたちに伝え続け、一人一人を大切に、サッカーで地域を盛り上げたいと思います。



サッカーで鳥取県を盛り上げよう！

# サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

## 日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

## 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

## 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

## 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

## 日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの)Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

## 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がる音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

## 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

支援団体

JIFFパートナー



日本サッカー後援会



Johnson & Johnson



Nabtesco



Bewith





# JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

## SAMURAI BLUE



©JFA/2024年11月 日本代表先発メンバー

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



# 会議レポート



## 公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第6回理事会

公式URL [https://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/executive\\_committee.html](https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html)



日本サッカー協会（JFA）は2025年6月19日、2025年度第6回理事会をJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

### 決議事項

1 「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」改正 … P45

### 「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」改正

「女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」（以下、「女子プロサッカー規則」）を改正する。なお、本件は法務委員会で審議済み。

●女子プロサッカー規則（施行日：2025年7月1日）

(1) FIFA規則に対応した女性選手の保護規定の拡充

- ①産休・養育に関する休業の権利の拡充
- ②妊娠した選手の権利に関する一部変更
- ③授乳機会の権利に関する一部変更
- ④月経に関連する健康状態を配慮した規定の新設

(2) FIFA規則に対応した国内の期限付移籍に関する規定の改正

- ①期限付移籍の人数制限の設定
  - ②サブローンの禁止
  - ③期限付き移籍の最長期間（1年間）の設定
  - ④期限付き移籍先クラブによる選手契約の一方的な解除時の取り扱いの規定化
- ※2024年度第12回理事会（2024年11月21日開催）にて付議した「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」と同様に変更するもの。

### 報告事項

1 2025/26サッカー競技規則改正 …… P45  
2 2024年度施設整備助成金および一括補助金（47FA / 9地域FA）  
最終交付額 …… P45

3 指導者ライセンス（Proライセンス）認定 …… P45  
4 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新） …… P46  
5 裁定委員会に関する懲罰 …… P46

### 2025/26サッカー競技規則改正

2025/26のサッカー競技規則改正を行う。

※詳細は右記のJFAウェブサイトおよび34～37ページ参照

<https://www.jfa.jp/laws/>



### 2024年度施設整備助成金および一括補助金（47FA / 9地域FA）最終交付額

2024年度（2024年4月～2025年3月）の施設整備助成金および一括補助金（9地域・47都道府県サッカー協会）について、最終的な交付額は下記の通り。

なお、2024年度の施設整備助成金は、2023年度第6回理事会（2023年6月22日開催）第2号議案にて決議された臨時対応制度に基づいて行われ、2024年度の一括補助金（47FA / 9地域FA）は2023年度第11回理事会（2023年11月9日開催）第2号議案と第3号議案を基に行われている。

(1) 2024年度施設整備助成 実績

交付対象件数：5  
交付総額：135,000,000円

(2) 2024年度一括補助金（47FA）実績

最終補助金確定総額：1,719,845,336円

(3) 2024年度一括補助金（9地域FA）実績

最終補助金確定総額：339,430,875円

### 指導者ライセンス（Proライセンス）認定

Proライセンスコーチ養成講習会において、国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記1名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、Proライセンスを認定した。

【2024年度】

- (1) 名前：西川陽介（にしかわ ようすけ）  
指導チーム：現在なし  
生年月日：1977年4月29日  
資格：2015年 Aジェネラルライセンス 取得

指導歴 : 2003～2004年 V.V.WoudenbergCユース(オランダ) ユースコーチ  
 2004年 FC UtrechtCユース(オランダ) アシスタントコーチ  
 2004～2006年 ヴァンフォーレ甲府 ユースコーチ  
 2007～2009年 ヴァンフォーレ甲府 ジュニアユースコーチ  
 2010～2016年 ヴァンフォーレ甲府 U-12監督  
 2018～2019年 ヴァンフォーレ甲府 U-12監督  
 2020年 ヴァンフォーレ甲府 U-18監督

2017年～現在 ヴァンフォーレ甲府 アカデミーダイレクター  
 2022年～現在 ヴァンフォーレ甲府 フットボール部強化部長  
 2024年～現在 山梨県サッカー協会 技術委員長兼ユースダイレクター  
 2025年～ 日本体育大学学友会サッカー部 テクニカルアドバイザー

※2024年度Proライセンスコーチ認定者数: 19名/20名中(上記1名含む)  
 ※Proライセンスコーチ認定者数: 600名(上記1名含む)

## JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

### (1) 申請者(施設所有者): 新宮市

施設名 : 新宮市民運動競技場(やたがらすサッカー場)  
 (和歌山県新宮市佐野1501)  
 使用製品: 泉州数物株式会社 セーフティターフ MFJ-65Ze  
 公認期間: 2025年2月7日～2026年2月6日  
 公認番号: 第073号

### (2) 申請者(施設所有者): 出雲市

施設名 : 出雲健康公園多目的運動場  
 (島根県出雲市矢野町999番地)  
 使用製品: コウフ・フィールド株式会社 Desso iDNA X 60-16  
 公認期間: 2025年6月12日～2026年6月11日  
 公認番号: 第196号

### (3) 申請者(施設所有者): 射水市

施設名 : 射水市フットボールセンター北面  
 (富山県射水市海竜町23-1)  
 使用製品: 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-60  
 公認期間: 2025年6月19日～2028年6月18日  
 公認番号: 第256号

### (4) 申請者(施設所有者): 射水市

施設名 : 射水市フットボールセンター南面  
 (富山県射水市海竜町23-1)  
 使用製品: 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EXII-60  
 公認期間: 2025年6月19日～2028年6月18日  
 公認番号: 第257号

## 裁定委員会に関する懲罰

裁定委員会より報告された懲罰案件について報告する。  
 公表内容は以下の通り。なお、公表期間は原則通り3年とする。

### 当事者①

- 当事者  
第4種チーム元代表者・監督
- 懲罰の種類  
除名
- 懲罰の決定日  
2025年4月14日
- 懲罰の理由  
懲罰規程第34条第1項(2)
- 事案の概要  
JFAの決定に対する不遵守(関連活動停止期間中における繰り返しのサッカー関連活動の実施)

### 当事者②

- 当事者  
第4種チーム代表者・監督
- 懲罰の種類  
6カ月間のサッカー関連活動停止

### 3. 懲罰の決定日

2025年4月14日

### 4. 懲罰の理由

懲罰規程第34条第1項(1)、指導者に関する規則第20条(1)

### 5. 事案の概要

当事者①が無期限のサッカー関連活動停止中であることを知りながら、サッカー関連活動を容認した行為

### 当事者③

- 当事者  
第4種チーム
- 懲罰の種類  
罰金50万円
- 懲罰の決定日  
2025年4月14日
- 懲罰の理由  
懲罰規程第34条第1項(2)、懲罰規程第7条
- 事案の概要  
当事者①が無期限のサッカー関連活動停止中であることを知りながら、サッカー関連活動を容認した行為

- ① SAMURAI BLUE FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)
- ② U-20日本代表 第51回モーリスレペルトーナメント
- ③ U-18日本代表 UEFA Friendship Cup
- ④ U-17日本代表 スペイン遠征
- ⑤ U-16日本代表 U-16インターナショナルドリームカップ2025 JAPAN
- ⑥ なでしこジャパン 国際親善試合
- ⑦ なでしこジャパン 国際親善試合

- ⑧ U-19日本女子代表 SUD Ladies Cup 2025
- ⑨ JFA ナショナルGKキャンプ
- ⑩ 女子GKキャンプU-15
- ⑪ JFA 女子U-13トレーニングキャンプ
- ⑫ エリート女子GKキャンプU-15
- ⑬ JFA 第24回全日本O-50サッカー大会

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ、VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

## SAMURAI BLUE FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)

※関連記事は58~59ページに掲載

### 【スタッフ】

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 名波浩(NCS)、齋藤俊秀(NCS)、前田遼一(NCS)、長谷部誠(アイントラハト・フランクフルト) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺門大輔(JFAテクニカルハウス)、中下征樹(JFAテクニカルハウス)、若林大智(JFAテクニカルハウス)、渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大迫敬介	サンフレッチェ広島	MF/FW	佐野海舟	マインツ05 (GER)
	谷晃生	FC町田ゼルビア		平河悠*	ブリストル・シティ (ENG)
	鈴木彩艶	バルマ・カルチョ (ITA)		熊坂光希※1*	柏レイソル
DF	長友佑都	FC東京		久保建英	レアル・ソシエダド (ESP)
	渡辺剛※1	KAAヘント (BEL)		細谷真大	柏レイソル
	町田浩樹※1	ユニオン・サンジロワーズ (BEL)		鈴木唯人	ブレンビー IF (DEN)
	瀬古歩夢	グラスホッパー CZ (SUI)		藤田隼瑞チマ	シントロイデンVV (BEL)
	関根大輝	スタッド・ランス (FRA)		三戸舜介*	スバルタ・ロツテルダム (NED)
	鈴木淳之介*	湘南ベルマーレ		佐野航大*	NECナイメヘン (NED)
	高井幸大	川崎フロンターレ		俵積田晃太*	FC東京
MF/FW	遠藤航	リバプールFC (ENG)		佐藤龍之介*	フাজアーノ岡山
	大橋祐紀	ブラックバーン・ローヴァーズ (ENG)			
	鎌田大地	クリスタル・パレス (ENG)			
	森下龍矢	レギア・ワルシャワ (POL)			
	町野修斗	ホルシュタイン・キール (GER)			
	中村敬斗	スタッド・ランス (FRA)			

\*: 初召集  
ITA: イタリア、BEL: ベルギー、SUI: スイス、FRA: フランス、ENG: イングランド、POL: ポーランド、GER: ドイツ、ESP: スペイン、DEN: デンマーク、NED: オランダ  
※1: ケガのため途中離脱

### <スケジュール>

- 6月1日 成田発、香港経由  
パース着
- 2日~3日 トレーニング (Dorrien Gardens)
- 4日 公式トレーニング (Perth Stadium)
- 5日 FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)  
vs オーストラリア代表 (Perth Stadium)
- パース発、関西国際空港着
- 6日 トレーニング (J-GREEN堺 S1メインフィールド)
- 7日~8日 公式トレーニング (市立吹田サッカースタジアム)
- 9日 公式トレーニング (市立吹田サッカースタジアム)
- 10日 FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)  
vs インドネシア代表 (市立吹田サッカースタジアム)

### ■インドネシア代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	エミル・アウデロ	パレルモFC (ITA)	DF	プラタマ・アルハン	バンコク・ユナイテッド (THA)
	ナデオ・アルガウィナタ	ボルネオFC		ネイサン・チョーアオン	スウォンジー・シティ (ENG)
	マルテン・パース	FCダラス (USA)	ジャスティン・フブネル	ウルバーハンプトン・ワンダラーズ (ENG)	
	レザ・アリア	PSMマカッサル	ジェイ・ベルベシー	ロンメルSK (BEL)	
DF	エルナンド・アリ	ブルセバヤ・スラバヤ	MF	トム・ハイ	所属なし
ジョルディ・アマト	ジョホール・ダルル・タクジム (MAS)		リッキー・カンブアヤ	デワ・ユナイテッド	
ケビン・ディクス	FCコペンハーゲン (DEN)		イバル・イェナー	FCユトレヒト (NED)	
カルビン・フェルドンク	NECナイメヘン (NED)		マルセリノ・フェルティナン	オックスフォードFC (ENG)	
ヤコブ・サユリ	マルト・ユナイテッド		ステファノ・リリバリ	ボルネオFC	
ヤンチュ・サユリ	マルト・ユナイテッド		オレ・ロメニー	オックスフォードFC (ENG)	
シェイン・パティナム	所属なし		エギー・マウラナ・ピカリ	デワ・ユナイテッド	
アサウイ・マンクアラム	ポートFC (THA)		ベッカム・ブトラ	ブルシブ・バンドン	
ディーン・ジェームズ	ゴアヘッド・イーグルス (NED)		ラマダン・サナンタ	ブルシブ・バンドン	
ジェイ・イゼス	ベネチアFC (ITA)		ラファエル・ストゥルツ	所属なし	
ミース・ヒルハース	FCトウェンテ (NED)				
リズキー・リド	ブルシジャ・ジャカルタ				

ITA: イタリア、USA: アメリカ、MAS: マレーシア、DEN: デンマーク、NED: オランダ、THA: タイ、ENG: イングランド、BEL: ベルギー

監督 バトリック・クライファート

### <スケジュール>

- 6月9日 公式トレーニング (市立吹田サッカースタジアム)
- 10日 FIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)  
vs SAMURAI BLUE (市立吹田サッカースタジアム)

データボックス

FIFA ワールドカップ 26 アジア最終予選 (3次予選)

SAMURAI BLUE 0 (前半0-0 後半0-1) 1 オーストラリア代表

●2025年6月5日 19:10 ●Perth Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]QASIM MATAR AL-HATMI(OMA) [副審]NASSER SALIM AMBUSAIDI(OMA)/HAMED TALIB SAIF AL GHAFRI(OMAN) [第4の審判員]OMAR MUBARAK MAZAROUA AL YAQOUBI(OMAN) [VAR]MUHAMMAD TAQI(SGP) [AVAR]ABDUL HANNAN (SGP) ●マッチコミッショナー:NOH JINKEUN(KOR) ●観衆:57,226人

日本(監督:森保一):[GK](23)谷晃生 [DF](2)関根大輝(4)渡辺剛<→69'(3)高井幸大>(16)町田浩樹<→HT(22)瀬古歩夢> [MF](5)佐野海舟<→64'(10)久保建英>(7)藤田譲瑠チマ(8)鈴木唯人(11)平河悠(15)鎌田大地(20)俵積田晃太<→64'(13)中村敬斗> [FW](9)大橋祐紀<→69'(18)町野修斗>

控え:(1)鈴木彩艶(12)大迫敬介(6)遠藤航(14)三戸舜介(17)森下龍矢(19)佐野航大(21)熊坂光希

オーストラリア(監督:TONY POPOVIC):[GK](1)MATHEW RYAN [DF](2)MWLIOS DEGENEK(3)LEWIS MILLER<→68'(22)JASON GERIA>(16)AZIZ BEHICH(21)CAMERON BURGESS(23)ALESSANDRO CIRCATI [MF](8)CONNOR METCALFE<→80'(10)DANIEL ARZANI>(13)AIDEN O'NEILL(17)RYAN TEAGUE<→HT(19)PATRICK YAZBEK> [FW](6)MARTIN BOYLE<→HT(14)RILEY MCGREE>(11)BRANDON BORRELLO<→68'(15)MITCHELL DUKE>

控え:(12)PAUL DAVID IZZO(18)JOE GAUCI(4)KYE ROWLES(5)ANTHONY CACERES(7)KAI TREWIN(9)ADAM TAGGART(20)MARCO TILIO

得点 [オーストラリア]90+1'AZIZ BEHICH(0-1)

FIFA ワールドカップ 26 アジア最終予選 (3次予選)

SAMURAI BLUE 6 (前半3-0 後半3-0) 0 インドネシア代表

●2025年6月10日 19:35 ●市立吹田サッカースタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]キム・ジョンヒョク(KOR) [副審]バク・キョンヨン(KOR)/チャン・チョンピル(KOR) [第4の審判員]キム・デヨン(KOR) [VAR]キム・ウソン(KOR) [AVAR]チェ・ヒョンジェ(KOR) ●マッチコミッショナー:チャン・イェンチョン(HKG) ●観衆:33,661人

日本(監督:森保一):[GK](12)大迫敬介 [DF](3)高井幸大(4)鈴木淳之介(22)瀬古歩夢 [MF](5)佐野海舟(6)遠藤航(10)久保建英<→69'(21)佐藤龍之介>(14)三戸舜介<→61'(19)佐野航大>(15)鎌田大地<→HT(13)中村敬斗>(17)森下龍矢<→69'(16)細谷真大> [FW](18)町野修斗<→78'(20)俵積田晃太>

控え:(1)鈴木彩艶(23)谷晃生(2)関根大輝(7)藤田譲瑠チマ(8)鈴木唯人(9)大橋祐紀(11)平河悠

インドネシア(監督:パトリック・クライファート):[GK](12)エミル・アウデロ [DF](2)ミース・ヒルハース(3)ジェイ・イゼス(4)ケビン・ディクス<→27'(8)ヤコブ・サユリ<→42'(7)マルセリノ・フェルディナン>(13)ヤンチュ・サユリ(21)ディーン・ジェームズ<→59'(20)シェイン・パティナマ>(23)ジャスティン・フブネル [MF](6)ベッカム・ブトラ<→HT(15)リッキー・カンブアヤ>(14)ジェイ・ペルベシー<→59'(18)ステファノ・リリバリ>(19)トム・ヘイ [FW](10)オレ・ロメニー

控え:(1)マルテン・バース(16)エルナンド・アリ(5)ジョルディ・アマト(9)ラファエル・ストゥルイック(11)エギー・マウラナ・ピクリ(17)カルビン・フェルドンク(22)ネイサン・チョーアオン

得点 [日本]15'、45+6'鎌田大地(1-0)(3-0)、19'久保建英(2-0)、55'森下龍矢(4-0)、58'町野修斗(5-0)、80'細谷真大(6-0)

U-20日本代表 第51回モリスレペロトーナメント

[スタッフ]

○団長:高司裕也(JFA強化部会員) ○監督:船越優蔵(NCS) ○コーチ:菅原大介(NCS)、羽田憲司(NCS) ○GKコーチ:高原寿康(NCS) ○フィジカルコーチ:菅野淳(フィジカルフィットネスプロジェクト) ○テクニカルスタッフ:越智滋之(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	中村圭佑	東京ヴェルディ	MF	小倉幸成	法政大学
	ピサノアレクサンドレ幸冬根尾※2	名古屋グランパス		石渡ネルソン	いわきFC
	荒木琉偉※2	ガンバ大阪		中川育	流通経済大学
	小林将天※1	FC東京		石井久継	湘南ベルマーレ
DF	塩川椋道	流通経済大学	横山夢樹※2	FC今治	
	市原吏音※2	RB大宮アルディージャ	西原源樹	清水エスパルス	
	高橋仁胡※2	セレッソ大阪	嶋本悠大※1	清水エスパルス	
	梅木怜※2	FC今治	神田奏真※2	川崎フロンターレ	
	土屋耀大	川崎フロンターレ	道脇豊	SKベフェレン(BEL)	
	佐藤海宏※2	鹿島アントラーズ	井上愛麗	サンフレッチェ広島	
	布施克真	筑波大学	高岡侑南	サウサンブトンFC(ENG)	
	森壮一朗	名古屋グランパス			
MF	大川佑梧	鹿島アントラーズユース	BEL:ベルギー、ENG:イングランド		
	大関友翔※2	川崎フロンターレ	※1:追加招集		
	平賀大空	京都サンガF.C.	※2:クラブ事情のため途中離脱		

<スケジュール>

6月1日 成田発  
2日 ドバイ経由、ニース着  
トレーニング(Max Sequeira Stadium)  
3日 トレーニング(Max Sequeira Stadium)  
4日 第51回モリスレペロトーナメント  
グループステージ第1戦 vs U-20コンゴ共和国代表(FOS)  
5日~6日 トレーニング(Max Sequeira Stadium)  
7日 グループステージ第2戦 vs U-20メキシコ代表(Avignon)  
8日~9日 トレーニング(Max Sequeira Stadium)  
10日 グループステージ第3戦 vs U-20デンマーク代表(Aubagne)  
11日~12日 トレーニング(Max Sequeira Stadium)  
13日 トレーニング(Max Sequeira Stadium)  
14日 5・6位決定戦 vs U-16マリ代表(Noves)  
15日 ニース発、ドバイ経由  
16日 成田着

■グループステージ(日本のグループのみ)

順位	グループB	デンマーク	メキシコ	日本	コンゴ共和国	勝ち点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	デンマーク		3△3 5PK4	3○0	2○0	8	2	1	0	0	8	3	5
2	メキシコ	3▲3 4PK5		1△1 4PK3	3▲3 3PK5	4	0	1	2	0	7	7	0
3	日本	0●3	1▲1 3PK4		2○0	4	1	0	1	1	3	4	-1
4	コンゴ共和国	0●2	3△3 5PK3	0●2		2	0	1	0	2	3	7	-4

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■5・6位決定戦

日本 2-3 マリ

グループステージ第1戦

U-20日本代表 2 (前半0-0 後半2-0) 0 U-20 コンゴ共和国代表

●2025年6月4日 14:00 ●FOS ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]Khaled ALAHMARI(KSA) [副審]Moayed ALMUSAJEEN(KSA) / Mohammed ALMARSHAD (KSA) [第4の審判員]ROMY FOURNIER(FRA)

日本(監督:船越優蔵):[GK](23)荒木琉偉 [DF](2)梅木怜<-53'(18)布施克真>(3)高橋仁胡(5)市原史音(15)塩川椋道 [MF](6)小倉幸成(7)中川育<-46'(21)横山夢樹>(10)大関友翔<-85'(22)石渡ネルソン>(11)平賀大空<-53'(25)西原源樹>(13)石井久継 [FW](9)神田奏真<-71'(20)高岡伶颯>

控え:(1)中村圭佑(12)ピサノ アレクサンドレ幸冬堀尾(4)大川佑梧(14)道脇豊(16)佐藤海宏(17)井上愛廉(19)土屋樺大(24)森社一朗

得点 | 56', 57' 神田奏真(1-0)(2-0)

警告 | 90+1' 高橋仁胡

グループステージ第2戦

U-20日本代表 1 (前半1-0 後半0-1) 1 U-20メキシコ代表 PK3-4

●2025年6月7日 14:00 ●Avignon ●試合時間:90分,PK ●審判員:[主審]Alexandra COLLIN (FRA) [副審]Clotilde BRASSART (FRA) / Clémentine DUBREUIL (FRA) [第4の審判員]Ermis CELAJ (ALB)

日本(監督:船越優蔵):[GK](12)ピサノアレクサンドレ幸冬堀尾 [DF](2)梅木怜(3)高橋仁胡<-84'(16)佐藤海宏>(5)市原史音(15)塩川椋道 [MF](6)小倉幸成(7)中川育<-84'(18)布施克真>(10)大関友翔(13)石井久継<-71'(22)石渡ネルソン>(25)西原源樹<-62'(11)平賀大空> [FW](9)神田奏真<-71'(14)道脇豊>

控え:(1)中村圭佑(23)荒木琉偉(4)大川佑梧(17)井上愛廉(19)土屋樺大(20)高岡伶颯(21)横山夢樹(24)森社一朗

得点 | 31' 西原源樹(1-0), 61' 失点(1-1)

警告 | 市原史音, 小倉幸成(時間不明)

グループステージ第3戦

U-20日本代表 0 (前半0-1 後半0-2) 3 U-20デンマーク代表

●2025年6月10日 14:00 ●Aubagne ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]COLLIN Alexandra(FRA) [副審]BRASSART Clotilde(FRA) / DUBREUIL Clémentine(FRA) [第4の審判員]TELEK Sara(AUT)

日本(監督:船越優蔵):[GK](1)中村圭佑 [DF](2)梅木怜(5)市原史音(16)佐藤海宏<-69'(3)高橋仁胡>(19)土屋樺大 [MF](6)小倉幸成(10)大関友翔(13)石井久継<-78'(17)井上愛廉>(22)石渡ネルソン<-46'(21)横山夢樹>(25)西原源樹<-46'(11)平賀大空> [FW](9)神田奏真<-78'(20)高岡伶颯>

控え:(12)ピサノアレクサンドレ幸冬堀尾(23)荒木琉偉(26)小林将天(4)大川佑梧(7)中川育(8)嶋本悠大(14)道脇豊(15)塩川椋道(18)布施克真(24)森社一朗

得点 | 5', 78', 85' 失点(0-1)(0-2)(0-3)

警告 | 石渡ネルソン(時間不明)

5・6位決定戦

U-20日本代表 2 (前半0-2 後半2-1) 3 U-20マリ代表

●2025年6月14日 17:00 ●Noves ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]AL AHMARI Khaled(KSA) [副審]AL MUSAJEEN Moayed(KSA) / AL MARSHAD Mohammed(KSA) [第4の審判員]TELEK Sara(AUT)

日本(監督:船越優蔵):[GK](1)中村圭佑 [DF](4)大川佑梧(15)塩川椋道(18)布施克真(24)森社一朗<-85'(19)土屋樺大> [MF](6)小倉幸成(11)平賀大空(13)石井久継(22)石渡ネルソン<-66'(8)嶋本悠大> [FW](17)井上愛廉<-46'(14)道脇豊>(20)高岡伶颯<-75'(25)西原源樹>

控え:(26)小林将天(7)中川育

得点 | 11', 31', 60' 失点(0-1)(0-2)(1-3), 51' 森社一朗(1-2), 86' 石井久継(2-3)

警告 | 大川佑梧, 小倉幸成(時間不明)

U-18日本代表 UEFA Friendship Cup

[スタッフ]

○団長: 吉野伸彦(JFA強化部会員/JC) ○監督: 城和憲(JFA育成ダイレクター) ○コーチ: 西嶋弘之(JC) ○GKコーチ: 吉岡慎輔(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	コニクス・ロレンツ	FCチューリッヒ(SUI)	MF	和田直哉	浦和レッズユース
	ノグチビント天飛	柏レイソルU-18		東口藍太郎	サガン鳥栖U-18
DF	中野陽斗	神村学園高等部	新川志音	サガン鳥栖U-18	
	島佑成	愛媛FC U-18	田中希和	FC東京U-18	
	佐々木将英	FC東京U-18	山本天翔	ガンバ大阪ユース	
	久保遥夢	前橋育英高校	仲山獅恩	東京ヴェルディユース	
	千田遼	ファジアーノ岡山U-18	中野遥翔	アスクラロ沼津U18	
	松岡敏也	興國高校	中積為	ガンバ大阪ユース	
MF	浮邊泰士	鹿児島城西高校	FW	大西利都	名古屋グランパスU-18
	長田叶羽	中央大学		大石脩斗	鹿児島城西高校

SUI: スイス

<スケジュール>

5月29日 成田発、チューリッヒ経由  
ジュネーブ着  
30日~31日 トレーニング(FC Collex-Bossy)  
6月1日 UEFA Friendship Cup  
グループステージ第1戦 vs U-18ポルトガル代表  
(Colovray Sports Centre Stadium)  
2日~3日 トレーニング(FC Collex-Bossy)  
4日 グループステージ第2戦 vs U-18セネガル代表  
(Colovray Sports Centre Stadium)  
5日~6日 トレーニング(FC Collex-Bossy)  
7日 第3戦 vs U-18ウルグアイ代表(Colovray Sports Centre Pitch6)  
8日~9日 トレーニング(FC Collex-Bossy)  
10日 順位決定戦 vs U-18フランス代表(Colovray Sports Centre)  
11日 ジュネーブ発、チューリッヒ経由  
12日 成田着

■グループステージ(日本のグループのみ)

順位	グループB	ポルトガル	日本	セネガル	ウルグアイ	勝点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	ポルトガル	1▲1 3PK4	5○2	3○0	7	2	0	1	0	9	3	6	
2	日本	1△1 4PK3	3▲3 1PK3	4○1	6	1	1	1	0	8	5	3	
3	セネガル	2●5	3△3 3PK1	4○0	5	1	1	0	1	9	8	1	
4	ウルグアイ	0●3	1●4	0●4	0	0	0	0	3	1	11	-10	

○:勝ち(勝ち点3), △:PK勝ち(勝ち点2), ▲:PK負け(勝ち点1), ●:負け(勝ち点0)

■3位決定戦

日本 0-3 フランス

グループステージ第1戦

U-18日本代表 1 (前半0-1 後半1-0) 1 U-18ポルトガル代表 PK4-3

●2025年6月1日 16:00 ●Colovray Sports Centre ●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](12)ノグチピント天飛 [DF](2)千田遼<→46'(18)松岡敏也>(5)中野陽斗(6)島佑成<→62'(3)佐々木将英>(19)浮邊泰士<→76'(4)久保遥夢> [MF](7)山本天翔<→46'(14)和田直哉>(8)新川志音<→62'(11)大西利都>(10)長田叶羽<→76'(20)東口藍太郎>(13)中野遥翔<→72'(16)中積為>(17)仲山獅恩 [FW](9)大石脩斗<→72'(15)田中希和>

控え:(1)コニックス・ロレンツ

得点 33' 失点(0-1)、64' 仲山獅恩(1-1)

警告 9' 浮邊泰士、50' 和田直哉、51' 島佑成

グループステージ第2戦

U-18日本代表 3 (前半3-1 後半0-2) 3 U-18セネガル代表 PK1-3

●2025年6月4日 16:00 ●Colovray Sports Centre ●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](1)コニックス・ロレンツ [DF](4)久保遥夢<→67'(19)浮邊泰士>(5)中野陽斗(6)島佑成(18)松岡敏也 [MF](8)新川志音<→75'(2)千田遼>(13)中野遥翔<→58'(16)中積為>(14)和田直哉<→58'(7)山本天翔>(15)田中希和<→58'(17)仲山獅恩>(20)東口藍太郎<→58'(10)長田叶羽> [FW](11)大西利都<→58'(9)大石脩斗>

控え:(12)ノグチピント天飛(3)佐々木将英

得点 8' 大西利都(1-0)、15' 田中希和(2-0)、27'、55'、63' 失点(2-1)(3-2)(3-3)、28' 中積為(3-1)

グループステージ第3戦

U-18日本代表 4 (前半1-0 後半3-1) 1 U-18ウルグアイ代表

●2025年6月7日 10:30 ●Colovray Sports Centre ●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](1)コニックス・ロレンツ [DF](2)千田遼(4)久保遥夢<→86'(5)中野陽斗>(18)松岡敏也<→59'(6)島佑成>(19)浮邊泰士 [MF](10)長田叶羽<→77'(20)東口藍太郎>(13)中野遥翔<→46'(16)中積為>(14)和田直哉<→77'(7)山本天翔>(15)田中希和<→46'(8)新川志音>(17)仲山獅恩 [FW](9)大石脩斗<→59'(11)大西利都>

控え:(12)ノグチピント天飛(3)佐々木将英

得点 18' オウンゴール(1-0)、70' 和田直哉(2-0)、80' 大西利都(3-0)、83' 仲山獅恩(4-0)、86' 失点(4-1)

警告 76' 島佑成

3位決定戦

U-18日本代表 0 (前半0-1 後半0-2) 3 U-18フランス代表

●2025年6月10日 14:00 ●Colovray Sports Centre ●試合時間:90分

日本(監督:城和憲):[GK](12)ノグチピント天飛 [DF](3)佐々木将英<→79'(19)浮邊泰士>(5)中野陽斗<→74'(4)久保遥夢>(6)島佑成(18)松岡敏也<→62'(2)千田遼> [MF](7)山本天翔<→79'(10)長田叶羽>(8)新川志音(16)中積為<→62'(13)中野遥翔>(17)仲山獅恩<→46'(15)田中希和>(20)東口藍太郎<→46'(14)和田直哉> [FW](9)大石脩斗<→46'(11)大西利都>

控え:(1)コニックス・ロレンツ

得点 21'、68'、82' 失点(0-1)(0-2)(0-3)

U-17日本代表 スペイン遠征

[スタッフ]

○団長:足立修(JFA技術委員/Jリーグフットボールダイレクター) ○監督:廣山望(NCS) ○コーチ:大畑開(NCS) ○GKコーチ:山岸範宏(NCS) ○フィジカルコーチ:佐藤哲哉(NCS) ○テクニカルスタッフ:白石通史(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Table with 5 columns: Pos., 名前, 所属, Pos., 名前, 所属. Lists players for GK, DF, MF, and FW positions.

<スケジュール>

6月2日~4日 トレーニング
5日 国際親善試合 vs U-17カナダ代表 (Oliva Nova Sports Center)
6日 国際親善試合 vs U-17モロッコ代表 (La Nucia Stadium)
7日 トレーニング
8日 国際親善試合 vs U-17スウェーデン代表 (Oliva Nova Sports Center)
9日 トレーニング
10日 国際親善試合 vs U-17アメリカ代表 (Oliva Nova Sports Center)

第1戦

U-17日本代表 4 (前半2-0 後半2-1) 1 U-17カナダ代表

●2025年6月5日 12:30 ●Oliva Nova Sports Center ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](12)平野稜太 [DF](2)藤田明日翔<→75'(19)横井佑弥>(3)藤川虎三<→80'(22)中村虎太郎>(4)藤井翔大<→75'(5)元砂晏翔仁ウデンバ>(6)増田大空<→75'(20)瀨口大翔>(17)竹野楓太<→80'(14)神田泰斗> [MF](7)今井宏亮<→80'(16)川本大善>(15)北原慎(13)樺山文代志 [FW](10)吉田湊海<→80'(11)浅田大翔>(18)葛西夢吹<→80'(9)瀨尾凌太>

控え:(1)松浦大翔(8)姫野誠

得点 14' 吉田湊海(1-0)、21' 北原慎(2-0)、54' 失点(2-1)、68' 吉田湊海(3-1)、89' 瀨尾凌太(4-1)

第2戦

U-17日本代表 2 (前半1-0 後半1-0) 0 U-17モロッコ代表

●2025年6月6日 12:30 ●La Nucia Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](1)松浦大翔 [DF](4)藤井翔大<→HT(3)藤川虎三>(2)藤田明日翔>(5)元砂晏翔仁ウデンバ(17)竹野楓太<→HT(6)増田大空>(19)横井佑弥 [MF](14)神田泰斗(16)川本大善(20)瀨口大翔(22)中村虎太郎<→75'(10)吉田湊海> [FW](9)瀨尾凌太<→82'(18)葛西夢吹>(11)浅田大翔<→82'(7)今井宏亮>

控え:(12)平野稜太(8)姫野誠(13)樺山文代志(15)北原慎

得点 7' 浅田大翔(1-0)、50' 瀨尾凌太(2-0)

第3戦

U-17日本代表 0 (前半0-1 後半0-0) 1 U-17スウェーデン代表

●2025年6月8日 11:00 ●Oliva Nova Sports Center ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](12)平野稜太 [DF](2)藤田明日翔(3)藤川虎三(6)増田大空<-81'(14)神田泰斗>(19)横井佑弥<->HT(4)藤井翔大> [MF](7)今井宏亮<-81'(22)中村虎太郎>(15)北原慎<-53'(9)瀬尾凌太>(16)川本大善<->HT(13)樺山文代志>(20)瀧口大翔<->HT(17)竹野楓太> [FW](10)吉田湊海(18)葛西夢吹<-53'(11)浅田大翔>

控え:(1)松浦大翔(5)元砂晏翔仁ウデンバ(8)姫野誠

得点 | 16'失点(0-1)

第4戦

U-17日本代表 0 (前半0-2 後半0-1) 3 U-17アメリカ代表

●2025年6月10日 12:00 ●Oliva Nova Sports Center ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](1)松浦大翔 [DF](4)藤井翔大(5)元砂晏翔仁ウデンバ(17)竹野楓太<->HT(6)増田大空>(19)横井佑弥 [MF](13)樺山文代志<->69'(7)今井宏亮>(14)神田泰斗(20)瀧口大翔(22)中村虎太郎<->HT(10)吉田湊海> [FW](9)瀬尾凌太<->73'(15)北原慎>(11)浅田大翔

控え:(12)平野稜太(2)藤田明日翔(3)藤川虎三(8)姫野誠(16)川本大善(18)葛西夢吹

得点 | 9', 43', 59'失点(0-1)(0-2)(0-3)

U-16日本代表 U-16インターナショナルドリームカップ2025 JAPAN

[スタッフ]

○監督:小野信義(NCS) ○コーチ:山橋貴史(JC) ○GKコーチ:井出大志(NCS) ○フィジカルコーチ:小嶺隆之(NCS) ○テクニカルスタッフ:引田真尋(JFAテクニカルハウス)

※関連記事は63ページに掲載

<選手>

Table with player positions (GK, DF, MF, FW), names, and clubs. Includes players like 佐藤大翔, 上野曜晏, 森井莉人, etc.

<スケジュール>

6月2日~3日 トレーニング(Jヴィレッジ)
4日 U-16インターナショナルドリームカップ2025 JAPAN
5日 第1戦 vs U-16コロンビア代表(Jヴィレッジスタジアム)
6日 トレーニング(Jヴィレッジ)
7日 第2戦 vs U-16コートジボワール代表(Jヴィレッジスタジアム)
8日 トレーニング(Jヴィレッジ)
9日 第3戦 vs U-16フランス代表(Jヴィレッジスタジアム)

Table showing tournament standings for Japan, France, Cote d'Ivoire, and Colombia with columns for rank, goals, and points.

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1戦

U-16日本代表 1 (前半0-0 後半1-0) 0 U-16コロンビア代表

●2025年6月4日 15:00 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]眞尾龍 [副審]宇田川泰弘/柿本麻希 [第4の審判員]大藤翔平 ●マッチコミッショナー:飯野琢人 ●観衆:249人

日本(監督:小野信義):[GK](1)大下幸誠 [DF](4)岡元侑大<-61'(3)森井莉人>(13)井芹響輔<-61'(5)エゼモクエ チメツェ海>(19)上野曜晏<->HT(2)橋本凜来>(20)相馬陸人 [MF](6)和田武士<-73'(17)藤本祥輝>(7)岩土そら(10)里見汰福<-61'(8)小笠原央>(15)木村風斗<-73'(11)野田歩>(16)児山雅稀<->HT(14)中島璃久> [FW](9)高木瑛人<->81'(18)平井一輝>

控え:(12)佐藤大翔

得点 | 56' 里見汰福(1-0)

第2戦

U-16日本代表 5 (前半4-0 後半1-1) 1 U-16コートジボワール代表

●2025年6月6日 15:00 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]高橋陸 [副審]大藤翔平/竹田和雄 [第4の審判員]原崇 ●マッチコミッショナー:飯野琢人 ●観衆:240人

日本(監督:小野信義):[GK](12)佐藤大翔 [DF](3)森井莉人(4)岡元侑大<-71'(20)相馬陸人>(5)エゼモクエ チメツェ海<->HT(13)井芹響輔>(19)上野曜晏<->60'(2)橋本凜来> [MF](6)和田武士<-60'(7)岩土そら>(8)小笠原央<-60'(10)里見汰福>(11)野田歩<-60'(15)木村風斗>(14)三井寺眞<->HT(16)児山雅稀>(17)藤本祥輝 [FW](18)平井一輝<-76'(9)高木瑛人>

控え:(1)大下幸誠

得点 | 24' エゼモクエ チメツェ海(1-0)、31' オウンゴール(2-0)、34' 三井寺眞(3-0)、41' 野田歩(4-0)、55' 失点(4-1)、68' 橋本凜来(5-1)

第3戦

U-16日本代表 2 (前半2-0 後半0-0) 0 U-16フランス代表

●2025年6月8日 14:00 ●Jヴィレッジスタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]小林健太郎 [副審]原崇/勝又美沙希 [第4の審判員]菊池俊吾 ●マッチコミッショナー:飯野琢人 ●観衆:1,483人

日本(監督:小野信義):[GK](1)大下幸誠 [DF](2)橋本凜来(3)森井莉人(5)エゼモクエ チメツェ海(20)相馬陸人<-64'(4)岡元侑大> [MF](6)和田武士<-64'(17)藤本祥輝>(7)岩土そら(8)小笠原央<-73'(10)里見汰福>(14)三井寺眞<-73'(16)児山雅稀>(15)木村風斗<-86'(13)井芹響輔> [FW](9)高木瑛人<-86'(18)平井一輝>

控え:(12)佐藤大翔(11)野田歩(19)上野曜晏

得点 | 20' 三井寺眞(1-0)、39' 高木瑛人(2-0)

なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合

※関連記事は60~61ページに掲載

【スタッフ】

○監督: ニルス・ニールセン(NCS) ○コーチ: 狩野倫久(NCS/SAGAWASHIGAFU)、リア・ブレイン(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 岡本隆吾(NCS/東日本電信電話) ○テクニカルスタッフ: 小杉光正(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	マンチェスター・シティ (ENG)	MF	杉田妃和	ボートランド・ソーンズFC (USA)
	平尾知佳	アルビレックス新潟レディーズ		長野風花	リバプールFC (ENG)
	大熊茜	INAC神戸レオネッサ		植木理子	ウェストハム・ユナイテッド (ENG)
DF	熊谷紗希	ロンドン・シティ・ライオネス (ENG)	宮澤ひなた	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)	
	北川ひかる	BKヘッケン (SWE)	藤野あおば	マンチェスター・シティ (ENG)	
	南萌華	ASローマ (ITA)	浜野まいか	チェルシー (ENG)	
	千葉玲海菜	アイントラハト・フランクフルト (GER)	谷川萌々子	バイエルン・ミュンヘン (GER)	
	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース	三浦成美※2	ワシントン・スピリット (USA)	
	山本柚月*	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	田中美南	ユタ・ロイヤルズ (USA)	
	石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース	松窪真心	ノースカロライナ・カレッジ (USA)	
MF	古賀塔子	フェイエノールト (NED)	*: 初招集		
	初木結花	レスター・シティ (ENG)	ENG: イングランド, SWE: スウェーデン, ITA: イタリア, GER: ドイツ,		
	清家貴子	ブライトン・アンド・ホヴ・アルビオン (ENG)	NED: オランダ, USA: アメリカ		
	長谷川唯※1	マンチェスター・シティ (ENG)	※1: コンディション不良のため不参加 ※2: 追加招集		

<スケジュール>

5月26日	羽田発、フランクフルト経由
27日	サンパウロ着 トレーニング (Palmeiras Training Center)
28日	トレーニング (Palmeiras Training Center)
29日	トレーニング (Neo Química Arena)
30日	国際親善試合 vs ブラジル女子代表 (Neo Química Arena)
31日	トレーニング (Palmeiras Training Center)
6月1日	トレーニング
2日	国際親善試合 vs ブラジル女子代表 (Cicero de Souza Marques Stadium)
3日	サンパウロ発
4日	チューリッヒ経由
5日	成田着

国際親善試合

なでしこジャパン 1 (前半0-2 後半1-1) 3 ブラジル女子代表

●2025年5月30日 21:30 ●Neo Química Arena ●試合時間:90分 ●審判員:  
[主審]ROBERTA ECHEVERRIA (ARG) [副審]GISELA TRUCCO (ARG) / DAIANA MILONE (ARG) [第4の審判員]MARIA LAURA FORTUNATO (ARG) [VAR]SUSANA CORELLA (ECU) [AVAR]MARIA VICTORIA DAZA (COL) ●観衆:33,325人

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](1)山下杏也加 [DF](3)南萌華(4)熊谷紗希<→76'(2)山本柚月>(6)古賀塔子(13)北川ひかる<→89'(22)千葉玲海菜> [MF](7)宮澤ひなた<→89'(18)杉田妃和>(10)長野風花<→68'(16)初木結花>(15)藤野あおば<→76'(8)清家貴子>(17)浜野まいか(19)谷川萌々子<→68'(20)松窪真心> [FW](11)田中美南

控え:(12)平尾知佳(23)大熊茜(5)高橋はな(9)植木理子(14)三浦成美(21)石川璃音

ブラジル(監督:Arthur Elias):[GK](1)Lorena [DF](2)Fè Palermo<→90+1'(15)Kaká>(6)Yasmim<→82'(16)Fátima Dutra>(20)Mariza(23)Isa Haas [MF](5)Duda Sampaio(8)Angelina [FW](7)Kerolin<→68'(10)Marta>(19)Luany<→68'(9)Adriana>(21)Gio<→82'(18)Jheniffer>(24)Dudinha<→82'(14)Ludmila>

控え:(12)Camila(22)Claudia(3)Tarciane(4)Thais Ferreira(11)Amanda Gutierrez(13)Bruna Calderan(17)Jhonson(25)Yaya(26)Ary Borges

得点 [日本]88'清家貴子(1-3) [ブラジル]27', 41'Dudinha(0-1) (0-2), 55'Kerolin(0-3)

警告 [ブラジル]31'Isa Haas, 80'Gio

国際親善試合

なでしこジャパン 1 (前半0-0 後半1-2) 2 ブラジル女子代表

●2025年6月2日 20:00 ●Cicero de Souza Marques Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]MARIA LAULA FORTUNATO (ARG) [副審]DAIANA MILONE (ARG) / GISELA TRUCCO (ARG) [第4の審判員]ROBERTA ECHEVERRIA (ARG) [VAR]MARIA VICTORIA DAZA (COL) [AVAR]SUSANA CORELLA (ECU) ●観衆:8,412人

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](1)山下杏也加 [DF](5)高橋はな<→82'(2)山本柚月>(6)古賀塔子(13)北川ひかる<→46'(22)千葉玲海菜>(21)石川璃音 [MF](8)清家貴子<→63'(9)植木理子>(14)三浦成美(15)藤野あおば<→63'(17)浜野まいか>(16)初木結花<→63'(18)杉田妃和> [FW](11)田中美南(20)松窪真心<→82'(7)宮澤ひなた>

控え:(12)平尾知佳(23)大熊茜(3)南萌華(4)熊谷紗希(10)長野風花(19)谷川萌々子

ブラジル(監督:Arthur Elias):[GK](1)Lorena [DF](4)Thais Ferreira<→61'(15)Kaká>(6)Yasmim<→72'(19)Luany>(20)Mariza(23)Isa Haas [MF](5)Duda Sampaio(8)Angelina [FW](7)Kerolin<→90+3'(26)Ary Borges>(9)Adriana<→61'(13)Bruna Calderan>(10)Marta<→72'(17)Jhonson>(24)Dudinha<→82'(21)Gio>

控え:(12)Camila(22)Claudia(2)Fè Palermo(3)Tarciane(11)Amanda Gutierrez(14)Ludmila(16)Fátima Dutra(18)Jheniffer(25)Yaya

得点 [日本]46'清家貴子(1-0) [ブラジル]54'オウンゴール(1-1), 78'Jhonson(1-2)

警告 [日本]53'松窪真心 [ブラジル]51'Duda Sampaio, 81'Bruna Calderan

なでしこジャパン 国際親善試合

※関連記事は62ページに掲載

【スタッフ】

○監督: ニルス・ニールセン(NCS) ○コーチ: 狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC)、リア・ブレイン(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 岡本隆吾(NCS/東日本電信電話) ○テクニカルスタッフ: 小杉光正(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	マンチェスター・シティ (ENG)	MF	長野風花	リバプールFC (ENG)
	スタンボー華	エンジェル・シティ FC (USA)		宮澤ひなた	マンチェスター・ユナイテッド (ENG)
DF	熊谷紗希	ロンドン・シティ・ライオネス (ENG)	藤野あおば	マンチェスター・シティ (ENG)	
	守屋都弥	エンジェル・シティ FC (USA)	浜野まいか	チェルシー (ENG)	
	北川ひかる	BKヘッケン (SWE)	谷川萌々子	バイエルン・ミュンヘン (GER)	
	南萌華	ASローマ (ITA)	初木結花※2	レスター・シティ (ENG)	
	宝田沙織	セレッソ大阪ヤンマーレディーズ	田中美南	ユタ・ロイヤルズ (USA)	
	古賀塔子	フェイエノールト (NED)	松窪真心	ノースカロライナ・カレッジ (USA)	
MF	長谷川唯※1	マンチェスター・シティ (ENG)	ENG: イングランド, USA: アメリカ, SWE: スウェーデン, ITA: イタリア, NED: オランダ, GER: ドイツ		
	杉田妃和	ボートランド・ソーンズFC (USA)	※1: コンディション不良のため不参加		
	三浦成美	ワシントン・スピリット (USA)	※2: 追加招集		

<スケジュール>

6月23日	羽田発、フランクフルト経由、マドリッド着
24日~25日	トレーニング (Annex Field of the Santo Domingo Stadium in Alcorcón)
26日	トレーニング (Butarque Stadium)
27日	国際親善試合 vs スペイン女子代表 (Butarque Stadium)
28日	マドリッド発、フランクフルト経由
29日	羽田着

データボックス

国際親善試合

なでしこジャパン 1 (前半1-1 後半0-2) 3 スペイン女子代表

●2025年6月27日 21:00 ●Butarque Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] Milica Milovanovic(SRB) [副審] Aleksandra Kosnic(SRB) / Marijana Viceunijevic(SRB) [第4の審判員] Mima Stankovic(SRB)

日本(監督:ニルス・ニールセン):[GK](1)山下杏也加 [DF](4)熊谷紗希<-63'(3)南萌華>(5)守屋部弥(6)古賀塔子(13)北川ひかる<-19'(2)宝田沙織> [MF](7)宮澤ひなた<-63'(19)谷川萌々子>(15)藤野あおば<-46'(18)杉田妃和>(16)三浦成美<-46'(10)長野風花>(17)浜野まいか<-63'(9)初木結花> [FW](11)田中美南(20)松窪真心

控え:(12)スタンボー華

スペイン(監督:MONTSERRAT TOMÉ VÁZQUEZ):[GK](13)CATALINA TOMAS COLL LLUCH [DF](2)ONA BATLLE PASCUAL<-46'(3)JANA FERNÁNDEZ VELASCO>(5)MARÍA MÉNDEZ FERNÁNDEZ(7)OLGA CARMONA GARCÍA<-75'(15)LEILA OUAHABI ELOUHABI>(14)LAIA ALEIXANDRI LÓPEZ [MF](11)ALEXIA PUTELLAS SEGURA<-85'(22)MAITE ZUBIETA ARANBARRI>(12)PATRICIA GUIJARRO GUTIÉRREZ(19)VICTORIA LÓPEZ SERRANO FÉLIX<-67'(10)ATHENEA DEL CASTILLO BEVIDE> [FW](8)MARÍA FRANCESA CALDENTEY OLIVER(20)CLAUDIA PINA MEDINA<-75'(18)SALMA CELESTE PARALLUELO AYINGONO>(21)ALBA MARÍA REDONDO FERRER<-46'(9)ESTHER GONZÁLEZ RODRÍGUEZ>

控え:(1)ESTHER SULLASTRES AYUSO(23)ADRIANA NANCLARES ROMERO(4)IRENE PAREDES HERNÁNDEZ(16)CRISTINA MARTÍN-PRIETO GUTIÉRREZ(17)LUCÍA GARCÍA CÓRDOBA

得点 [日本]30'田中美南(1-0) [スペイン]43'CLAUDIA PINA MEDINA(1-1)、66'VICTORIA LÓPEZ SERRANO FÉLIX(1-2)、87'ATHENEA DEL CASTILLO BEVIDE(1-3)

U-19日本女子代表 SUD Ladies Cup 2025

[スタッフ]

○監督:井尻明(NCS) ○コーチ:鈴木木乃実(NCS) ○GKコーチ:小林忍(NCS) ○フィジカルコーチ:石井孝典(NCS) ○テクニカルスタッフ:見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原	FP	栗本悠加※1	筑波大学
	名和咲香	セレッソ大阪ヤンマーレディース		鈴木温子	日体大SMG横浜
	石田ひなは	サンフレッチェ広島レジーナ		太田美月	INAC神戸レオネッサ
FP	樋口梨花	ちふれASエルフェン埼玉	眞城美春	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	秋本佳音	三菱重工浦和レッズレディース	原ひばり	JFAアカデミー福島	
	木村未来	ちふれASエルフェン埼玉	本多桃華	十文字高校	
	高橋光莉	日体大SMG横浜	佐藤ももサロワウエキ	大商学園高校	
	松永未夢	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	榊愛花	JFAアカデミー福島	
	田子夏海	セレッソ大阪ヤンマーレディース	朝生珠実	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	
	板村真央	フェイエノールト(NED)	柘植沙羽※2	ちふれASエルフェン埼玉	
	横山笑愛	アルビレックス新潟レディース	根津里莉日※2	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18	
	新井萌禾	FC十文字Mare			
	藤崎智子	三菱重工浦和レッズレディース			

<スケジュール>

5月26日 羽田発、ドバイ経由 ニース着  
27日 トレーニング  
28日 SUD Ladies Cup 2025 第1戦 vs U-23モロッコ女子代表 (Parc Des Sports) トレーニング  
29日~30日 トレーニング  
31日 第2戦 vs U-23チェコ女子代表 (Parc Des Sports)  
6月1日~2日 トレーニング  
3日 第3戦 vs U-23フランス女子代表 (Parc Des Sports)  
4日 ニース発、ドバイ経由  
5日 成田着

NED:オランダ  
※1:ケガのため不参加  
※2:追加招集

順位	フランス	日本	チェコ	モロッコ	試合数	勝	PK負	PK負	得点	失点	差	
1	フランス	4○1	1▲1 4PK5	4○0	7	2	0	1	0	9	2	7
2	日本	1●4	1○0	4○0	6	2	0	0	1	6	4	2
3	チェコ	1△1 5PK4	0●1	3○0	5	1	1	0	1	4	2	2
4	モロッコ	0●4	0●4	0●3	0	0	0	0	3	0	11	-11

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1戦

U-19日本女子代表 4 (前半2-0 後半2-0) 0 U-23モロッコ女子代表

●2025年5月28日 20:00 ●Parc Des Sports ●試合時間:90分

日本(監督:井尻明):[GK](1)名和咲香 [FP](3)秋本佳音<-80'(17)原ひばり>(5)松永未夢<-80'(4)木村未来>(7)板村真央<-80'(11)根津里莉日>(8)横山笑愛(9)新井萌禾(13)鈴木温子(14)太田美月(15)眞城美春<-66'(2)樋口梨花>(18)本多桃華<-89'(22)朝生珠実>(20)佐藤ももサロワウエキ<-63'(10)藤崎智子>

控え:(12)岩崎有波(23)石田ひなは(6)田子夏海(16)柘植沙羽(19)高橋光莉(21)榊愛花

得点 33'松永未夢(1-0)、45+2'板村真央(2-0)、65'佐藤ももサロワウエキ(3-0)、87'藤崎智子(4-0)

第2戦

U-19日本女子代表 1 (前半1-0 後半0-0) 0 U-23チェコ女子代表

●2025年5月31日 18:00 ●Parc Des Sports ●試合時間:90分

日本(監督:井尻明):[GK](23)石田ひなは [FP](2)樋口梨花<-78'(7)板村真央>(3)秋本佳音<-63'(15)眞城美春>(4)木村未来<-89'(5)松永未夢>(6)田子夏海(10)藤崎智子<-78'(20)佐藤ももサロワウエキ>(11)根津里莉日<-63'(17)原ひばり>(14)太田美月<-46'(21)榊愛花>(16)柘植沙羽(19)高橋光莉(22)朝生珠実

控え:(1)名和咲香(12)岩崎有波(9)新井萌禾(13)鈴木温子(18)本多桃華

得点 1'藤崎智子(1-0)

第3戦

U-19日本女子代表 1 (前半0-2 後半1-2) 4 U-23フランス女子代表

●2025年6月3日 18:00 ●Parc Des Sports ●試合時間:90分

日本(監督:井尻明):[GK](12)岩崎有波 [FP](5)松永未夢<-87'(19)高橋光莉>(7)板村真央<-65'(4)木村未来>(9)新井萌禾(13)鈴木温子<-46'(3)秋本佳音>(14)太田美月(15)眞城美春(17)原ひばり<-81'(11)根津里莉日>(18)本多桃華<-46'(2)樋口梨花>(20)佐藤ももサロワウエキ<-65'(10)藤崎智子>(22)朝生珠実

控え:(1)名和咲香(23)石田ひなは(6)田子夏海(8)横山笑愛(16)柘植沙羽(21)榊愛花

得点 6'、23'、48'、71失点(0-1)(0-2)(0-3)(0-4)、90+3' 藤崎智子(1-4)

## JFA ナショナルGK キャンプ(高円宮記念 JFA 夢フィールド)

### <スタッフ>

○GKコーチ: 井出大志(NCS(U-16日本代表GKコーチ)), 前田信弘(JC/JFAアカデミー福島), 山岸範宏(NCS(U-17日本代表GKコーチ)), 佐野智之(JC/ガンバ大阪), 楠本晃義(JC/栃木県サッカー協会FAコーチ), 齋藤武志(JC/モンテディオ山形), 本間康貴(JC/松本山雅FC)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	佐賀都築	北海道コンサドーレ旭川U-15	GK	東一星エリック	ガンバ大阪ジュニアユース
	畑原樹葵	北海道コンサドーレ室蘭U-15		伊芸有生	セレッソ大阪 西U-15
	佐野出帆※1	ベガルタ仙台ジュニアユース		田畑快斗	宇治FCジュニアユース
	大塚音杜	クラブ与野		宮川達平	京都サンガF.C.U-15
	高橋蒼	浦和レッズジュニアユース		鳴滝大悟	ファジアーノ岡山U-15
	日景奏太郎	横浜FCジュニアユース		佐々木陽都	徳島ヴォルティスジュニアユース
	ベリー ジョーゼフ	ジェフユナイテッド千葉U-15		オコンクイケム ジェフ	Estepicor沖縄
	高橋一粋	アルビレックス新潟U-15		工藤夢大	エリア伊都フットボールアカデミー U-15
	藤森悠真	松本山雅FC U-15		高月祥真	大分トリニータU-15
	小林謙太	名古屋グランパスU-15		竹内勇誠※2	サンフレッチェくびきフットボールクラブU-15
	清水光樹	ジュビロ磐田U-15			

※1: ケガのため不参加  
※2: 追加招集

### <スケジュール>

6月13日~15日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

## 女子GK キャンプU-15(高円宮記念 JFA 夢フィールド)

### <スタッフ>

○GKコーチ: 澤野晃士(JC/山口県立光高校), 諏訪雄大(JC/JAPANサッカーカレッジ), 本村俊三(JC/札幌大谷学園高校), 生田千宝(JC/熊本国府高校), 忽滑谷隆聖(ニッパツ横須賀FCシーガルス)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	松原怜生	北海道リラ・コンサドーレ	GK	山本和奏	くびき野FC
	菊池柚葉	奥州ユナイテッドFC・プリンセス		福田芽依子	北陸大学フィオーレ
	熊谷花	マイナビ仙台レディースジュニアユース		榎葉千夏	藤枝順心サッカークラブジュニアユース
	奥山杏美	大宮アルディージャ VENTUS U15		板井みのり	名古屋フットボールクラブ ルミナス
	山田果歩	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15		島津羽音	サンフレッチェ広島レジーナ ジュニアユース
	平野真琴	湘南ベルマーレU-15ガールズ		前田星音	神村学園中等部

### <スケジュール>

5月16日~18日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

## JFA 女子U-13 トレーニングキャンプ(J-GREEN 堺)

### <スタッフ>

○コーチ: 加藤賢二(JC/JFAアカデミー堺), 佐野佑樹(JC), 鈴木香菜(JC/FC今治), 北川和人(JC/北陸電力) ○GKコーチ: 井嶋正樹(JC), 宇津江智保(JC/群馬県サッカー協会)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	清水あいこ	北海道リラ・コンサドーレ	FP	小池結芽	INAC神戸テゾーロ
	山岡千鶴	大宮アルディージャ VENTUS U15		梅本雫	INAC神戸テゾーロ
	田中燈里	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース		行徳乃愛	神村学園中等部
	中來田空奈	FC. TIARA GIRLS		伊東空	ジェフ千葉レディースU-15
FP	鷲谷心晴	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース		鬼塚樹南	サンフレッチェ福山レジーナジュニアユース
	森川陽菜莉	北陸大学フィオーレ		森菜楓	SATOなでしこ U-15
	西澤琉愛	ジェフ千葉レディースU-15		満屋桃杏	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	古川心都	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		加藤真央	朝日インテック・ラブリッジ名古屋 スターチス
	松本芽生	ちふれASエルフエン埼玉マリU15		神野咲子	愛媛FCレディースMIKAN U-15
	横木あつ	アルビレックス新潟レディースU-15		野口凜璃愛	SATOなでしこ U-15
	小野こまち	丸亀ELF女子F.C		森井咲	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	佐藤愛夏	NJSS		西村祐蒼	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	鈴木日莉	グロースフットボールクラブ		山根杏南	FC.REVO山口
	窪田心優	横須賀シーガルス'BES		松本明花里	北海道リラ・コンサドーレ
	北山実生	八女学院フットボールクラブ		飯田莉桜	FCフォルテ札幌U15
	岩佐梨乃花	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15		村松美音	RENUOVENS OGASA FOOTBALL CLUB

### <スケジュール>

6月11日~14日 トレーニング

## エリート女子GK キャンプU-15(J-GREEN 堺)

### <スタッフ>

○GKコーチ: 井嶋正樹(NCS/JC), 櫛引実(JC/JFAアカデミー堺)

### <選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大崎詩	ジェフ千葉レディースU-15	GK	山本和奏	くびき野FC
	宮地純花	INAC神戸テゾーロ		蜷川梅乃	RESC GIRLS U-15/JFAアカデミー堺
	森島響花	SASAYURI FC SHIGA/JFAアカデミー堺		松井彩笑歌	横須賀シーガルスMEG
	島津羽音	サンフレッチェ広島レジーナ ジュニアユース			

### <スケジュール>

6月17日~19日 トレーニング(J-GREEN堺)

# JFA 第24回全日本O-50サッカー大会

JFA 第24回全日本O-50サッカー大会は、1976（昭和51）年4月1日以前生まれの2025年度JFA登録選手によって構成されたチームに参加資格が与えられ、JFAの主催で6月21日～23日に沖縄県国頭郡で開催された。

※関連記事は67ページに掲載

## ■1次ラウンド

順位	グループA	LEYENDA	T・ドリームス	沖縄海邦	アンフィニ	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	LEYENDA(関西/奈良)	100	200	000	7	2	1	0	3	0	3	
2	T・ドリームス50(関東2/東京都)	0●1	301	300	6	2	0	1	6	2	4	
3	沖縄海邦クラブ(開成地/沖縄)	0●2	1●3	201	3	1	0	2	3	6	-3	
4	FCKアンフィニ(北海道1)	0△0	0●3	1●2	1	0	1	2	1	5	-4	

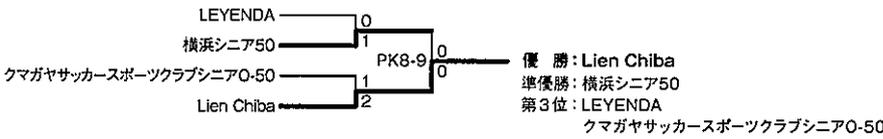
順位	グループB	横浜シニア	キッカーズ	徳島	あづま	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜シニア50(関東1/神奈川県)	100	0△0	300	7	2	1	0	4	0	4	
2	キッカーズ1970(中国2/鳥取)	0●1	201	302	6	2	0	1	5	4	1	
3	徳島SFC(四国1/徳島)	0△0	1●2	100	4	1	1	1	2	2	0	
4	あづまフットボールクラブ(東北/福島)	0●3	2●3	0●1	0	0	0	3	2	7	-5	

順位	グループC	クマガヤ	広島四十雀	OITA	Docon Jack	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	クマガヤサッカースポーツクラブシニアO-50(関東4/埼玉)	0△0	200	200	7	2	1	0	4	0	4	
2	広島四十雀サッカークラブ(中国1/広島)	0△0	0●1	100	4	1	1	1	1	1	0	
3	OITA.over(九州/大分)	0●2	100	1△1	4	1	1	1	2	3	-1	
4	Docon Jack 50(北海道2)	0●2	0●1	1△1	1	0	1	2	1	4	-3	

順位	グループD	Lien Chiba	藤枝	アルファロケット	香川	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	Lien Chiba(関東3/千葉)	300	100	200	9	3	0	0	6	0	6	
2	藤枝フットボールクラブO-50(東海/静岡)	0●3	201	100	6	2	0	1	3	4	-1	
3	アルファロケット安曇野シニア(北信越/長野)	0●1	1●2	501	3	1	0	2	6	4	2	
4	香川SFC(四国2/香川)	0●2	0●1	1●5	0	0	0	3	1	8	-7	

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

## ■決勝ラウンド



### 【参加選手】

#### <FCKアンフィニ> 監督:俵貴宏

垣内幹雄、草野善洋、林伸司、草島猛、矢野貴之、萩原壮介、桐山城太郎、川田宏行、島田幸信、真野修五、山口寛司、武蔵陽一、山田伸樹、大場満、近昭仁、富所哲、森夫志、渡部文緒、田端充、湯口基、宮本敬司

#### <Docon Jack 50> 監督:橋本康弘

山崎一史、橋本康弘、二川亘、吉川良隆、西山和明、及川宏之、中野規、川島志朗、松山健彦、金山明弘、植竹敏幸、岡田裕之、佐藤英隆、大矢竜範、千葉正、笠原雪夫、高橋洋一、桂田直和、近藤良一、所琢也、服部大五、山口裕司、坂本昌司、中村一仁、長谷川互

#### <あづまフットボールクラブ> 監督:河野浩二

丹野伝重、緑上智貴、佐藤宏樹、小苗和志、高橋理、鈴木祐二、関根政広、斎藤正人、鈴木常幸、千葉秀和、佐久間満、沖田貴、園谷薫、鏡友哉、河野浩二、伊藤邦彦、齋藤裕史、国分真、高橋久、杉内健二、山口晃、佐藤広、山根和広、黒津誠、三瓶拓朗

#### <横浜シニア50> 監督:島田豊久

瓜田孝憲、村田茂儀、乙丸克之、伊藤善彦、川元正英、横溝真平、米満宏次、大坪陽介、井上毅彦、木村伸弘、渡辺淳一、出井正知、中田克彦、権原亘、正田明生、島田豊久、田代仁、中山隆毅、半田力也、平田信明、中村元彦、小森和隆、福田要、阿部良則、佐野晴謙

#### <T・ドリームス50> 監督:本田泰人

小林康紀、鶴岡洋介、カーク・ニューライター、石村親、小西俊市朗、落合祐二、横戸勤、鈴木正和、百瀬成彦、本田泰人、木村裕之、千葉哲哉、菅野賢一、和田展史、我妻誠一、伊藤隆史、黒岩文幸、米原隆幸、木島教、福益大、山本佳正、野本英男、増田真一、山口寛樹、前田治

#### <Lien Chiba> 監督:森崎彰英

大下将史、大嶋智栄、執行康之、八木正彦、金子雅紀、永木勲、清水克哉、石井保則、村田信義、長瀬知徳、後藤力也、渡辺悟、小久保直哉、畑山英樹、山口豊、萩原厚、大畑裕、吉澤亮、森崎彰英、飯島照明、佐久間良行、石井徳英、柄沢和信、会津太介

#### <クマガヤサッカースポーツクラブシニアO-50> 監督:天沼達也

秋池伸一、掛川誠、在原崇親、久保田正幸、増田雄司、高見哲、新井宏明、菅間健史、小林聖史、手塚真澄、大本篤史、安藤宏、天沼達也、山崎修司、飯塚恵司、加藤悦仁、田口昌弘、茂木幸也、野口豊文、野沢嘉徳、森谷政樹、吉田忠史、小沼英亮、林伸昭、長崎将和

#### <アルファロケット安曇野シニア> 監督:松澤孝明

竹内進吾、坂口善文、矢ヶ崎広志、小平晋、吉武康栄、倉石武昇、飯田勇二、青木大輔、宮下晃広、岩田英樹、原幸一、仁科希史雄、樽沼洋治、花岡洋一、赤穂好児、高木大輔、唐沢幸人、松瀬泰紀、塩入孝一、松沢孝明、上沼直樹、高田昌幸、竹内敏高、長澤義晶

#### <藤枝フットボールクラブO-50> 監督:増田勝紀

木野圭輔、渡辺隆之、鷲見勇一、佐藤明則、岩崎智彦、池谷聡、松尾昌則、佐藤幸樹、鈴木貴久、遠又光好、原田大治郎、疋田幹佳、大久保貴広、増田勝紀、森継太、飯塚俊博、杉村友好、岡村敏明、蒔田大、大石浩典、杉山秀徳、薫科友大、本林徹司、重富充、大塚武志

#### <LEYENDA> 監督:山口幸司

奥野茂樹、田中彰、小西順平、矢田義二、岩本幸一郎、藤原敬二、谷口友城、川野浩二、杉山太郎、須藤久介、丹阪久司、久保井秀昭、中筋敦生、内田哲兵、磯貝謙志、新田省吾、西條公基、尾崎智久、木下弘志、中原田仁、岩本有理、中井康司、松本圭典、田辺和弥、伊藤晋

#### <広島四十雀サッカークラブ> 監督:武永朝海

有田祐司、鈴木倫太郎、河野清司、西尾尚士、青野健、國司晃、武永朝海、佐藤宏和、衣笠健、川本信也、中川裕文、坪井洋次、丸尾倫寛、佐々木慎二、中島嘉一、野田大作、井上正男、瀬田田修、邊志遠、梶岡信由、段原直樹、横山和典、野上貞幸、白川貴之、松浦章浩

#### <キッカーズ1970> 監督:中西博之

小林正美、淵上正和、湯原慎介、廣澤秀晃、宮谷卓志、田中努、日笠浩浩、福田秋広、瀬島和範、黒多和也、岸本貞彦、柿本浩、西尾孝司、大橋俊之、児玉洋幸、田辺智祐、永田雅司、若林卓美、橋本泰明、高原宏明、平真人、山中得秀、田村登志雄、穂山健一

#### <徳島SFC> 監督:関口隆男

湯浅武夫、貝島広和、宮倉義輝、田中良朗、岡田正人、佐藤和幸、岸義典、木村一知、三木啓介、清水務、坂東克浩、天野龍、堤義治、富田晋平、関口隆男、稲井貴弘、山本忍、北田英幸、松本美徳、長村勝人、出張篤史、祖地真人、加藤享、柳田敏雄、上田昌義

#### <香川SFC> 監督:寺西昭人

古笹原大介、岡本智樹、石田宏治、山下伊知郎、喜田晃生、汐崎勝、神岡賢一、西村昭彦、泥川浩志、鈴木竜一、門屋圭三、赤石光生、雷永信之、寺西昭人、高橋秀二、田村和彦、西川剛史、青木勝哉、谷本聖一、米谷利彦、南條和彦、安本薫、かすがあきら、平賀友祐、佐々木誠

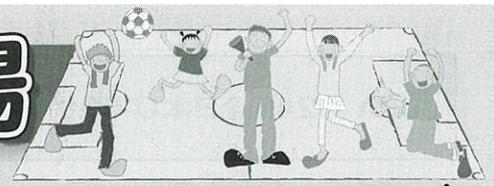
#### <OITA.over> 監督:竹村研一郎

前川大輔、竹村研一郎、三浦善博、江藤修、北尾直路、木本清志、永田徹、熊谷秀一、岩崎誠、五十嵐勇次、若杉典生、古園純一郎、香掛洋、林一夫、柴田健一、三和田勝、松下昌史、佐藤貴夫、楠原賢児、三重野宏、大野盛通、後藤康広、江口烈史、園田信治

#### <沖縄海邦クラブ> 監督:津波古昌勝

宮里秀一、仲本謙、外間亮、波平聖、田場徳人、明名康雄、喜友名朝和、比嘉暁、山城哲、赤嶺善平、平良彰吾、金城太一、井上浩次、喜納一道、平良安則、我如古直哉、大城史貴、徳山寛、仲田剛、藤林哲也、高良清和、白銀忠、大城晋、望月利晋、知念孝志

# サッカーファミリー広場



## JFAリスペクト・フェアプレーデイズ2025 8月20日(水)までU-18 子どもパブリックコメント・ ユース審判員パブリックコメントを募集!

**RESPECT**  
大切に思うこと

日本サッカー協会(JFA)は、2014年から「JFAリスペクト・フェアプレーデイズ」を設置し、9月をリスペクト・フェアプレーの強化月間として、日ごろのリスペクト・フェアプレーへの取り組みに感謝を示すとともに、関わる全ての人・ものを大切に思う精神を再確認しながら広くメッセージを伝えている。

2025年度は、3年ぶりとなるリスペクトアウォーズやユース審判員に焦点を当てたシンポジウムなどを開催する。また、子どもたちがサッカーを楽しむ権利を守るために、子どもの声を直接聞くパブリックコメント(アンケート方式)も実施する。

### ■U-18 子どもパブリックコメント・ユース審判員パブリックコメント

募集期間：2025年7月2日(水)～8月20日(水)

#### ①U-18 子どもパブリックコメント

対象：サッカーに関わっている小学5年生～高校3年生

回答はこちら <https://forms.office.com/r/sMVHexuzN7>



#### ②ユース審判員パブリックコメント

対象：ユース審判員

回答はこちら <https://forms.office.com/r/9upDAFRUs2>



### ■リスペクトアウォーズ2025

ピッチ内外を問わず、リスペクト・フェアプレー精神溢れる取り組みをしている人々やその情景にスポットを当て、それらを表彰することで、リスペクトプロジェクトのより一層の理解と普及、促進を図る。

募集期間：2025年7月2日(水)～28日(月)

そのほか「個人によるリスペクト宣言」の募集等、さまざまな企画を実施予定。

詳細はJFA公式webサイト参照。

### ●リスペクトフェアプレーデイズ

<https://www.jfa.jp/respect/>



## 新商品紹介! キャプテンアームバンド

※大人用とキッズ用をセットで計4名様にプレゼント! 詳細は72ページ参照

2024/25年のサッカー競技規則の改正により、キャプテンアームバンドの着用が義務化された。競技規則には「チームキャプテンは、関連する競技会主催者によって用意もしくは認められたアームバンド、または単色のアームバンドを着用しなければならない。それに、『captain』という単語、もしくは『C』という文字やその翻訳された単語・文字も入れることができるが、単色でなければならない(サッカー競技規則2024/25「第4条競技者の用具」より)と記載されている。これに伴い、JFAはオリジナルのキャプテンアームバンドを発売開始! JFA STOREから購入することができる。

#### 【商品詳細】

伸縮性バンドで試合中にすれにくく、簡単に着脱しやすい「キャプテンアームバンド」。先に細い方のゴムを腕に通してから、本体を上腕に巻き付けて好みの位置でとめて着用する。4色(青、白、赤、黄)で展開。



#### ■大人用

- ・商品名：キャプテンアームバンド
- ・価格：1,300円(税込)
- ・製造国：中国
- ・素材：ポリエステル、ポリウレタン
- ・サイズ：約W310×H60mm



#### ■キッズ用

- ・商品名：キャプテンアームバンド(キッズ)
- ・価格：1,200円(税込)
- ・製造国：中国
- ・素材：ポリエステル、ポリウレタン
- ・サイズ：約W230×H50mm



- 購入はJFA STORE「審判・指導者・競技者グッズ」より  
[https://official-store.jfa.jp/special/referee\\_coach/](https://official-store.jfa.jp/special/referee_coach/)



## サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)  
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会  
サッカーファミリー復興支援金口  
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

## 「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【フォーム】[https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jpDYkb8f0-0\\_dkmS71Jh3cFKGINHkNBpVZIXnRIR4VUNidQNFJDMFRORDU2NihFU0M2TkplUJFPUS4u](https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jpDYkb8f0-0_dkmS71Jh3cFKGINHkNBpVZIXnRIR4VUNidQNFJDMFRORDU2NihFU0M2TkplUJFPUS4u)

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。  
[https://www.jfa.jp/violence\\_eradication/](https://www.jfa.jp/violence_eradication/)



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

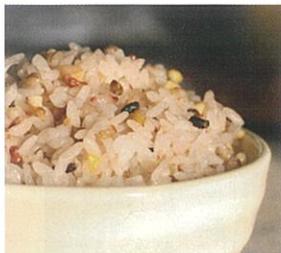
1小袋につき  
アミノ酸  
4,284  
mg



穀物の力  
スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜 鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく補成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・  
運動後のリカバリーに

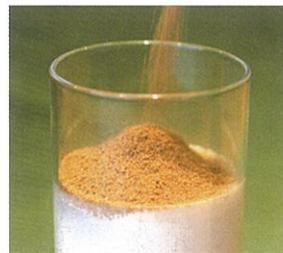
1小袋につき  
アミノ酸  
3,788  
mg



穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)			
エネルギー	384kcal	亜 鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく補成アミノ酸	18.940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは  
こちらから →



# 全グループトップの成績で アジア最終予選を終える

FIFAワールドカップ26 アジア最終予選(3次予選)は6月5日にマッチデー9、同10日にマッチデー10が行われ、約9カ月間にわたる戦いが幕を閉じた。3月にワールドカップ出場を決めたSAMURAI BLUE(日本代表)は、5日にアウェイでオーストラリア代表と、10日に市立吹田サッカースタジアムでインドネシア代表と対戦した。

※SAMURAI BLUEメンバー、公式記録は47～48ページに掲載 ※選手の所属は試合時



## SAMURAI BLUE

### 終了間際の失点で 今予選初黒星

森保一監督は5月23日、6月の2試合に向けたメンバー27人を発表した。既にワールドカップの出場権を獲得しているため、「勝利にこだわりながら、選手の成長がチームの成長になるように、選手層を厚くして今後につながる戦いをしてほしい」と話し、3月の活動から14人を入れ替えた。

ロサンゼルスオリンピック世代の18歳・佐藤龍之介(岡山)のほか、平河悠(プリストル)、熊坂光希(柏)ら24歳以下の7選手が初選出された。また、町田浩樹(ユニオン・サンジロワーズ)、佐野海舟(マインツ)ら7選手が代表復帰となった。

チームは6月1日にオーストラリアに到着し、翌日から3日間トレーニングを行った後、オーストラリアとの一戦を迎えた。

日本は、国際Aマッチ初出場の平河、関根大輝(スタッド・ランス)、俵積田晃太(FC東京)の3選手を含め11人のうち9人が最終予選初先発。序盤から圧倒的にボールを支配し、両サイドの平河や俵積田が積極的に仕掛けていく。一方、試合前の時点でグループ2位につけるオーストラリアは、勝ち点3差で3位のサウジアラビアと最終節で直接対決を控えていることから、まずは日本に負けない戦い方を選択して守備を固めた。

試合は、昨年10月の埼玉スタジアム2002での一戦同様、日本が攻め、オーストラリアが守る展開となった。28分、町田のパスを受けた鈴木唯人(ブレンビー)がドリブルで持ち上がったそのままシュート。37分には平河がミドルシュートを、43分には鎌田大地(クリスタル・パレス)がペナルティーエリア内で相手選手をかわしてシュートを放つが、いずれもゴールの枠を捉えることはできなかった。

スコアレスのまま後半に入ると、日本は64分に久保建英(ソシエダド)と中村敬斗(ス



日本はボールを保持して優位に試合を進めながらも最後までオーストラリアの守備を崩すことができなかった

タッド・ランス)を投入して攻撃のギアを上げる。80分、左サイドから攻め込むと、久保がペナルティーエリア手前でボールを受け、シュートフェイントで相手選手をかわして右足で狙う。しかし、シュートはわずかにゴール右へ外れた。

均衡が崩れたのは90分だった。日本は自陣でのパスミスから相手にチャンスを与えてしまうと、ライリー・マッグリーの突破から最後はアジズ・ベヒッチに決められてしまった。

これが決勝点となり、日本は今予選で初の黒星。オーストラリアに敗れたのは、2009年に行われた南アフリカ大会のアジア最終予選以来となる。



## 6-0の快勝で 今予選を締めくくる

サムライブルーはオーストラリア戦の翌日に帰国。6日に町田、7日に渡辺剛(ヘント)、9日に熊坂がそれぞれがためチームを離脱したが追加招集はせず、10日の最終節に臨んだ。前節から先発メンバー9人を交代。三戸舜介(スバル・ロッテルダム)と鈴木淳之介(湘南)が国際Aマッチ初出場となった。

日本は序盤から試合をコントロールし、鎌田と久保を中心に多彩

な攻撃を展開してインドネシアに揺さぶりをかけていく。

大量得点の口火を切ったのは鎌田だった。15分、三戸のクロスが鎌田がヘディングで決めた。その4分後には、CKの流れから久保がペナルティーエリア内に進入し、巧みなシュートで追加点。前半アディショナルタイムには、ペナルティーエリア手前で久保のパスを受けた鎌田がドリブルで相手選手2人かわし、GKの動きを見極めた浮き球のシュートでゴールネットを揺らした。

インドネシア戦でキャプテンを務めた久保。3得点に絡むなど攻守に活躍し、「同世代のリーダーとして期待している」という森保監督の抜擢に応えた



日本は後半に入っても攻撃の手を緩めない。55分、町野修斗(ホルシュタイン・キール)のクロスで森下龍矢(レギア・ワルシャワ)がボレーで合わせて国際Aマッチ初得点を挙げると、その3分後には久保のパスを町野がワンタッチでゴールに流し込んだ。リードを広げた日本は、61分に佐野航大(NEC)を投入。兄の海舟と共に国際Aマッチのピッチに立った。兄弟の同時出場は、2006年8月に行われたAFCアジアカップ2007予選の佐藤勇人・寿人以来、約19年ぶりだ。69分には国際A

マッチ初出場となる佐藤をピッチに送る。18歳237日でのアジア最終予選出場は、香川真司の19歳212日を上回る日本代表史上最年少記録となった。

日本はその後選手を交代しながら追加点を狙っていく。80分、途中出場の俵積田の仕掛けから最後は同じく途中出場の細谷真大(柏)が決めて6-0とした。

日本は16本のシュートを放ち、相手のシュートをゼロに抑えて3試合ぶりの勝利を挙げた。最終予選は10試合で7勝2分け1敗。全グループ最多の30得点を挙げ、失点は最少の3に抑えた。

8大会連続8度目の出場となるワールドカップは、来年6月11日に開幕する。

この2試合で多くの選手が厳しいアジアの戦いを経験。世界大会まであと1年、さらなる成長が期待される(写真は鈴木淳)



### 森保一監督 試合後コメント(要約)

#### オーストラリア戦後

非常に悔しい。今日は代表経験の浅い選手が多くプレーした。彼らは練習からギラギラとしていて、自分の良さを最大限に発揮し、勝利のために、そしてチームとして日本らしく戦うために最高の準備をしてくれたので、結果が伴わず残念に思う。SAMURAI BLUEは勝利のために戦わなくてはならない。最終予選での無敗を継続したかったが、時間を戻すことはできないので、最終節をホームで勝って締めくくられるように最善の準備をしたい。

2025年6月5日 19:10	
ハース(オーストラリア) / ハーススタジアム	
日本	0-1 オーストラリア
0-0	90' アジズ・ベヒッチ
0-1	

GK	DF	MF	FW
23 谷晃生	2 関根大輝	7 藤田譲瑠チマ	9 大橋祐紀
	4 渡辺剛	8 鈴木唯人	→ 69' 18 町野修斗
	→ 69' 3 高井幸大	11 平河悠	
	16 町田浩樹	15 鎌田大地	
	→ HT 22 瀬古歩夢	20 俵積田晃太	
MF	5 佐野海舟	→ 64' 13 中村敬斗	
	→ 64' 10 久保建英		

#### インドネシア戦後

初招集した選手や代表復帰した選手のレベルアップやチーム戦術の理解のために取り組んだ中で、選手たちがそれぞれ自分の良さを出してくれた。これまで中心としてやってきた選手たちとの差はまだあるが、今後、ポジション争いに食い込んでくることを期待している。チームとしては、まだ世界の強豪に確実に勝てる戦いはできていない。しかし、厳しい環境の中でもアジアでは確実に勝つという部分で成果は出ており、チームづくりは確実に進んでいる。本大会開幕まであと1年、一つ一つの活動を無駄にせず、着実に力をつけていきたい。

2025年6月10日 19:35	
大阪 / 市立吹田サッカースタジアム	
日本	6-0 インドネシア
3-0	3-0

GK	DF	MF	FW
12 大迫敬介	14 三戸舜介	14 三戸舜介	→ 61' 16 佐野航大
→ 61' 19 高井幸大	→ HT 13 鎌田大地	→ HT 13 中村敬斗	→ 69' 16 細谷真大
4 鈴木淳之介	15 鎌田大地	17 森下龍也	
22 瀬古歩夢	→ HT 13 中村敬斗	→ 69' 16 細谷真大	
MF	5 佐野海舟	17 森下龍也	
6 遠藤航	→ HT 22 瀬古歩夢	18 町野修斗	
10 久保建英	→ 69' 10 久保建英	→ 78' 20 俵積田晃太	
→ 69' 10 佐藤龍之介			



# NADESHIKO JAPAN

## なでしこジャパン、ブラジル女子代表と対戦 課題も収穫も多い2連戦に

### 第1戦は前半に2失点 チャンスを生かせず敗戦

ブラジル女子代表は、2024年のパリオリンピックで準優勝した強豪だ。3月6日付のFIFAランキングでは8位(日本は5位)につけている。また、ブラジルは2027年のFIFA女子ワールドカップ開催国でもあり、今回のブラジル遠征は2年後に向けた貴重な強化の場となった。

日本サッカー協会(JFA)は5月20日、なでしこジャパンのメンバー23名を発表した。ニルス・ニールセン監督は、海外クラブに所属する18人、WEリーグクラブに所属する5人を招集。昨季のWEリーグでMVPを受賞した山本柚月(日テレ・東京ベレーザ)が初招集となった。

ニールセン監督は、キャプテンに長谷川唯(マンチェスター・シティ)、副キャプテンに南萌華(ASROM)、そのサポート役として熊谷紗希(ロンドン・シティ・ライオンズ)と田中美南(ユタ・ロイヤルズ)を指名。しかし、長谷川がコンディ

ション不良で不参加となり、代わって三浦成美(ワシントン・スピリット)が招集された。

チームは5月27日から現地でのトレーニングを開始し、5月30日に第1戦を迎えた。3万3000人の地元サポーターが会場に詰めかけ、日本は4-3-3の布陣で試合に臨む。GK山下杏也加(マンチェスター・シティ)、最終ラインに古賀塔子(フェイエノールト)と熊谷、北川ひかる(BKヘッケン)、中盤はアンカーに長野風花(リバプールFC)、両サイドに宮澤ひなた(マンチェスター・ユナイテッド)と谷川萌花子(バイエルン・ミュンヘン)、3トップに藤野あおば(マンチェスター・シティ)、田中、浜野まいか(チェルシー)を配置。南がキャプテンマークを巻いた。

日本は序盤から積極的な姿勢を見せる。11分、藤野のスルーパスから田中がシュートを決めるが、VARの介入で直前のファウルが取られ、ゴールは無効となる。15分には逆にVARによってブラジルにPKを献上したがシュートは枠を外れ、ピンチを逃れた。

27分、日本は自陣でのビルドアップの場面でボールを奪われ、そのま



2失点目はGK山下が一度ははじいたが、Dudinha(背番号24)に押し込まれた。「ブラジルのアグレッシブなランニング」(ニールセン監督)に対し、攻守に課題が出る試合に

まゴール前に運ばれて先制点を許すと、41分にはブラジルのスピードある攻撃から再びDudinhaに追加点を奪われ、2点ビハインドで前半を折り返す。後半、日本はテンポの良い攻撃を展開し、藤野のミドルシュートを放つなど反撃の兆しを見せたが、55分、ブラジルのカウンターを受けるとKeorisoをゴール前でフリーにしてしまい、3失点。65分には北川がハンドを誘発してPKのチャンスを得たが、長野のシュートはGKに止められてしまった。日本は68分に榎木結花(レスター・シティ)と松窪真心(ノースカロライナ・カレッジ)を投入して攻勢を強めるが、その後、ブラジルはレジェンドのMartaを投入。スタジアムは割れんばかりの歓声に包まれた。

なでしこジャパン(日本女子代表)はブラジル遠征を行い、5月30日と6月2日(現地時間)にブラジル女子代表と国際親善試合を戦った。 ※なでしこジャパンメンバーおよび公式記録は52ページに掲載。所属は試合時

76分に清家貴子(ブライトン)と初招集の山本がピッチに立つと、終盤にようやく得点が生まれる。88分、日本は相手陣内でボールを奪い、初木の縦パスを受けた清家が冷静にGKの股を抜くシュートを沈めた。89分には杉田妃和(ポルトランド・ソーンズFC)、千葉玲海菜(アイントラハト・フランクフルト)を送り込むも追撃は及ばず、1-3で敗れた。

試合後、ニールセン監督は「相手のプレッシャーに対してパスのテンポが遅く、ロングボールが多くなってしまった。次戦に向けてファーストタッチや判断の速さを改善したい」と課題を挙げた。

## 修正を図った第2戦 先制するも抑え切れず

中2日で迎えた6月2日の第2戦、日本は第1戦から先発メンバー6人を入れ替えた。センターバックに石川璃音、右サイドバックには高橋はな(共に浦和)が、中盤は三浦と初木、松窪、前線には清家が入った。キャプテンマークは田中が引き継いだ。

日本は立ち上がりから切り替えの速さとコンパクトな守備でブラジルに主導権を渡さず、8分には藤野がミドルシュートで狙うなど積極的な姿勢を見せる。28分には

初木、田中との連係から最後は松窪がポスト直撃のシュートを放つ惜しい場面

も。29分には初木のスルーパスから、31分にはロングボールから、清家がスピードを生かした攻撃で決定的



前半のシュートはポストを直撃、その後も2列目から飛び出してチャンスをつくった松窪。果敢にゴールを目指した

なチャンスもつくったが得点はならず。

後半、左サイドバックに千葉を投入するとこの采配が開始早々に奏功する。46分、千葉、藤野、初木が左サイドで連係してブラジルの守備を揺さぶり、藤野が松窪とのワン

ツーでスペースへ抜けて右アウトサイドでゴール前へ、これを清家が流し込んで先制に成功した。ところが54分、ブラジルのCKから流れたボールが石川に当たってゴールに吸い込まれ、不運なオウンゴールで同点に。これで勢いを増したブラジルが攻勢を強めるが、日本も59分にチャンスをつくる。藤野がドリブルで相手をかかわして中央を駆け上がり、右へパスを送る。これを受けた清家が狙ったシュートはまたもポストに嫌われた。日本は63分に浜野、杉田、植木理子(ウェストハム・ユナイテッド)を一挙に投入して攻撃のギアを上げる。69分には古賀が前線に走り込んだ松窪へロングパスを送るがこれはGKに阻まれた。

スコアが動いたのは78分。日本がCKのチャンスを得たがクリアされ、そのまま相手のカウンターを受けるスピードのある攻撃を止められず、勝ち越しゴールを決め

られてしまう。82分に山本と宮澤をピッチに送ったが、最後まで追いつくことはできなかった。

ニールセン監督は結果を受け止めながらも、「1戦目よりも準備が整い、自分たちから仕掛けて勇敢に戦うことができた。このようなパフォーマンスを続けられれば、(次は)ブラジルを倒せると思う。主要大会に向けて着実に準備が進んでいる」と手応えを口にした。

ブラジル遠征で2連敗を喫したなでしこジャパンだが、2試合を通して内容面で大きく修正を図るなど、課題とともに収穫も得た。6月27日には、FIFAランキング2位のスペイン女子代表との国際親善試合も控える(62ページ掲載)。強豪国との対戦で経験を積み、なでしこジャパンは成長の歩みを進めていく。



初招集の山本は76分に交代出場し、国際Aマッチデビュー。古賀がセンターバックに入り、山本は右サイドバックでプレーした

■第1戦 2025年5月30日 21:30(現地時間)  
サンパウロ(ブラジル) / Neo Química Arena

日本 1-3 ブラジル

88' 清家貴子 0-2 27', 41' Dudinha 55' Kerolin 1-1

GK ① 山下杏也加 MF ⑩ 長野風花  
DF ③ 南萌華 → 68' ⑩ 初木結花  
④ 熊谷紗希 → 76' ② 山本柚月  
⑥ 古賀塔子 → 76' ⑧ 清家貴子  
⑧ 北川ひかる → 89' ② 千葉玲海菜  
MF ⑦ 宮澤ひなた → 89' ⑧ 杉田妃和  
FW ⑪ 田中美南

■第2戦 2025年6月2日 20:00(現地時間)  
サンパウロ(ブラジル) / Cícero de Souza Marques Stadium

日本 1-2 ブラジル

46' 清家貴子 0-0 54' オウンゴール 78' Johnson 1-2

GK ① 山下杏也加 MF ⑭ 三浦成美  
DF ⑤ 高橋はな → 82' ② 山本柚月  
⑥ 古賀塔子 → 63' ⑩ 初木結花  
⑧ 北川ひかる → 46' ② 千葉玲海菜  
⑪ 石川璃音 → 63' ⑩ 杉田妃和  
MF ⑧ 清家貴子 → 82' ⑦ 宮澤ひなた  
FW ⑫ 植木理子



前半にスピードを生かしてチャンスをつくっていた清家(背番号8)が後半に待望の先制点。得点を喜び合う選手たち



# NADESHIKO JAPAN

## なでしこジャパン、 スペイン女子代表に逆転負け

国際親善試合  
2025年6月27日 21:00 (現地時間)  
マドリード(スペイン) / Butarque Stadium

日本 **1-3** スペイン

30' 田中美南 **1-1** 43' CLAUDIA PINA MEDINA  
**0-2** 66' VICKY LÓPEZ SERRANO FÉLIX  
87' ATHENA DEL CASTILLO BEVIDE

GK ① 山下杏也加	MF ⑮ 藤野あおば → 46' ⑮ 杉田妃和
DF ④ 熊谷紗希 → 63' ③ 南萌華	MF ⑯ 三浦成美 → 46' ⑯ 長野風花
⑤ 守屋都弥	MF ⑰ 浜野まいか → 63' ⑰ 粗木結花
⑥ 古賀塔子	FW ⑪ 田中美南
⑬ 北川ひかる → 19' ② 宝田沙織	FW ⑫ 松窪真心
MF ⑦ 宮澤ひなた → 63' ⑦ 谷川萌々子	

※なでしこジャパンメンバーおよび公式記録は  
52~53ページに掲載/所属は試合時

日本は4-3-3の布陣を採用。GKは山下杏也加(マンチェスター・シティ)、4バックは守屋

田中(マンチェスター・シティ)、4バックは守屋

指揮を執るニルス・ニールセン監督は、シーズン中のアメリカでプレーする選手を中心に、欧州組を含む18名を招集。「ボールをキープする時と攻める時の判断が重要」と、組織的な戦い方を徹底する姿勢を示した。

なでしこジャパンにとって貴重な一戦となった。

なでしこジャパン(日本女子代表)は6月27日、スペイン・マドリードでFIFAランキング2位(3月6日付、日本は5位)のスペイン女子代表と国際親善試合を行った。前回のFIFA女子ワールドカップを制したスペインは、7月に開幕するUEFA欧州女子選手権でも優勝候補筆頭で、主要大会を控えている

なでしこジャパンにとって貴重な一戦となった。



前半、「狙い通りの守備から得点につながった」という田中が先制ゴールを挙げる。その後も攻撃の形はつくったがスペインの守備を崩し切ることはできなかった

都弥(エンジェル・シティFC)、熊谷紗希(ロンドン・シティ・ライオネス)、古賀塔子(フェイエノールト)、北川ひかる(BKヘッケン)が、中盤はアンカーに三浦成美(ワシントン・スピリット)、インサイドハーフに宮澤ひなた(マンチェスター・ユナイテッド)と松窪真心(ノースカロライナ・カレッジ)、前線には藤野あおば(マンチェスター・シティ)、田中美南(ユタ・ロイヤルズ)、浜野まいか(チエルシー)が並び、熊谷がキープテンを務めた。

日本は、スペインにボールを支配されるが、ゾーンディフェンスで粘

り強く対応する。9分には田中のパスから浜野が右サイドを突破し、松窪がゴール前で合わせる決定機をつくった。19分に北川が負傷交代し、宝田沙織(C大阪)がセンターバック、古賀が左サイドに入る形で対応。守備陣は冷静さを保って集中を切らさない。そして30分、日本は田中が高い位置でパスを奪い、右サイドに展開。浜野の折り返しを田中が反転して左足シュートからゴールネットを揺らした。ところ

が前半終了間際にスペインにワンタッチの連係プレーから左サイドを崩されて同点とされる。

後半、杉田妃和(ポトランド・ソーンズFC)と長野風花(リバプールFC)を投入して中盤の再構築を図ったが、スペインも3人同時交代でギアを上げる。50分には相手の際どいシュートが日本ゴールを脅かす。63分に谷川萌々子(バイエルン・ミュンヘン)、粗木結花(レスタール・シティ)、南萌華(ASローマ)を投入するが流れは変わらず、66分にはビルドアップでのパスミスから勝ち越しを許してしまう。73分には初

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。



世界王者スペインに対し、粘り強い守備で対応。しかし、ミスなどから痛い失点を浴びた

木、杉田との連係から田中がシュートを放ったが相手GKの好守に阻まれた。スペインは終盤に入ってもテンポを緩めず、87分には駄目押しで3点目をゴール左上に突き刺して1-3。日本は逆転負けを喫した。

試合後、ニールセン監督は「選手たちはプランに従って全力を尽くした。ただ、ミスをすれば世界王者には足をすくわれる。(来年の)AFC女子アジアカップまでに修正が必要だ」と語った。結果は敗戦となったが、ハイレベルな相手との一戦を通じて得た経験を糧に、チームの完成

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。

度を高めていく。



U-16 インターナショナルドリームカップ2025 JAPANが6月4日から8日に福島県のJヴィレッジスタジアムで行われた。

2015年に創設され、今年で8回目となる今大会には、開催国の日本とコロンビア、コートジボワール、フランスのU-16代表チームが参加し、4チーム総当たりでタイトルを争った。

U-16日本代表の小野信義監督は今大会を「2月のポルトガル遠征、4月のフランス遠征を踏まえ、内容と結果をつなげることを目指す場所」と位置づけ、強豪国との真剣勝負に挑んだ。

4日に行われたコロンビアとの初戦は、序盤こそフィジカルで勝る相手に苦戦したが、前半の途中からは主導権を握り、56分に里見汰福（神戸U-18）が先制点を挙げる。交代枠を使い切った後に中島瑠久（東京U-18）が負傷し、数的不利で戦う時間もあったが、全員でリードを守り、1-0で勝利を収めた。

第2戦のコートジボワールもフィジカルに長けたチームだったが、「前線に運ばれないよう、相手陣内でボールを奪う守備を心掛けた」と藤本祥輝（G大阪ユース）が語ったように、相手のパワーをいなしながら試合の流れを引き寄せる。そして24分のエゼモクエチメツエ海（C大

阪U-18）のヘディング弾を皮切りで得点を重ね、相手の反撃を1点に抑えて5-1でタイムアップを迎えた。離脱した中島に代わって追加招集された三井寺真（FUORICLASSE SONDON）もPKで得点を奪い「最初は不安だったが、武器であるドリブルや得点につながるプレーは出せた」と自信を深めた。

最終戦のフランス戦は共に2勝同士、勝利した方が優勝という状況で迎えた。小野監督は「頭の中をかき乱すような攻撃を仕掛けてくる」と相手を警戒していたが、日本は序盤からゲームをコントロールすると、20分に連続攻撃から三井寺がこぼれ球

を押し込んで先制し、39分には高木瑛人（鹿島ユース）が追加点を奪った。後半は相手の猛攻を受ける時間もあつたが、最後までしどろもどろで試合終了。3連勝で大会5連覇を飾るとともに通算7度目のチャンピオンとなった。小野監督は「選手間に競争が生まれ、オフ・ザ・ピッチも含めていいグループだった」とチームを評した。大会MVPには日本の高木が、得点王にはフランスのマティス・トニー・ルーが輝いた。

また、大会期間中には文化交流プログラムが実施され、各国の選手たちによる小学校訪問や書道体験で親睦を深めた。

追加招集ながらも限られた出場機会で見せた三井寺（写真左）



## 日本の試合結果

- 第1戦 **日本** 1-0 (0-0) コロンビア  
得点者：里見汰福
- 第2戦 **日本** 5-1 (4-0) コートジボワール  
得点者：エゼモクエチメツエ海、オウンゴール、三井寺真、野田歩、橋本凜来
- 第3戦 **日本** 2-0 (2-0) フランス  
得点者：三井寺真、高木瑛人

※U-16日本代表メンバーおよび公式記録などは51ページに掲載

# メットライフ生命Fリーグ2025-26

## 開幕

Fリーグの2025-26シーズンが幕を開けた。  
ディビジョン1、ディビジョン2の頂点に輝くのはそれぞれのチームか。



**王者奪還を目指す名古屋  
激しい優勝争いが始まる**

2025-2026シーズンからメットライフ生命がFリーグのタイトルパートナーとなり、「メットライフ生命Fリーグ」として開催される。同パートナー契約は2030年3月までの5年間。リーグのより一層の盛り上がりとフットサル観戦がよりポピュラーになっていくことが期待される。リーグの公式動画配信サービス「FリーグTV」の登録者数が急増したことも好材料一つだ。男子のFリーグに加えて女子Fリーグを2025-2026シーズンから放映することも決まり、1節あたり1試合の無料配信も新たに始まる。日本トップレベルのフットサルを多くの人に届けられる環境が整った。

競技面では、これまで名古屋オーシャンズが16度の優勝という実績を持つ。一方、シユライカー大阪が2016-17シーズンに名古屋の牙城を崩し、昨シーズンはバルドラール浦安が初の栄冠を獲得した。

2023-24シーズンでは、ファイナルステージの最終節までヘスカドーラ町田が首位を独走。競争力が上がり、名古屋一強時代から群雄割拠の時代の到来を予感させる状況になっている。

シーズン開幕に向けて、最も大きな動きを見せたのは名古屋だ。昨季は優勝を逃す結果となってイマノル・アレグイ・サラサ監督が退き、後任に木暮賢一郎氏が就任した。大阪の監督としてFリーグ制覇も経験している木暮監督は、2021年から24年までフットサル日本代表監督を務め、22年

昨シーズン優勝を逃した名古屋オーシャンズ。開幕戦ではボアルース長野に勝利して白星スタートを切った



## メットライフ生命Fリーグ2025-26 大会概要



### <ディビジョン1>

開催期間:

2025年5月31日(土)~2026年3月1日(日)

大会方式:

レギュラーシーズン(2025年5月31日(土)  
~2025年12月29日(月))

12チームによるホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦

ファイナルシーズン(2026年2月14日(土)  
~2026年3月1日(日))

レギュラーシーズンの上位6チーム、下位6チームの2グループによる1回戦総当たりのリーグ戦

#### ■参加チーム(12チーム)

- ・バルドラル浦安
- ・フウガドルすみだ
- ・しながわシティ
- ・立川アスレティックFC
- ・ベスカドーラ町田
- ・Y.S.C.C.横浜
- ・湘南ベルマーレ
- ・ポアルス長野
- ・名古屋オーシャンズ
- ・シュライカー大阪
- ・ボルクバレット北九州
- ・バサジ大分

### <ディビジョン2>

開催期間:

2025年6月14日(土)~2025年12月27日(土)

大会方式:

9チームのホーム&アウェイによる、2回戦総当たりリーグ戦

#### ■参加チーム(9チーム)

- ・エスポラーダ北海道
- ・ヴォスクオーレ仙台
- ・マルバ水戸FC
- ・リガーレヴィア葛飾
- ・ヴィンセドール白山
- ・アグレミーナ浜松
- ・デウソン神戸
- ・ボルセイド浜田
- ・ミラクルスマイル新居浜

#### ●F1クラブ・F2クラブの入れ替えについて

F1年間順位最下位のチームがF2に自動降格し、F2における年間順位最上位のチームはF1に自動昇格する。



しながわシティは第3節でベスカドーラ町田に4-3と競り勝ち、開幕3戦で2勝1敗とした

にはフットサル日本代表をアジア制覇に導いている。しかし、24年のAFCフットサルアジアカップでは史上初のグループプレーで敗退という悔しさを味わった。本意な結果だったが、今季は名古屋で復権を目指す。

そのための戦力もそろった。昨季優勝の浦安からチームの支柱だった石田健太郎を補強。しながわシティからも主力の堤優太、フウガドルすみだからもFリーグディビジョン1(F1)最年少出場記録を持つ羽生恒平、スペインのエントレリオス・サラゴサに所属していた中島圭太のほか、木暮監督がフットサル日本代表監督およびフットサルU-23日本代表時代に指導した選手らを獲得した。さらに木暮監督の志向する流動性の高いフットサルにフィットするブラジル人のガブリエル・

#### 初優勝を狙うしながわ浦安、町田にも注目

グルジェル、アルゼンチン代表の主力であるルーカス・トリポディを加え、タイトル奪還に向けて戦力をそろえた。名古屋が国内クラブからこれだけ多くの選手を集めたことは過去になく、歯車が合えば圧倒的な強さを見せる可能性もある。

名古屋のほかに補強を図ったのが、今年2月にJFA第30回全日本フットサル選手権大会で日本一を飾ったしながわだ。昨シーズンほどの補強ではないが、それでも立川アスレティックFCから主力の中村充、バサジ大分から高溝黎磨を獲得して選手層を厚くした。比嘉リカルド監督が標榜する戦い方が浸透してきたこ

#### 優勝候補筆頭の仙台 北海道も2年ぶりの昇格へ

ともあり、第3節に行われた名古屋との直接対決でも勝利を挙げている。名古屋と対等に渡り合える力があることを示しただけに、取りこぼしをなくすることができれば悲願のリーグ初優勝も見えてくるだろう。

昨季王者の浦安、町田、湘南ベルマーレ、フウガドルすみだなども、アカデミーの選手を育成しながらチームの底上げを図っている。12人の新加入選手を迎えたバサジ大分は、U-20日本女子代表の狩野倫久監督の実弟である狩野新監督が、どのようなチームに仕上げてくるのかが楽しみところだ。

Fリーグディビジョン2(F

2)では、F1から1年で降格してしまったものの、主力が残留したヴォスクオーレ仙台がF2をけん引しそうだ。エスポラーダ北海道は、F2最優秀選手賞を受賞した室田祐希を中心とする攻撃力が持ち味だ。木村悠太がF1のY.S.C.C.横浜に移籍し、三浦優が現役を引退した中で守備を強化できるかが、2年ぶりの昇格のポイントになる。23歳という若さで指揮官に就いた平山将望監督の手腕にも注目だ。



F1復帰を目指すヴォスクオーレ仙台は接戦をものにして開幕2連勝を飾った

©voscuore sendai

# メットライフ生命 日本女子フットサルリーグ 開幕 2025-26

今シーズンからタイトルパートナーがつき、「メットライフ生命日本女子フットサルリーグ」として開催される日本女子フットサルリーグ（女子Fリーグ）。新たな盛り上がり期待される。

5月には中国のフフホトで開催されたAFC女子フットサルアジアカップでフットサル日本女子代表が優勝し、同時に11月に初開催されるFIFAフットサル女子ワールドカップの出場権を獲得。リーグ開幕前に明るい話題が続いた。

大会方式は従来通り、11チームがセントラル方式での総当たりリーグ戦（レギュラーシーズン）を戦った後、上位6チームと下位5チームに分かれて総当たりリーグ戦（ファイナルシーズン）を実施。全160試合が行われる。また、今季も全試合がサ



昨シーズン王者のSWHレディース西宮は安定した強さを見せ、ミネルバ宇部との開幕戦を10-0と快勝した



リーグ初年度から切磋琢磨してきた福井丸岡ラックとアルコ神戸の対決は神戸に軍配が上がった

ブスク型のFリーグTVでライブ配信される。

開幕節の第1試合は、昨季、初優勝を飾ったSWHレディース西宮が登場し、ミネルバ宇部と対戦した。宇部は、八大学院との連携協定で今季から高校生中心のチームとなった。西宮は宇部に対して大胆なフォーメーションで臨む。すると、アジア

カップMVPの追野沙羅が先制点を奪って実力を発揮。順当に得点を重ね、10-0と勝ち点3を手にした。

2試合目は流経大メニナ龍ヶ崎と立川アスレティックFCLレディースが激突した。大量補強をして初優勝を狙う立川は新加入選手と既存の選手が融合。3人がハットトリックを達成するなどして、22-0で大勝した。

山岸輝久新監督率いるアニージャ湘南と、小倉一幸監督体制5年目を

迎えて熟成を図るさいたまサイコロの3試合目は、湘南が先制点を奪ってさいたまが追い付く展開に。試合は湘南がボールポゼッションで勝るものの、さいたまが堅い守備で対抗し、1-1で引き分けた。

2日目は、2年目の田辺陸監督の下で飛躍を誓うエスポラーダ北海道イルネーヴェと、王座奪還を狙うバルドラール浦安アス・ポニータスの試合でスタート。立ち上がりには得点を奪った浦安だったが、その後、北海道のハードワークに苦戦。それでも順当に得点を重ね、7-2で白星スタートを切った。

最終戦は福井丸岡ラックとアルコ神戸が相まみえた。両チーム共にリーグ初年度から参戦しており、公式戦で幾度となく戦ってきた。この試合では、福井丸岡が先制点を奪うが、神戸は慌てることなく主導権を取り返し、第2ピリオドに勝ち越して3-1と勝利した。

昨季は途中で選手の海外移籍がありながらも、リーグの台風の目となったフウガドルすみだレディースは、昨季のベースはそのまますごいパフォーマンスを目指す。

フットサル女子ワールドカップイヤーの今年、メットライフ生命女子Fリーグの白熱した試合から目が離せない。

## ■参加チーム（11チーム）

- ・エスポラーダ北海道イルネーヴェ
- ・流経大メニナ龍ヶ崎
- ・さいたまサイコロ
- ・バルドラール浦安アス・ポニータス
- ・フウガドルすみだレディース
- ・立川アスレティックFCLレディース
- ・アニージャ湘南
- ・福井丸岡ラック
- ・SWHレディース西宮
- ・アルコ神戸
- ・ミネルバ宇部

## ■大会の詳細と

最新情報はこちら

<https://w-fleague.jp/>



## JFA 第24回全日本O-50サッカー大会



### 【大会概要】

6月21日から23日、沖縄県国頭郡で開催。各地域から選出された16チームが4グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を行い、各グループ1位チームが決勝ラウンドに進出。4チームによるノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は50分(前・後半25分)、自由交代。決勝ラウンドは勝敗が決しない場合、PK戦で勝者を決定する。



## Lien Chibaが初出場で初優勝の快挙!

グループAは、連覇を狙うT・ドリームス50(関東2/東京)と前回ベスト4のLEYENDA(関西/奈良)が初戦で顔を合わせ、LEYENDAがT・ドリームスに1-0で勝利した。黒星発進となったT・ドリームスだが、次節でFCKアンフィニ(北海道1)に勝利し、最終節では地元の沖縄海邦クラブ(開催地)に勝ち越してグループ突破の可能性を残す。しかし、首位を争うLEYENDAも勝ち点を重ね、最終節はFCKアンフィニに引き分けて勝ち点1差でT・ドリームスをかわした。

最終節を前に3チームが勝ち点1差、得失点1差でひしめくグループBでは、横浜シニア50(関東1/神奈川)が3位から逆転突破。このグループは昨年に続いて、横浜シニア、徳島SFC(四国1/徳島)、キッカーズ1970(中国2/鳥取)が同居していた。横浜シニアと初戦で引き分けた徳島SFCと昨年の未勝利から2勝を挙げる飛躍を見せたキッカーズが混戦を生み出したが、横浜シニアが2年連続で勝ち抜けた。

グループCは初戦の2試合が引き分け。最終節ではクマガヤサッカースポーツクラブシニアO-50(関東4/埼玉)とOITA, over(九州/大分)が突破を懸けて対決し、クマガヤが4強入り。グループDは最終節で全勝同士が直接対決。Lien Chiba(関

東3/千葉)が藤枝フットボールクラブO-50(東海/静岡)を3-0で下し、初出場にして準決勝に進んだ。

準決勝は、2試合とも開始3分でゴールが生まれ、激戦となった。8分までに1点ずつ取り合ったLienとクマガヤの対戦は、1-1のままPK戦も見えてきたが、ラストプレーでLienがゴールをこじ開け、勝利した。横浜シニアは1点を守り切り、LEYENDAを退けた。

Lienと横浜シニアの決勝は、慎重な出だしとなった。その後、互いに球際で激しく戦い、個人の力で打開を図る。互いに惜しい場面をつくったが、その後は拮抗したままPK戦に突入。PK戦でも両チームともGKが何度もボールに触れながらも、強く正確なキックがゴールネットを揺らし続ける。だが、9人目に横浜シニアのキックがポストをたたき、全員が決めたLienが初優勝を飾った。渡辺悟主将は「50歳になって初の日本一になれるとは感無量。サッカーを続けていて良かった」と満面の笑みで語った。



Lien Chibaと横浜シニア50の決勝は両者譲らずPK戦へもつれ込んだ



2年連続で決勝ラウンドへ進んだ横浜シニア50。決勝では惜しくもPK戦で涙ののんだ



クマガヤサッカースポーツクラブシニアO-50(右)は2勝1分けて決勝ラウンド進出。準決勝でも粘りのある戦いを見せた



前回王者のT・ドリームス50(右)は2勝するも勝ち点差1でグループステージ敗退となった

# 海堀あゆみ WEリーグ理事 インタビュー

## 憧れの場所、憧れの存在で

### あり続けるために



2025 / 26 SOMPO WEリーグが8月9日・10日に開幕する。2021年9月に日本初の女子プロサッカーリーグとして幕を開けたWEリーグは、5年目のシーズンを迎えようとしている。初年度からWEリーグコミュニティオーガナイザーとして多方面で尽力し、2024年9月にWEリーグ理事に就任した海堀あゆみさんに、WEリーグの4年間の歩みと2025 / 26シーズンへの抱負などについて聞いた。

夢をかなえられる舞台をみんなでつくっていく

— WEリーグは4シーズン目を終えました。どのような4年間だったと思われますか。

海堀 コロナ禍にリーグがスタートしたこともあり、ようやくここまで来ることができた、という4年間だった気がします。この4年があったからこそ、いろいろな見えてきたものがあって、そういう意味でもWEリーグを継続してこれられて良かったと思います。日本のスポーツ界では、女子の団体競技のプロ化は初めてのことで、そこに私たちが大きな一歩を踏み出し、今も挑戦し続けられていることに大きな意義があると思っています。

— コロナ禍にあった最初の2年間は特に、やりたいことができなかったシーズンだったかもしれません。

海堀 緊急事態宣言も発令され、無観客で実施せざるを得ない試合も多くありました。女子サッカーの良さは、選手とファンの距離感が

近いところでもあるので、開幕したのになかなか交流できないこともどこかしさを感じていました。昨シーズンは、クラブや選手たちの頑張りもあって入場者数が2万人以上の試合が3試合、1万人以上が1試合、そして、リーグ戦とカップ戦を含めて年間総入場者数は33万7290人と過去最多を記録しました。リーグの盛り上がりも含めて、みんなで積み重ねてきたものが形になって、未来が見えた一年だったのかなという感覚はありますね。

— 2021年11月にWEリーグコミュニティオーガナイザーに就任され、現在は理事を務められています。活動する中で大切にされていることをお聞かせください。

海堀 WEリーグの仲間を増やすこと、そのために発信するこ



近賀ゆかり選手の引退セレモニーに駆け付けた海堀さん。「素晴らしいセレモニーだった。女子サッカーの魅力やWEリーグの可能性を大きく感じた時間だった」と話す

■【感動のセレモニーをもう一度】近賀ゆかり引退セレモニー (WEリーグ公式YouTube)  
<https://youtu.be/eOinQyxc9ps?si=8Bv3qv9uyTtxOLtU>



取材日：2025年6月25日

# 2024/25 シーズンWEリーグ入場者数データ

2024/25シーズンWEリーグ公式試合 入場者数一覧

大会名	総入場者数(人)	試合数	平均入場者数(人)
2024-25 SOMPO WEリーグ	282,221	132	2,138
2024-25 WEリーグクラシエカップ	55,069	33	1,669
計	337,290	165	2,044

全シーズン入場者数歴代トップ5

入場者数	大会	節	開催日	対戦(スタジアム)
26,605人	2024-25 SOMPO WEリーグ	第20節	2025/5/6	千葉L vs 大宮V (国立)
21,524人	2024-25 WEリーグクラシエカップ	決勝	2024/12/29	S広島R vs I神戸 (国立)
20,156人	2024-25 SOMPO WEリーグ	第13節	2025/3/8	S広島R vs 浦和 (Eピース)
12,330人	2021-22 Yogiho WEリーグ	第21節	2022/5/14	神戸 vs 浦和 (国立)
11,879人	2024-25 SOMPO WEリーグ	第20節	2025/5/4	S広島R vs N相模原 (Eピース)

◎WEリーグ入場者数歴代トップ5のうち、4試合は2024/25シーズンに達成

## WEリーグシーズンレビュー2024/25 (PDF)

[https://weleague.jp/pdf/about/24-25\\_seasonreview.pdf](https://weleague.jp/pdf/about/24-25_seasonreview.pdf)



カーに関わる人たちのエネルギーをうまく循環させて、WEリーグをより良いものにする、その先に社会や人々にも良い影響をもたらせたらと思っています。

——皆さんのエネルギーですか。

**海堀** 2011年に東日本大震災があったとき、選手としてこのままサッカーをしていいのかと本気で考えたことがあります。でも、その年にFIFA女子ワールド

ドカップ(ドイツ)があり、なでしこジャパン(日本女子代表)は初優勝しました。

——海堀さんはGKとして優勝に大きく貢献されました。

**海堀** 皆さんからは、元気や勇氣、感動をもらったと言っていたんですが、そうではなく、逆に私たちが大きなものをもらっていたんです。日本の皆さんの応援が戦う力になり、皆さんの応援が戦うもらったとおっしゃる以上に私たちがパワーをもらっているという感覚でした。あのとき、チームの選手やコーチ、スタッフ、そして日本の皆さんの全員が同じ方向を向いて、同じ気持ちになって戦っていたと思うんです。だからこそWEリーグでも、リーグ、クラブ、選手、ファン・サポーター、パートナー企業など、関わる全ての人が同じ思い、同じ熱量、同じ方向を向いて進んでいくことが不可欠だと思っています。

——WEリーグをどのようなリーグにしていきたいとお考えですか。

**海堀** 子どもたちの憧れの場所にしていきたいですね。WEリーグができる前は、女子選手がプロになりたいと思っても実現できる環境は整っていませんでしたし、選択肢も限られていました。「プロサッ

カー選手になって活躍したい」という夢が、日本で実現できる。夢の舞台が一つ増えたことは、大きな意味があります。また、選手だけでなく、指導者、トレーナー、クラブスタッフ、審判員など、仕事としてサッカーに携わる環境もできています。いろいろな人の夢をかなえたいと思います。そのためには、継続していくことが大切ですし、明るい未来のあるリーグにしていかなければなりません。

——昨シーズンで印象に残っている出来事やエピソードなどはありますか。

**海堀** たくさんあってこれというのは難しいな。でも、近賀ゆかり選手の引退セレモニーは、「WEリーグに関わっていて良かった」と思えた時間でした。

——11年の優勝メンバーも駆け付け、会場にいたファンの皆さんを含めてとても温かい雰囲気でした。

**海堀** 1万人以上が駆け付けた試合で、女子サッカーであればとても盛大な引退セレモニーは今までなかったと思います。一人の選手、一つのクラブがWEリーグで歩んできた軌跡があってこそそのセレモニーなんだろうなって。WEリーグ、女子サッカーの魅力あらた

めて感じる事ができました。本当に感謝でいっぱいです。

——競技の魅力もさらに追求し、ピッチ外でも価値を高める

——競技レベルにおいては、選手たちのプレーをどうぞご覧になつていただけますか。

**海堀** 競技レベルはみんな上がっています。本当にうまいんです。止める蹴るといったスキルやフィジカルもそうですし、テクニカルな部分でいうと戦術や連係プレーなどもクラブの色がより濃くなってきました。選手の力も、チームの力も上がっていると思います。

——昨シーズンはクラシエカップでサンフレッチエ広島レジーナが2連覇を飾り、リーグ戦では日テレ・東京ベレーザが初優勝を遂げました。

**海堀** カップ戦は接戦が続きましたし、リーグ戦は最終節まで3チームに優勝の可能性が残る大接戦でした。チームのレベル差もほとんどなくなってきました。

——サッカーに集中できる環境ができたことが大きいでしょうか。

**海堀** 以前は、仕事をしながらサッカーをしていた選手がほとんどでした。仕事とサッカーを両立する生活では、体のケアなどに向

き合う時間が少なかった。でも、サッカーに専念できるプロという環境ができたことで、24時間をどう自分の体のために使うかをみんなが考えるようになりました。試合でピッチから選手たちの様子を見ていると、「めっちゃくちゃ良い体してるやん」ってなるんですよ(笑)。もちろんプロは厳しい世界ですので、サッカー選手として活躍し続けるために何をしなければならぬか、という部分はよりシビアになっています。

——意識の変化も大きいですね。

**海堀** そうですね。プロとしてどうありたいかという意識が、競技面やWE ACT I O N(理念推進活動)の取り組み、普段の振る舞い



「多くの人に応援してもらってプレーできる環境は特別に幸せなこと。同時に、選手を応援する側になって「応援する方もこんなに幸せなんだ」と今まで感じたことのない充実感を知ることでもできた」と海堀さんは話す

2024年2月には「REAL WE LIFE」と題してGK体験会を開催。「テーマはGKを楽しんでもらうこと。プロ選手が実際にプレーするピッチでゴロゴロしながら体験してもらった」(海堀さん)。イベント後はEL埼玉 vs S広島Rの試合も観戦



にも表れてきています。自分自身をどうブランディングしていくか、という部分も選手それぞれにあるのかなと。ピッチ上で素晴らしいパフォーマンスを見せることが選手の価値にもつながりますし、それによってWEリーグもより強く魅力的になっていきますので、競技としてのサッカーの面白さや魅力は、リーグとしてさらに追求していきたい部分です。

——WEリーグの理念の実現に向けて、クラブ、選手、パートナー各社と共にWE ACTIONも積極的に進められています。

**海堀** 例えば、多様性というテーマ一つとっても、クラブの取り組み

は多岐にわたり、面白いですね。ピッチ上とはまた違った選手の一面を見ることがするのも楽しみの一つです。

定期的に開催しているWE ACTION MEETINGでは、リーグ、チーム、パートナー各社、選手が集まってスポーツを通じた社会課題の解決に向けて議論を交わしています。パートナー各社にわれわれの思いを伝え、われわれもパートナー各社の思いを知ることのできる貴重な機会となっていて、皆さんの熱い思いやエネルギーを感じます。良いエネルギー交換ができていますので、それを形に変えていくことが私たちの役割。子どもからお年寄りまで、性別も障がいも関係なく、いろいろな人を巻き込んでさまざまなアクションを起こしていきますので、WEリーグの大きな魅力として、これからも皆さんと連携して取り組んでいきます。

——昨年4月には「REAL WE LIFE」と題して、「海堀あゆみと一緒にゴールキーパー体験&夢について考えよう！」が開催されました。発起人は海堀さんですか。

**海堀** その前の2月に開催されたALL WE ACTION DAYで、元

日本女子代表の山郷のぞみさん(現、ちふれASエルフェン埼玉ヘッドコーチ兼GKコーチ)や現役のGKたちに会い、会話をする中でアイデアが生まれました。女子サッカーはGKが少ないことがずっと課題で、痛そうとか単純にやりたくないといったいろいろな理由があります。あと小学生や中学生は、男の子たちに交じってサッカーをしている女の子もいて、GKをする機会が少ない。でも、GKってすごく大事なポジションなんです。良いGKがいれば失点を防ぐことができますからね。GKの成長には経験の差も影響してくるので、まずはタッチポイントを増やしたいという思いから、パーソルグループさん(WEリーグシルバートナー)に協力いただいで開催しました。

——女の子も男の子も楽しそうでしたし、参加者全員にGKグローブがプレゼントされました。

**海堀** 私自身も楽しくて開催して良かったと思います。グローブは絶対みんなにプレゼントしたい、という私の願いをパーソルグループさんがかなえてくれました。私がGKを始めたとき、コーチがグローブを買ってくれたんです。それがすごくうれしくて、マイグロブがモチベーションの一つになりました。みんなにもマイグ

ローブで楽しんでGKを続けてほしいと思います。

### クラブの世界大会も新設 新ヒロイン誕生にも期待

——今年4月にはなでしこリーグ(日本女子サッカーリーグ)の理事長に就任されました。

**海堀** 具体的な取り組みはこれから検討していきますが、WEリーグとなでしこリーグはそれぞれに魅力があります。両方が輝いてこそ、女子選手の選択肢も増えますので、両方の魅力を大事にしながら日本サッカーの普及を支え、盛り上げていけたらと思います。

——5シーズンを迎えるWEリーグに期待することをお聞かせください。

**海堀** 今シーズンは、監督も選手も大きく動きました。各チームの顔触れが変わったので、どこが台頭してくるかは開幕してみなければ分かりません。それぞれどのような戦いを見せてくれるのか楽しみです。アジアの女子クラブチャンピオンを決めるAFC Women's Champions League (AWCL) も始まり、26年からFIFA女子チャンピオンズカップ、28年からはFIFA女子クラブワールドカップが開催されることも決まっています(※)。これまでに世界と戦う

舞台はナショナルチームにしかありませんでしたが、クラブとして世界一を目指すことができる。選手や応援している人たちのモチベーションも変わってくると思うんです。そして、実際に世界と日本でどれくらい力の差があるのか、やってみなければ分かりません。

私は、WEリーグのクラブには世界で勝てる力があると思っていますし、選手たちにはそれを証明してほしい。今シーズンは東京NBがAWCLに出場しますのでアジアナンバーワンに期待したいと思います。

(※)FIFA女子チャンピオンズカップは26年11〜2月に第1回大会が開催予定(FIFA女子クラブワールドカップがない年に開催)。FIFA女子クラブワールドカップは4年に1度開催され、第1回は28年11〜2月開催予定。

——どのクラブ、どの選手が活躍を見せてくれるのか楽しみです。

**海堀** 毎年ヒロインが出てきますから、今シーズンは誰がヒロインになるのか、その点も楽しみです。ヒロインは何人出てきてもいいですからね(笑)。WEリーグで選手たちが輝けるように、子どもたちの憧れの場所であり、存在であり続けられるようにリーグの発展に尽力していきたいと思っています。WEリーグから、なでしこジャパンや世界で活躍できる選手がどんどん出てきてくれることを期待しています。



©2025 adidas Japan K.K. adidas, the 3-Bar logo, the 3-Stripes mark, Predator, F50, Y-3 and Climacool are trademarks of adidas, used with permission.

2025 FIFA主要大会 公式試合球

CONEXT 25

コネクト 25

# 読者プレゼント

応募締切：2025年8月15日(金)当日消印有効

## アディダス ジャパン(株) 提供

日本サッカー協会のオフィシャルサプライヤーであるアディダスジャパン(株)より、「TIROシューズバッグ(NS、ブラック/ホワイト)」を1名様にプレゼント。



サンリオ マスコットボールチェーン  
サッカー日本代表Ver.

## JFA STORE 提供

「JFA STORE」は、日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーンや目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページもご用意しました。今号では「サンリオ マスコットボールチェーン サッカー日本代表Ver.」全11種のうち2種を各2名様(マスコットの種類は選べません)、また「キャプテンアームバンド」を大人用とキッズ用を1つずつセットで計4名様(色は選べません。商品詳細は56ページ参照)にプレゼントします。



<https://official-store.jfa.jp/>



キャプテンアームバンド

JFA STORE

## プレゼント応募方法

### ■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/535pGvc73z21Zrrr5>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



### ■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル  
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部  
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。発送は2025年9月中旬から下旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいたはがきは返却しません。

## JFA公式アプリ JFA Passport

全てのサッカーファミリーのためのJFA公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼント情報を紹介

<https://www.jfa.jp/jfapassport/>



【サッカークイズを毎月更新中】

7月のトピックス予定：

東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国(男子編)

社会貢献活動(アスパス!)関連

◎サッカーのルールを学べるクイズも配信中!

## JFA DREAM FUND

JFAの基金窓口を開設。寄せられた寄付金はJFAの理念やビジョンに基づき、主にサッカーの普及や日本代表のさらなる強化に使用します。

<https://jfa.jp/dream-fund/>



## JFAクラウドファンディング ～みんなの夢を応援しよう!

JFAがCAMPFIREと共に提供するサッカーに特化したクラウドファンディングサイトです。

<https://jfa.camp-fire.jp/>



### <起案者のメリット>

- ✓ お得にクラウドファンディングを実施できる
- ✓ サッカー専用の無料セミナーがあり、初めてでも安心して始められる
- ✓ サッカーに関心がある人が集まるJFA公式サイトに掲載できる

### <支援者のメリット>

- ✓ さまざまなサッカー活動の夢と挑戦を応援することができる
- ✓ サッカーに関連するリターンを得ることができる

## 公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

# JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

編集：編集長 多田寛

JFAnews編集部/(株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2025年8月情報号は、2025年8月22日発売予定

## [特集]指導者ライセンスの意義(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

### ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

[https://req.qubo.jp/jfa\\_coach/form/entry](https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry)



・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

### チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>





サッカーのチカラで、  
日本中を笑顔に。



**KIRIN** キリンはサッカーを愛するすべての人を応援しています。

2024年11月SAMURAI BLUE招集メンバー/2024年10月までしこジャパン招集メンバー/6J



発行人 堀川和之  
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004  
東京都文京区後楽1丁目4-18 1304東京ビル  
電話03(2018)1990(代)



アシアシア!

定価600円(本体545円)